令和 5 年度
全国学力・学習状況調査
山梨県学力把握調査
山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査

授業改善のPoint

各種学力調査の結果を踏まえた
授業改善・充実に向けて



令和５年１０月
山梨県総合教育センター

★目次★

～全国学力・学習状況調査～

P.6～　　調査結果の概要及び授業改善のポイント

①小学校　国語　P.２２～　　③中学校　国語　P.３４～
②小学校　算数　P.２８～　　④中学校　数学　P.４０～
⑤中学校　英語　P.４６～

～山梨県学力把握調査～

P.５２～　　調査結果の概要及び授業改善のポイント

①中学校国語　P.５４～　②中学校数学 P.５８～　③中学校英語 P.６２～

～山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査～

P.６６～　　調査結果の概要及び授業改善のポイント

①小学校　社会　P.６８～　　③中学校　社会　P.７６～
②小学校　理科　P.７２～　　④中学校　理科　P.８０～

令和５年度全国学力・学習状況調査の結果の概要を公開しています

※公開するURLは，次の2か所です。

https://www.pref.yamanashi.jp/gimukyo/

山梨県教育委員会義務教育課のページ「義務教育課」→「教育指導担当」(各教育施策等のページ)
→「全国学力・学習状況調査」

https://www.ypec.ed.jp

山梨県総合教育センターのホームページの「トップページ」→「授業改善のための各種資料」→「各種学力調査の結果概要」
※「令和５年度山梨県学力把握調査結果の概要」「令和５年度山梨県公立小中学校教育課程実施状況調査の概要」についてもご覧いただくことができます。

「調査結果を踏まえた授業改善」を考える

１．課題のある設問に着目する

①全国平均正答率や県平均正答率との差が大きい設問、正答率の低い設問、無解答率の高い設問等に着目します。

２．反応率の高い誤答に着目する

②解答類型の反応率から誤答の状況（児童生徒はどこでつまずいているのか）をつかみます。

３．誤答から児童生徒の実態をつかむ

③誤答の原因（どのような課題があるのか）を考えます。

４．児童生徒の実態を踏まえて授業をつくる

④調査対象学年だけでなく、教科や学年間の系統性等を考慮し、それぞれの学年で取り組むべきことを明らかにします。

⑤本冊子「授業改善のＰｏｉｎｔ」や「授業づくりのヒント」、国の調査資料（解説資料、報告書、授業アイディア例）等を参考にして、指導の改善・充実を図りましょう。



各種調査結果を踏まえた**授業改善のポイント**を掲載



全国学調に出題されている**調査問題の趣旨、学習指導要領との関連について**詳しく解説



本県児童生徒の解答結果を踏まえた**授業づくりのヒント**を掲載



全国学調の結果からみられる傾向と授業アイディア例を掲載

問題別調査結果の見方

（全国学力・学習状況調査の例）

山梨県における各教科の調査を項目ごとにまとめた一覧表です。
◇対象学校数、児童・生徒数
◇学習指導要領の内容の平均正答率の状況
◇問題別集計結果

この部分は、調査問題と学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式を照らし合わせた表です。

令和５年度全国学力・学習状況調査　　小学校調査

問題別調査結果　［算数］

山梨県－児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、４月１８日に実施した調査の結果を集計した値である。

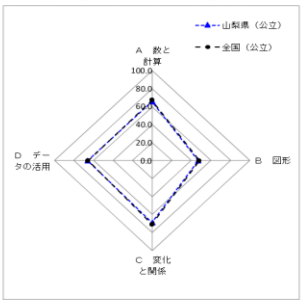
集計結果

対象学校数	山梨県（公立）	全国（公立）	対象児童数	山梨県（公立）	全国（公立）
	167	18,615		5,818	984,350

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%） 山梨県（公立）	全国（公立）
全体		16	61	62.5
学習指導要領の領域	A　数と計算	6	65.9	67.3
	B　図形	4	47.4	48.2
	C　測定	0		
	C　変化と関係	4	68.8	70.9
	D　データの活用	3	65.8	65.5
評価の観点	知識・技能	9	66.3	67.2
	思考・判断・表現	7	54.9	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	58.7	57.7
	短答式	7	73.7	74.7
	記述式	4	45.4	47.3

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域 A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	評価の観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	問題形式 選択式	短答式	記述式	正答率（%） 山梨県（公立）	全国（公立）	無解答率（%） 山梨県（公立）	全国（公立）
１（１）	５脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				4(1) ア(ア)		○				○		92.6	93.5	1.0	0.8
１（２）	椅子の数が２倍になっても、高さは２倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5(1) イ(ア)			○			○		87.9	88.5	0.8	1.0
１（３）	椅子４脚の重さが７ｋｇであることを基に、４８脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5(1) イ(ア) 5(2) イ(ア)			○				○	51.3	55.5	2.8	3.4
１（４）	全部の椅子の数を求めるために、５０×４０を計算する	一の位が０の二つの２位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3(3) ア(ア)					○				○		80.8	80.8	1.0	1.2
２（１）	テープを２本の直線で切ってできた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○			○			81.7	58.8	0.5	0.7
２（２）	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		2(1) ア(イ) 4(1) ア(ア)				○				○		88.6	87.2	2.2	2.9
２（３）	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときの∠Ａの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		3(1) ア(ア) 5(1) ア(イ)				○				○		20.9	24.9	2.8	3.7
２（４）	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる				6(3) イ(ア)			○				○	18.4	20.8	2.8	4.0
３（１）	２種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	（　）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4(3) イ(ア)						○		○			68.9	70.3	1.1	1.4
３（２）	３種類のファイル２３人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3(5) ア(イ) 4(3) ア(ア) 7(2) イ(ア)						○				○	55.2	56.7		4.0
３（３）	（１５１＋４９）×３と１５１×３＋４９×３を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4(5) ア(ア) 4(7) ア(ア)					○				○		68.7	72.4	1.6	2.5
３（４）	６６÷３の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	（２位数）÷（１位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	3(4) イ(ア) 4(3) イ(ア)														3.9
４（１）	示された基準量と比較量から、割合が３０％になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる															2.4
４（２）	運動カードから、運動した時間の合計が３０分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる															4.3
４（３）	二つのグラフから、３０分以上の運動をした日数が「１日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる															13.8
４（４）	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる															4.9

この部分は、各問題と学習指導要領の内容、評価の観点、山梨と全国の平均正答率、無解答率等を示しています。問題に対する平均正答率を示しているので、例えば、問題番号２（２）では、「正方形の意味や性質について９割近くの児童が理解しており、全国の割合を上回っている。」というように、具体的な分析につなげることができます。

平均正答率だけでなく、無解答率にも着目することで、児童・生徒の課題がみえてきます。

課題をより明らかにできます！！

全国学力・学習状況調査 **自校採点** に取り組んでみませんか

◇全国学力・学習状況調査について

一つ一つの問題には、「児童生徒にこの資質・能力を付けたい！」というメッセージが込められています。問題の背景にあるものは、**「児童生徒に付けたい資質・能力」**です。

◇自校採点の目的、趣旨

児童生徒の解答を**「解答類型」**に分けることで、児童生徒の考えていること、つまずいていることが見えてきます。



児童生徒理解につながる！

育成したい資質・能力が明確になり、授業の組立てが変わる！

学校全体でかかわることで、より多くの教師の授業力がアップする！

⇒学校全体で授業改善・充実に向けて取り組むことになります。

「解答類型」とは？

児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。

解答類型

問題番号		解答類型		正答
1		1	$2\times3\times7$ と解答しているもの。（かけ算の順序は不問。以下同様。）	◎
		2	2×21 と解答しているもの。	
		3	3×14 と解答しているもの。	
		4	6×7 と解答しているもの。	
		5	因数に1を含んでいるもの。	
		6	42をいくつかの数の和の式で表し解答したもの。	
		99	上記以外の解答	
		0	無解答	

これが類型番号

（国立教育政策研究所「解説資料」より）



◇総合教育センターでは

県内の採点抽出校の解答を早期に採点し、山梨県の成果と課題を把握しています。リーフレット「授業づくりのヒント」では、早期採点を通して把握した課題に対して、授業改善に向けた授業アイディアの一例を示しています。

本調査で見られた課題は、調査の対象学年だけではなく、学校全体で組織的・継続的な取組によって改善を図っていくことが大切です。

リーフレット「授業づくりのヒント」が、日々の授業や研修会などで活用され、児童生徒の学習状況の改善につながることを期待しています。

◇自校採点の進め方

※「自校採点の進め方」の資料は、校務支援システムのキャビネット、総合教育センター調査研究課のフォルダからダウンロードできます。

用意するもの

・解答用紙のコピー

・解説資料（国立教育政策研究所HPで公開されています）

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html



採点の仕方　～解答類型に分ける～

1. 児童生徒の**解答を確認**する。
2. **「解説資料」**の解答類型表を見て、該当する**類型番号を確認**する。
3. 解答欄に**類型番号を記入**する。

1．児童・生徒の解答を確認する

令和５年度　全国学力・学習状況調査　中学校数学より

3　空間における平面が１つに決まる場合について正しく述べたものを、下のアからエまでの中から１つ選びなさい。

ア　１点をふくむ平面は１つに決まる。

イ　２点をふくむ平面は１つに決まる。

ウ　１つの直線上にある３点をふくむ平面は１つに決まる。

エ　１つの直線上にない３点をふくむ平面は１つに決まる。



生徒Aの解答	生徒Bの解答	生徒Cの解答	生徒Dの解答
ア	エ	○	
			（空欄のまま）

2．解説資料の解答類型表を見て、該当する類型番号を確認する

解答類型

問題番号	解答類型	正答
3	1　ア　と解答しているもの。	
	2　イ　と解答しているもの。	
	3　ウ　と解答しているもの。	
	4　エ　と解答しているもの。	◎
	99　上記以外の解答	
	0　無解答	

これが類型番号

3．解答欄に類型番号を記入する

生徒Aの解答	生徒Bの解答	生徒Cの解答	生徒Dの解答
ア	エ	○	
1	④	99	（空欄のまま）0

解答類型

問題番号	解答類型	正答
3	1　ア　と解答しているもの。	
	2　イ　と解答しているもの。	
	3　ウ　と解答しているもの。	
	4　エ　と解答しているもの。	◎
	99　上記以外の解答	
	0　無解答	

・正答の場合は、類型番号を記入し、○をする。

・誤答の場合は、類型番号を記入したままにする。

記述式の場合

類型分けの基本は、記述の場合でも同じ！

・準正答(○)も正答(◎)と同様にして、類型番号に○をする。

・生徒の解答状況をよく読み取り、できるかぎり類型９９以外に振り分ける。

・類型分けの判断が難しいときは、同僚と相談しながら進める。



◇児童生徒のつまずきの把握

つまずきのある問題を把握する視点の例

○解答類型（誤答）に特徴がある。

○正答率が低い。　など

「解答類型について」の一例

■解答類型について

○　除法の筆算について、他の学習内容と関連付けて、計算の仕方について捉え直すことがで きるようにすることが大切である。

本設問では、（2位数）÷（1位数）の筆算について、計算に関して成り立つ性質や図を 基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかを問うている。

ここでは、筆算の商 の十の位にたてた「2」が、60÷３の計算をした結果を表していると捉えるために、66÷３ の筆算を図と関連付けて考察することが必要である。

○【解答類型１】は、十の位にたてた「2」を図と関連付けて考えることができず、被除数 である 66 に着目し、60＋６の計算をした結果であることから、あを選択していると考えられる。

…　（R５年度小学校算数「解説資料」P51）

冊子「解説資料」の中に、**「解答類型について」**（予想される解答から、身に付いている力や考えられるつまずき等を記述）が記載されています。

「解答類型について」を参考に、児童生徒のつまずきを把握することができます。

※「解説資料」は、国立教育政策研究所ホームページから、ダウンロードできます。





全国学力・学習状況調査

調査結果の概要

授業改善 の Point

令和５年度

全国学力・学習状況調査結果の概要について

山梨県教育委員会

１　調査の概要

（１）実施日　令和５年４月１８日（火）

（２）目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（３）調査事項

①教科に関する調査（国語、算数・数学、英語〔中学校〕）

※中学校英語は４年ぶり実施（前回調査は平成３１年度）
「話すこと」に関する調査は、１人１台端末等を用いたオンライン方式により実施

・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

イ）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記ア）とイ）を一体的に問うこととする。

②学習環境や生活の諸側面等に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査及び学校に対する調査

（４）対象　小学校第６学年、特別支援学校小学部第６学年
中学校第３学年、特別支援学校中学部第３学年の全児童生徒

（５）県内(公立学校)の実施状況

	公立小学校	特別支援学校 小学部	公立中学校	特別支援学校 中学部	合　計
学校数 (分校含む)	165 校	2 校	80 校	3 校	250 校
児童生徒数	5,911 人		5,732 人		11,643 人

２　結果の概要

（１）教科に関する調査

○令和５年度教科別調査結果（平均正答率及び平均正答数）

全体的に見て、全国平均正答率との差が±３ポイント以内であり、大きな差は見られない。

〈小学校〉

国語、算数において、全国平均正答率を下回ったが、国語においてはその差が前回調査より縮まった。

〈中学校〉

国語において、全国平均正答率を上回る結果を維持しており、数学、英語においては、全国平均正答率を下回った。

令和５年度　本県の調査結果（公立）

	小学校調査		中学校調査		
	国語	算数	国語	数学	英語
平均正答数（本県）問	9.3/14	9.8/16	10.5/15	7.5/15	7.3/17
平均正答数（全国）問	9.4/14	10.0/16	10.5/15	7.6/15	7.7/17
平均正答率（本県）％	66	61	70	50	43
平均正答率（全国）％	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
全国平均正答率との差	-1.2	-1.5	0.2	-1.0	-2.6

令和４年度　本県の調査結果（公立）

	小学校調査		中学校調査		
	国語	算数	国語	数学	英語 （平成31年度）
平均正答数（本県）問	8.9/14	9.9/16	9.8/14	7.1/14	11.6/21
平均正答数（全国）問	9.2/14	10.1/16	9.7/14	7.2/14	11.8/21
平均正答率（本県）％	64	62	70	51	55
平均正答率（全国）％	65.6	63.2	69.0	51.4	56.0
全国平均正答率との差	-1.6	-1.2	1.0	-0.4	-1.0

※県平均正答率については、平成29年度から整数値で公表（全国共通）しているため、実際の差との数値が異なる場合がある。

※後日実施した学校のデータは、全体の集計からは除外されている。（全国共通）

※国立教育政策研究所の令和５年度全国学力・学習状況調査報告書には、「全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10％の範囲内であり、大きな差は見られない。」と表記されている。

※中学校英語に関する調査について

・調査結果は、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の合計を集計している。

・「話すこと」については、１人１台端末等を用いたオンライン方式により実施し、文部科学省が指定する一部の学校（当日実施校）で実施した結果から全国値を推定し公表しており、調査結果には含まれておらず、都道府県別、指定都市の公表は行われない。

英語「話すこと」に関する調査の結果（当日実施校の結果から推定される全国値）
平均正答数　0.6 問/5 問　　平均正答率　12.4%

（２）質問紙調査

①児童生徒質問紙調査

○児童生徒質問紙調査においては、これまで肯定的な回答の多かった、学習に対する興味関心・規範意識・自己有用感・生活習慣に関する項目について、全国平均と比べて引き続き高い傾向にある。

・児童生徒共通して、「国語の勉強は好きだ」等、国語・算数（数学）・英語の学習に対する興味関心に関する項目で、全国平均を上回っている。

小　+2.2 ポイント(山梨 84.7%　全国 82.5%)　＜R4 山梨 84.8%　全国 82.6%＞
中　+0.2 ポイント(山梨 75.6%　全国 75.4%)　＜R4 山梨 78.0%　全国 75.3%＞

・児童生徒共通して、「人が困っている時には進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」等の規範意識に関する項目で、全国平均を上回っている。

小　+1.1 ポイント(山梨 95.9%　全国 94.8%)　＜R4 山梨 95.0%　全国 93.6%＞
中　+1.9 ポイント(山梨 94.6%　全国 92.7%)　＜R4 山梨 95.0%　全国 93.3%＞

・児童生徒共通して、「自分にはよいところがある」「将来の目標を持っている」等の自己有用感に関する項目で、全国平均を上回っている。

小　+2.3 ポイント(山梨 87.2%　全国 84.9%)　＜R4 山梨 84.7%　全国 82.1%＞
中　+3.0 ポイント(山梨 80.9%　全国 77.9%)　＜R4 山梨 81.1%　全国 77.5%＞

・児童生徒共通して、「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」等の生活習慣に関する項目で、全国平均を上回っている。

小　+2.5 ポイント(山梨 91.0%　全国 88.5%)　＜R4 山梨 91.0%　全国 88.8%＞
中　+1.3 ポイント(山梨 88.1%　全国 86.8%)　＜R4 山梨 89.3%　全国 88.0%＞

※前年度よりも改善が見られた主な項目

○児童生徒共通して、「５年生までに（１、２年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか【週３回以上】」という調査項目で、今年度、小学校では 1.1 ポイント、中学校では 6.7 ポイント全国平均を上回る結果となり、前年度より使用する割合が高くなった。

小　+1.1 ポイント(山梨 63.5%　全国 62.4%)　＜R4 山梨 54.7%　全国 58.2%＞
中　+6.7 ポイント(山梨 67.8%　全国 61.1%)　＜R4 山梨 50.3%　全国 50.9%＞

②学校質問紙調査

○学校質問紙調査においては、生徒指導、教職員の資質能力の向上、ICT を活用した校務の効率化に関する項目について、全国平均を上回った。

・小学校中学校共通して、生徒指導に関する項目で、全国平均を上回っている。
小　+1.1 ポイント(山梨 92.8%　全国 91.7%)　＜R4 山梨 92.5%　全国 91.7%＞
中　+0.8 ポイント(山梨 96.0%　全国 95.2%)　＜R4 山梨 98.5%　全国 96.6%＞

・小学校中学校共通して、教職員の資質能力の向上に関する項目で、全国平均を上回っている。
小　+4.1 ポイント(山梨 94.6%　全国 90.5%)　＜R4 山梨 90.2%　全国 85.8%＞
中　+7.8 ポイント(山梨 94.3%　全国 86.5%)　＜R4 山梨 90.3%　全国 81.4%＞

・小学校中学校共通して、ICT を活用した校務の効率化に関する項目で、全国平均を上回っている。
小　+0.4 ポイント(山梨 97.6%　全国 97.2%)　＜R4 山梨 90.2%　全国 85.8%＞
中　+0.2 ポイント(山梨 97.0%　全国 96.8%)　＜R4 山梨 90.3%　全国 81.4%＞

○学校質問紙調査においては、家庭や地域との連携等、小学校教育と中学校教育の連携に関する項目について、全国平均を下回った。

・小学校中学校共通して、家庭や地域との連携等に関する項目で、前年度よりも改善が見られるものの、依然として全国平均を下回っている。特にコミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の仕組みを生かした取組に関しては、今後も継続して改善に取り組む必要がある。
小　-0.2 ポイント(山梨 77.2%　全国 77.4%)　＜R4 山梨 73.1%　全国 74.2%＞
中　-10.1 ポイント(山梨 66.2%　全国 76.3%)　＜R4 山梨 63.9%　全国 74.9%＞

・小学校中学校共通して、小学校教育と中学校教育の連携に関する項目で、前年度より改善が見られるものの、すべての項目で全国平均を下回っており、特に中学校における取組状況の改善を図る必要がある。
小　- 2.2 ポイント(山梨 55.3%　全国 57.5%)＜R4 山梨 45.8%　全国 48.5%＞
中　-10.7 ポイント(山梨 52.2%　全国 62.9%)＜R4 山梨 50.2%　全国 55.6%＞

※前年度よりも改善が見られた主な項目

○小学校中学校共通して、「前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか【週３回以上】」という調査項目で、前年度より改善が見られた。
小　-3.8 ポイント(山梨 86.8%　全国 90.6%)　＜R4 山梨 80.3%　全国 85.1%＞
中　+2.4 ポイント(山梨 89.1%　全国 86.7%)　＜R4 山梨 88.0%　全国 81.2%＞

3　令和５年度の学力向上に向けた取組

≪年間を通じた取組≫

１　学力向上総合対策事業の推進

○学力向上推進事業（学力向上対策会議、学力向上フォーラム、学力向上キャラバン）
○山梨県学力把握調査事業（中２国数英）
○学力向上支援スタッフ配置事業、スクール・サポート・スタッフ配置事業
○英語教育改善プラン推進事業
○教科担任制推進事業
○新たな学びの姿に向けた授業改善推進事業
○家庭学習習慣化促進事業
○若手教員グローアップ事業
○教育 DX 推進に向けた人材育成事業
○中学生のための DX 学習プログラミング体験事業

２　やまなしスタンダードの推進

・「やまなしスタンダード～授業づくりの７つの視点～」のもと、県全体での授業づくりの取組の推進

３　地域の実態に応じた取組の実施

・地域学力向上推進幹を中心とした、各地域の特色や課題に焦点を当てた学力向上対策の推進

４　指導主事による学校訪問

・市町村、学校毎の状況を把握し、指導改善の取組の周知・徹底

５　県内市町村におけるコミュニティ・スクールの拡大・充実

・国の補助金事業や「CS マイスター派遣事業」等の活用、担当指導主事による要請訪問等を通じたコミュニティ・スクールの円滑な設置の支援
・文部科学省主催「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」開催についての周知

≪調査実施後の取組≫

６　県教委による採点及び各種説明会を通じた早期の授業改善の推進

・自校採点の方法等についての資料を校務支援システムにて配付（各校の課題把握のための自校採点を促し、課題克服に向けた早期の授業改善につなぐ）
・小中学校の答案を総合教育センター指導主事（小・中・高）が採点し、課題の見られた問題を基に、授業改善に向けた資料を作成し配付
・誤答から考えられる課題と、課題克服に向けた授業改善のポイントをまとめた冊子の配付、早期の授業改善を促進
・授業改善のための組織的な対応を促すため、全国学力・学習状況調査の早期採点の結果を踏まえた「授業改善・充実に向けた説明会Ⅰ」をオンラインにて開催（小・中同日：５月３１日）

≪結果を踏まえた今後の取組≫

7　「学力向上フォーラム２０２３」の開催

・全国学力・学習状況調査より明らかになった課題、学校での学習と学力向上対策等についての指導主事による説明
・大学の教授を講師に招聘して、「ICT の最大限の活用により全ての子どもの主体的な学びを保障する」をテーマにしたグループ・ディスカッション、実践発表及びワークショップの実施

8　学力調査の分析結果を反映させた説明会の実施

・本県児童生徒の学力調査における実態と課題を共有するため、各種学力調査（全国学力・学習状況調査、山梨県学力把握調査、山梨県教育課程実施状況調査）の結果を踏まえた「授業改善・充実に向けた説明会Ⅱ」をオンラインにて開催（小・中同日：８月２９日）
・各種研修会や学校要請訪問の中で、分析結果をもとにした授業改善の取組を説明

9　ICT を活用した指導の充実に向けた組織的な取組

・効果的な ICT 活用の在り方について学習する研修会の開催
・全国学力・学習状況調査の ICT に関わる問題についての説明
・教育課程研究会の成果物の周知
・個人用端末を用いた家庭学習につなげられる学習教材の作成・配信

10　「授業改善の Point」の冊子の作成・配付

・授業改善に向けた取組を推進するため、全国学力・学習状況調査、山梨県学力把握調査、山梨県教育課程実施状況調査を踏まえた授業改善の冊子を小学校４教科(国・算・社・理)、中学校５教科(国・数・英・社・理)で作成し、各校に配付
・校務支援システムのキャビネットからダウンロードできるようにし、各校へ周知
・指導主事による学校訪問等での周知・徹底

11　学級経営の充実に向けた取組を引き続き県全体で推進

・児童生徒が所属感、自己有用感を持つことができるよう、集団としての意見をまとめたり、個人として問題解決に向けた目標や方法・内容等を決定したりする活動を引き続き県全体で推進

12　「ピックアップ問題」の作成と配信・活用促進

・全国学力・学習状況調査の結果を受け、課題が見られた問題をピックアップ問題としてまとめ、校務支援システムのキャビネットからダウンロードできるようにし、各校での活用を促進
・全国学力・学習状況調査の CBT 化を踏まえ、ピックアップ問題と併せて MEXCBT（メクビット）の活用を促す取組の実施

※MEXCBT は、文部科学省が開発した、児童生徒が学校や家庭において、学習やアセスメントができる CBT システム。

参考資料

１．各教科の概要

以下の３つの視点から分析を行った。

正　正答率が高いまたは低い主な設問
差　全国の正答率と差が見られる主な設問
経　経年比較で成果や課題が見られる主な設問

小学校

教科	よくできている設問（○） 課題がある設問（△）		正答率（%）		調査結果のポイント
			山梨県	全国	
国語	○ 正 経	相田さんが選んだ【資料１】と【資料２】に書かれている内容として適切なものを選択する[2一]	90.7	90.0	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができている。
	△ 正	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く[1二]	26.4	26.7	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
算数	○ 正	椅子の数が２倍になっても、高さは２倍になっていないことについて、表の数を使って書く[1 2]	87.9	88.5	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができている。
	△ 正	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く [2 4]	18.4	20.8	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかに課題がある。

中学校

教科	よくできている設問（○） 課題がある設問（△）		正答率（%）		調査結果のポイント
			山梨県	全国	
国語	○ 正 差	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く〔1四〕	85.7	82.5	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができている。
	△ 正 経	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く〔4三〕	50.5	50.0	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。
数学	○ 正	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が２、たす数が３のときの計算結果を求める〔6（1）〕	88.3	88.9	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができている。
	△ 正	２つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する〔9（1）〕	31.9	32.1	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。
英語	○ 正	環境問題について書かれた英文を読み、事実と考えを区別し、考えが書かれている英文を選択する〔5(2)〕	64.7	64.5	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができている。
	△ 正 差	メール文を読んで、その間違いに気づき、「相手の行動を促」し、依頼する英文に書き直す〔9(2)〕	22.8	29.0	言語の働きを理解し、目的や場面・状況に応じた表現を正確に書くことに課題がある。

２．生活習慣や学習環境等に関する調査の本県の結果

【質問内容の番号は各質問紙の設問番号を表す】

（１）児童生徒質問紙調査

※肯定的な回答の割合が比較的高い項目

＜上段：本県回答率　　下段：全国平均との差＞

＜数値は肯定的な回答をした児童生徒の割合を表す＞

質問項目		小学校	中学校
①学習に対する興味・関心や授業の理解度等：国語・算数（数学）・英語の12項目の平均		**84.7%**	**75.6%**
		2.2	**0.2**
①-１国語に対する興味・関心や授業の理解度等：４項目の平均		86.2%	83.5%
		2.6	2.9
（４３） （４７）	国語の勉強は好きですか	65.5%	64.2%
		4.0	2.8
（４４） （４８）	国語の勉強は大切だと思いますか	95.3%	94.1%
		1.1	1.7
（４５） （４９）	国語の授業の内容はよく分かりますか	89.3%	84.7%
		3.6	4.7
（４６） （５０）	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94.7%	90.8%
		1.9	2.1
①-２算数（数学）に対する興味・関心や授業の理解度等：４項目の平均		83.9%	70.5%
		1.4	-2.2
（５１） （５５）	算数（数学）の勉強は好きですか	62.9%	51.0%
		1.5	-5.7
（５２） （５６）	算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	94.9%	84.3%
		0.7	-0.7
（５３） （５７）	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	83.2%	71.8%
		2.0	-1.5
（５４） （５８）	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94.6%	75.0%
		1.3	-0.8
①-３英語に対する興味・関心や授業の理解度等：４項目の平均		83.5%	72.8%
		3.2	0.0
（５５） （５９）	英語の勉強は好きですか	74.5%	49.1%
		5.2	-2.8
（５６） （６０）	英語の勉強は大切だと思いますか	92.5%	88.9%
		1.2	0.9
（６１）	英語の授業の内容はよく分かりますか		64.8%
			0.9
（６２）	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか		88.5%
			1.0
②規範意識：３項目の平均		**95.9%**	**94.6%**
		1.1	**1.9**
（８）	人が困っているときは、進んで助けていますか	93.8%	92.4%
		2.2	4.3
（９）	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.5%	96.2%
		0.6	0.7
（１１）	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.5%	95.2%
		0.6	0.6

③自己有用感：３項目の平均		**87.2%** **2.3**	**80.9%** **3.0**
（4）	自分には、よいところがあると思いますか	85.0% 1.5	82.6% 2.6
（5）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.7% 2.9	91.2% 3.9
（7）	将来の夢や目標を持っていますか	84.0% 2.5	68.9% 2.6
④生活習慣：３項目の平均		**91.0%** **2.5**	**88.1%** **1.3**
（1）	朝食を毎日食べていますか	95.2% 1.3	91.4% 0.2
（2）	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	85.1% 4.1	80.5% 2.5
（3）	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.8% 2.3	92.5% 1.2
その他（90%を超える主な項目）			
（３０） （３４）	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	96.6% 1.5	95.4% 2.1

※前年度よりも改善が見られた項目

質問項目		小学校	中学校
⑤ICTを活用した学習状況			
（２９） （３３）	５年生までに（１、２年生のときに）受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか【週３回以上】	63.5% 1.1	67.8% 6.7
（３０） （３４）	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	96.6% 1.5	95.4% 2.1
（３１） （３５）	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）【30分以上】	44.9% 3.8	33.9% 2.7
参考：昨年度　ICTを活用した学習状況：６項目の平均 小学校：－2.6ポイント（山梨44.8%　全国47.4%）　中学校：－1.6ポイント（山梨40.8%　全国42.4%）			

※課題が見られた項目

質問項目		小学校	中学校
⑥中学校の学習（数学・英語）に対する興味・関心や授業の理解度等			
⑥-１数学に対する興味・関心や授業の理解度等：４項目の平均		83.9% 1.4	70.5% -2.2
（５５）	数学の勉強は好きですか	62.9% 1.5	51.0% -5.7
（５６）	数学の勉強は大切だと思いますか	94.9% 0.7	84.3% -0.7
（５７）	数学の授業の内容はよく分かりますか	83.2% 2.0	71.8% -1.5
（５８）	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	94.6% 1.3	75.0% -0.8
⑥-2英語に対する興味・関心や授業の理解度等：４項目の平均		43.8% 1.0	40.6% -1.5
（５７） （６３）	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	54.0% 1.5	34.4% -2.3
（５８） （６４）	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）	46.5% 0.0	29.5% -0.5
（５９） （６５）	家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか【週１回程度以上】	31.0% 1.5	20.2% -2.7
（６９）	１、２年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか		78.3% -0.4
参考	学校質問紙の英語科の指導方法		
（５９）	家庭学習の課題（宿題）として、児童（生徒）にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習をどの程度行わせていますか【週１回程度以上】		31.3% -4.2
（５２）	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか		81.9% -5.0

（２）学校質問紙調査

※肯定的な回答の割合が比較的高い項目

質問項目		小学校	中学校
①授業改善：11項目の平均		**88.4%**	**84.8%**
		0.5	**-1.0**
（２６）	調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	90.4%	85.5%
		1.5	-2.5
（２７）	調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	79.7%	74.7%
		0.7	-6.9
（２８）	調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	86.2%	85.5%
		-1.5	-3.3
（２９）	調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	85.7%	83.1%
		2.3	-3.1
（３０）	調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	86.2%	94.0%
		-5.2	-2.0
（３１）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	95.2%	90.3%
		2.1	-0.6
（３２）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	96.4%	95.2%
		2.1	1.0
（３３）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	91.0%	83.1%
		0.6	-3.9
（３４）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	89.3%	86.8%
		0.3	-0.9
（３５）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	86.3%	80.7%
		0.7	2.1
（３６）	調査対象学年の児童（生徒）に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか【月に数回程度以上】	86.2%	73.5%
		1.6	8.8
②生徒指導：６項目の平均		**92.8%**	**96.0%**
		1.1	**0.8**
（８）	調査対象学年の児童（生徒）は、熱意をもって勉強していると思いますか	91.0%	91.6%
		-0.1	2.9
（９）	調査対象学年の児童（生徒）は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	85.6%	97.5%
		-2.0	2.4
（１０）	調査対象学年の児童（生徒）は、礼儀正しいと思いますか	94.0%	96.4%
		4.8	2.1
（１１）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	88.7%	95.2%
		2.2	-3.4
（１２）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	98.2%	97.6%
		1.2	1.5
（１３）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	99.4%	97.6%
		0.5	-0.7

③教職員の資質能力の向上：３項目の平均		**94.6%** **4.1**	**94.3%** **7.8**
（２２）	授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	98.8% 0.3	100.0% 5.3
（２３）	児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	91.0% 2.2	91.5% 7.7
（２４）	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	94.0% 9.8	91.5% 10.4
④学校運営に関する状況（ICTを活用した校務の効率化）：２項目の平均		**97.6%** **0.4**	**97.0%** **0.2**
（１６）	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか	98.8% 0.5	97.6% -0.1
（１７）	ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか	96.4% 0.3	96.4% 0.5

※課題が見られた項目

質問項目		小学校	中学校
⑤家庭や地域との連携等：５項目の平均		**77.2%** **-0.2**	**66.2%** **-10.1**
（７０）	（小）職場見学を行っていますか【いる】	39.5% -0.1	
（７８）	（中）調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか（実施しなかった以外を集計）		48.1% -6.0
（７１） （７９）	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	87.5% 0.8	78.3% -4.9
（７２） （８０）	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	97.0% 1.1	79.5% -2.6
（７３）-1 （８１）-1	（７２）（８０）の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	80.9% 2.1	59.0% -1.7
（７３）-2 （８１）-2	（７２）（８０）の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか【取組を行わなかった】	0.0% -0.6	8.4% 5.1
（７４）-1 （８２）-1	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	80.9% -5.2	66.3% -13.0
（７４）-2 （８２）-2	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか【取組を行わなかった】	16.8% 9.2	25.3% 14.2
⑥小学校教育と中学校教育の連携：３項目の平均		**55.3%** **-2.2**	**52.2%** **-10.7**
（６７） （７５）	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	58.7% -1.9	55.4% -11.4
（６８） （７６）	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	55.1% -3.1	59.0% -8.3
（６９） （７７）	令和４年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか	52.1% -1.5	42.2% -12.5

⑦ICTを活用した学習状況

（５２） （６０）	前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのＩＣＴ機器を活用した授業を１クラス当たり、どの程度行いましたか【月に１回以上】	100.0% 2.1	98.8% 0.9
（５３） （６１）	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	96.5% 0.6	84.3% -7.2
（５４） （６２）	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	85.0% -2.4	85.6% 3.1
（５５） （６３）	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか【週３回以上】	86.8% -3.8	89.1% 2.4
（５６） （６４）	調査対象学年の児童（生徒）が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【週３回以上】	65.3% -4.7	69.9% 5.3
（５７） （６５）	調査対象学年の児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【週３回以上】	38.3% -7.5	47.0% 2.8
（５８） （６６）	教職員と調査対象学年の児童（生徒）がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【週３回以上】	39.6% -13.5	48.2% -0.5
（５９） （６７）	調査対象学年の児童（生徒）同士がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【週３回以上】	29.4% -10.6	34.9% 1.2
（６０） （６８）	調査対象学年の児童（生徒）が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【週３回以上】	36.5% -8.5	38.5% 2.8
（６１） （６９）	前年度に、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童（生徒）が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか【年１回以上】	56.3% -0.8	40.9% -9.3
（６２） （７０）	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか【どちらかといえば、活用している以上】	49.1% -13.7	63.9% 2.3
（６３） （７１）	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか【利用あり】	75.5% -5.8	69.9% -7.0
（６４）-1 （７２）-1	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（１）不登校児童（生徒）に対する学習活動等の支援【週３回以上】	30.9% -8.6	43.3% 0.9
（６４）-2 （７２）-2	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（２）特別な支援を要する児童（生徒）に対する学習活動等の支援【週３回以上】	58.0% 0.5	53.2% 2.5
（６４）-3 （７２）-3	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（３）外国人児童（生徒）に対する学習活動等の支援【週３回以上】	29.7% -10.9	27.9% -12.4
（６４）-4 （７２）-4	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（４）児童（生徒）の心身の状況の把握【週３回以上】	34.5% -14.3	30.1% -12.2
（６４）-5 （７２）-5	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。（５）児童（生徒）に対するオンラインを活用した相談・支援【週３回以上】	8.6% -8.6	15.5% -2.3
（６５）-1 （７３）-1	障害のある児童（生徒）が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施しましたか	46.7% -7.0	31.1% -20.4

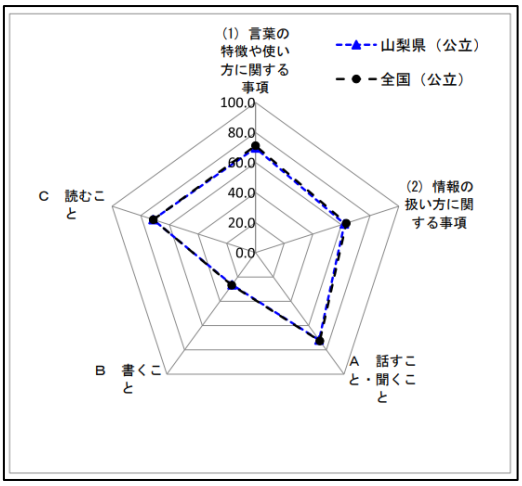
全国学力・学習状況調査 小学校 国語

集計結果

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	**5,822**	**9.3 / 14**	**66**	**10.0**	**2.9**
全国（公立）	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

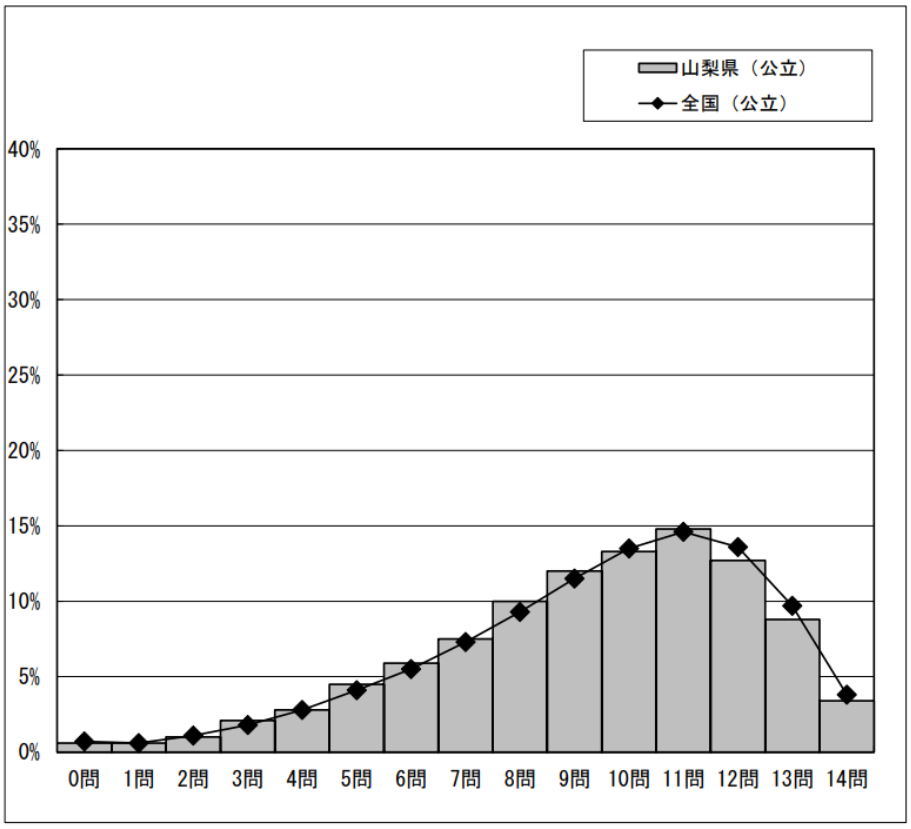
分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 山梨県（公立）	平均正答率(%) 全国（公立）
全体			14	**66**	67.2
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	**69.7**	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	**62.1**	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	**71.9**	72.6
		B 書くこと	1	**26.4**	26.7
		C 読むこと	3	**71.4**	71.2
評価の観点		知識・技能	7	**67.5**	68.9
		思考・判断・表現	7	**65.2**	65.5
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	**72.6**	73.6
		短答式	2	**61.0**	62.7
		記述式	3	**51.1**	51.1

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



正答数集計値・分布グラフ

正答数集計値			
正答数	児童数	割合（%）	
	山梨県（公立）	山梨県（公立）	全国（公立）
１４問	197	3.4	3.8
１３問	512	8.8	9.7
１２問	739	12.7	13.6
１１問	862	14.8	14.6
１０問	772	13.3	13.5
９問	698	12.0	11.5
８問	585	10.0	9.3
７問	438	7.5	7.3
６問	346	5.9	5.5
５問	261	4.5	4.1
４問	165	2.8	2.8
３問	120	2.1	1.8
２問	58	1.0	1.1
１問	34	0.6	0.6
０問	35	0.6	0.7



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等												
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	**山梨県（公立）**	全国（公立）	**山梨県（公立）**	全国（公立）
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する		5・6ア					○			○			**62.6**	64.7	**2.2**	1.8
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く					5・6エ			○				○	**26.4**	26.7	**6.4**	7.1
1三（1）ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（いがい）	5・6エ						○				○		**51.8**	52.8	**5.0**	4.8
1三（1）ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す（きかん）	5・6エ						○				○		**70.2**	72.6	**7.2**	6.7
1三（2）イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する（くらべて）	5・6ウ						○			○			**92.0**	93.1	**0.9**	1.0
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	5・6カ						○			○			**79.6**	79.8	**2.1**	2.0
2一	【資料１】と【資料２】に書かれている内容として適切なものを選択する						3・4ウ		○		○			**90.7**	90.0	**1.2**	1.2
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する						5・6ウ		○		○			**66.3**	67.4	**1.3**	1.4
2三	相田さんが【資料３】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する		5・6イ					○			○			**61.5**	62.0	**1.7**	1.6
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く						5・6オ		○				○	**57.2**	56.2	**8.0**	8.5
3一（1）	【インタビューの様子】の傍線部ア（～ということだと思いますが、合っていますか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する				3・4エ				○		○			**72.8**	73.6	**3.8**	3.7
3一（2）	【インタビューの様子】の傍線部イ（～というのは、どのような姿ですか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する				3・4エ				○		○			**73.2**	74.0	**4.2**	4.1
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く				5・6エ				○				○	**69.6**	70.2	**14.6**	14.3
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	5・6キ						○			○			**54.7**	57.6	**10.5**	9.5

こんな姿を目指したい!!



文章を読んで理解した内容を基に、自分の考えをまとめることができる児童

正答例　2　四

健康に過ごすためには、自分に合った運動をしたり、バランスのよい食事をとったりすることが大切だと分かりました。わたしは、これから、縄とびを続けて持久力を高めたり、苦手な野菜も食べたりしようと思います。

特徴的な誤答

運動にはいくつかの種類があり、持久力や筋肉の力を高める運動があることが分かりました。また、自分が好きなものばかり食べていると栄養がかたよってしまうことが分かりました。

ここがつまずき！

運動と食事について分かったことをもとに、自分ができそうなことを考えてまとめるという問いに対して、運動と食事について分かったことのみを書いている。

→文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめることが必要となる。

誤答から見える児童のつまずき！

日々の学習における改善・充実

〔第５学年及び第６学年〕C読むこと　オ

高学年の学習で…

〈言語活動例〉健康に過ごすために、複数の本を選んで読み、自分ができそうなことを考えて報告する活動

資料を読んで分かったことを基に、これから自分ができそうなことを考えてみましょう。

縄とびをしてみようかな。

縄とびに取り組みたいのはなぜですか。

ぼくは、走るとすぐに疲れてしまうので、持久力を高める運動をしたいと思ったからです。

こんな問いかけしてみませんか？

資料を読んで分かったことを基に、自分のことと結び付けて考えたのですね。同じように考えた人はいますか。

好きなものばかり食べると、栄養がかたよってしまうことが分かったので、わたしは、苦手な野菜を食べようと思います。

個別の指導をする過程で児童から引き出したポイントについて学級全体に問うことにより、自分の考えのまとめ方がより明確になり、共有されます。

中学年の学習で…

〔第３学年及び第４学年〕C読むこと　オ
文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと

自分の感想や考えをもたせるには、手がかりとなる視点を示すことも有効です。

資料を読んで、分かったことや疑問に思ったこと、もっと知りたいことはありますか。

軽いジョギングは、持久力を高めることが分かりました。

筋肉の力を高める運動をもっと知りたいです。

なぜ野菜や果物を食べると体の調子を整えることができるのかな。

感想や考えをもつことは、自分が文章をどのように捉え、理解したのかを改めて確かめることにつながります。



ここがPOINT

文章を読んで理解したことを基に、自分と結び付けて考える場面を設定しよう！

2 相田さんの学級では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができそうなことを考えてまとめることにしました。次は、【相田さんの考え】と、相田さんが知りたいことを調べるために選んだ【資料1】、【資料2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【相田さんの考え】

ぼくは、運動の面から考えてみたいな。運動をすると健康にどんないいことがあるのかな。



相田さん

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと言われています。

私たちが日ごろ行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。

生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくろう！

運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするといいの？

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休み時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例



軽いジョギング



縄とび（続けてとぶ）

主に筋力を高める運動の例



腹筋運動



腕立てふせ

【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しく食事をとることにより、脳が活発に働いたり、元気に運動したりすることができます。ただし、同じものや好きなものばかり食べていると、栄養がかたよってしまい、つかれやすくなったりいらいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主にエネルギーのもとになります。肉や卵などは、主に体をつくるもとになります。筋肉がついたり、けがが治りやすくなったりします。野菜や果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、病気にかかりにくくなります。

（栄養素の主な働きと食品の例）

主にエネルギーのもとになる





米、パン、バターなど

主に体をつくるもとになる





肉、卵、牛乳など

主に体の調子を整えるもとになる





野菜、果物など

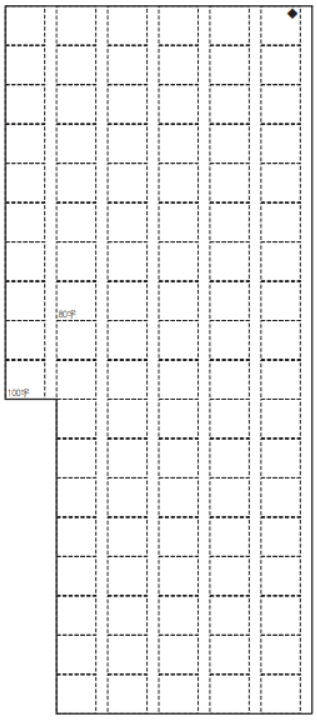
四 相田さんは、【資料1】、【資料2】、【資料3】を読み、運動と食事について分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを考えてまとめようとしています。あなたなら、どのようにまとめますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 資料を読んで、運動と食事の両方について分かったことを書くこと。
- 分かったことをもとに、これから自分ができそうなことを書くこと。
- 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。



学習指導要領における領域・指導事項

〔第1学年及び第2学年〕C読むこと

オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

〔第3学年及び第4学年〕C読むこと

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

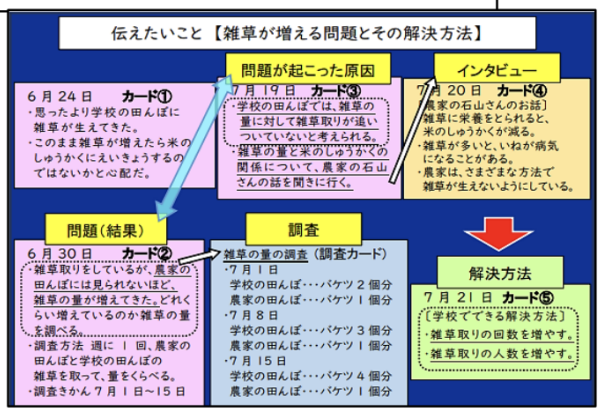
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

全国学力・学習状況調査　授業改善のポイント（調査問題１二）

①【記述する場面】
図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする。

【川村さんが情報を整理している様子】



川村さんは、米作りをする人の役に立つために、学校の米作りの問題点と解決方法について書くことにし、情報を整理することにしました。

選んだカードを矢印で結び、それぞれを関係付けてみました。

カード②とカード③は、雑草が増えてしまった結果と原因の関係にあるな。矢印で結んでおこう。

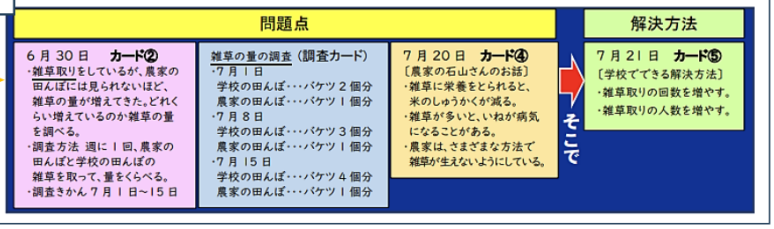


川村さん

Point！



情報と情報との関係を捉えて整理し、伝えたいことを明確にしたり、文章全体の構成を考えたりすることが大切です。





情報が整理できたから、次は、問題点と解決方法に着目して、カードを並べて文章を書いてみよう。

②【記述する場面】
図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする。

【川村さんの文章　下書き①】

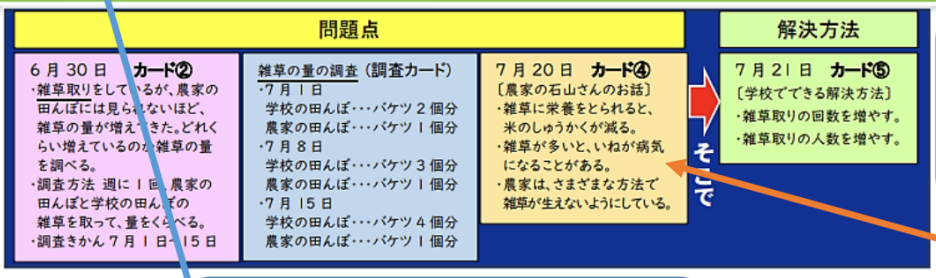
川村さんは、整理した情報を基にして、自分の考えが伝わるように下書きをしました。

（略）6月の終わりまで、**週に１回、グループの３人で雑草取り**を続けたのですが、雑草の量が増えてきました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量を比べてみました。期間は、７月１日から１５日までです。

調査結果から、学校の田んぼでは、雑草の量に対して、雑草取りが追いついていないことが分かりました。

そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

問題点
カード②
調査結果（調査カード）
解決方法
カード⑤



問題点と解決方法を書いたけれど、問題点について、もっと明確に書きたいな。どのように書いたらいいかな。



川村さん



向井さん

調査カードに書いてある調査結果も詳しく書くといいと思うよ。その調査結果をみて、石山さんに聞きに行こうと思ったんだね。専門家に聞くことで、問題点が明確になったね。

そうだね。カード④の石山さんのお話も入れたほうがいいね。雑草が増えるとどんな問題があるのかということを書くと、問題点としての説得力が増すね。



水野さん

③【記述する場面】
図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする。

【川村さんの文章　下書き②】

川村さんは、友達のアドバイスから調査結果を書いたり、専門家にインタビューをしたことを書いたりするなど、複数の情報を基にして書き直しました。

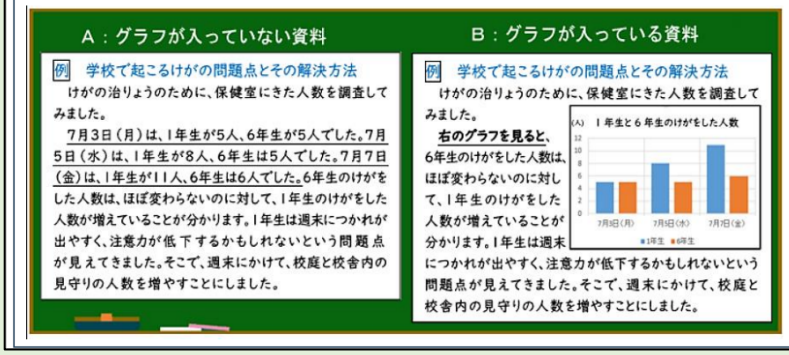
（略）6月の終わりまで、週に１回、グループの３人で雑草取りを続けたのですが、雑草が増えてきました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量を比べてみました。期間は、７月１日から１５日までです。

７月１日は、学校の田んぼバケツ２個分、農家の田んぼはバケツ１個分でした。７月８日は、学校の田んぼバケツ３個分、農家の田んぼはバケツ１個分でした。７月１５日は、学校の田んぼバケツ４個分、農家の田んぼはバケツ１個分でした。学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。

そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

問題点
- カード②
- 調査結果（調査カード）
- カード④ 石山さんの話

解決方法
- カード⑤



問題点と解決方法に着目して書いてみたけれど、読みづらい気がするなあ。どうしたらいいかな。



川村さん

グラフが入っていない資料とグラフが入っている資料の比較を通して、図表やグラフを用いることのよさに気付かせる指導の工夫をしましょう。

Point！



④【記述する場面】
図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする。

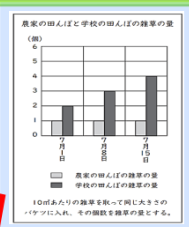
【川村さんの文章　完成】

川村さんは、調査結果の部分について、グラフを用いて文章を書き直しました。

（略）6月の終わりまで、週に１回、グループの３人で雑草取りを続けたのですが、意外に雑草が増えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量を比べてみました。期間は、７月１日から１５日までです。

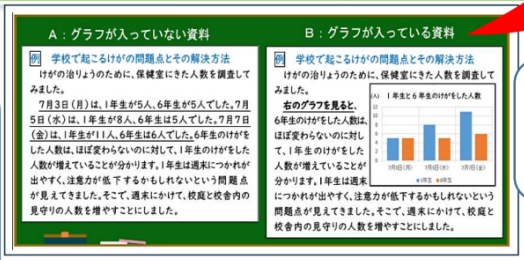
右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。グラフから分かるように学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。

そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。



問題点
- カード②
- 調査結果（調査カード）
- カード④ 石山さんの話

解決方法
- カード⑤



農家の田んぼに比べ、学校の田んぼでは雑草が増え続けていることが分かりやすくなったね。



水野さん



向井さん

グラフを入れると見て分かることは書かなくてよいから、文字が少なくて、読みやすいですね。

Point！

文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、児童自身が自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるように指導することが大切です。



「令和５年度　全国学力・学習状況調査　報告書」（国立教育政策研究所）【授業アイディア例】とあわせてご活用ください。

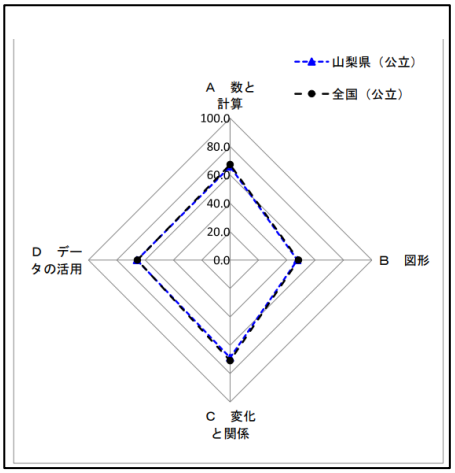
全国学力・学習状況調査 小学校 算数

集計結果

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	**5,818**	**9.8 / 16**	**61**	**10.0**	**3.7**
全国（公立）	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

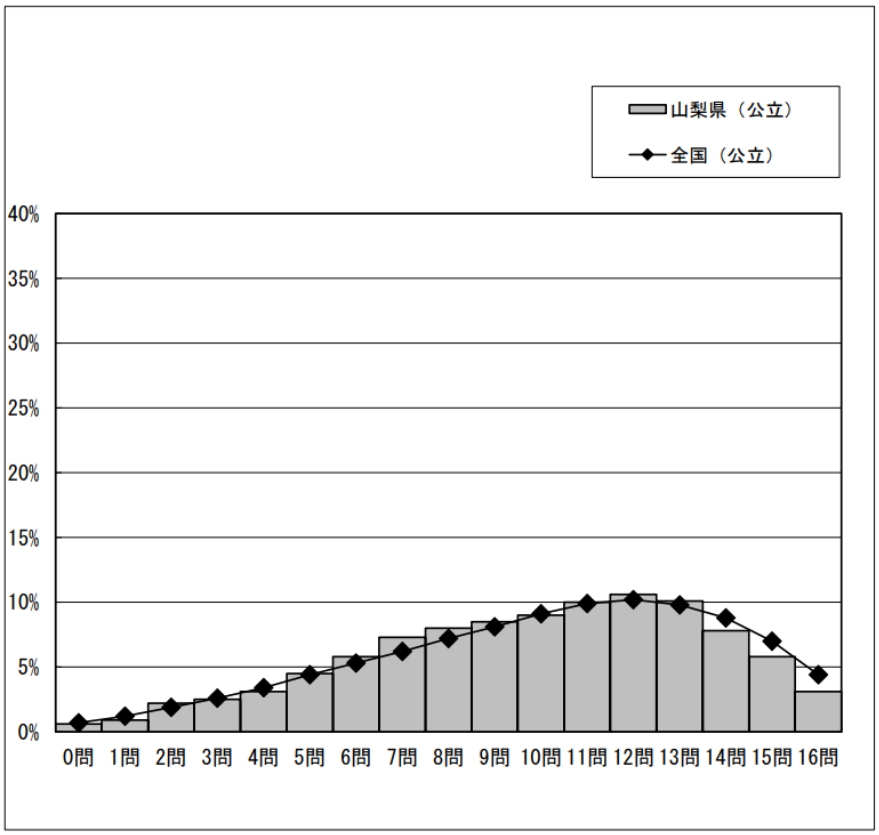
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 山梨県（公立）	平均正答率(%) 全国（公立）
全体		16	**61**	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	**65.9**	67.3
	B 図形	4	**47.4**	48.2
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	**68.8**	70.9
	D データの活用	3	**65.8**	65.5
評価の観点	知識・技能	9	**66.3**	67.2
	思考・判断・表現	7	**54.9**	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	5	**56.7**	57.7
	短答式	7	**73.7**	74.7
	記述式	4	**45.4**	47.3

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



正答数集計値・分布グラフ

正答数集計値			
正答数	児童数 山梨県（公立）	割合(%) 山梨県（公立）	割合(%) 全国（公立）
16問	182	3.1	4.4
15問	339	5.8	7.0
14問	455	7.8	8.8
13問	590	10.1	9.8
12問	616	10.6	10.2
11問	583	10.0	9.9
10問	524	9.0	9.1
9問	497	8.5	8.1
8問	465	8.0	7.2
7問	426	7.3	6.2
6問	340	5.8	5.3
5問	260	4.5	4.4
4問	180	3.1	3.4
3問	148	2.5	2.6
2問	126	2.2	1.9
1問	53	0.9	1.2
0問	34	0.6	0.7



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	**山梨県（公立）**	全国（公立）	**山梨県（公立）**	全国（公立）
1（1）	５脚の椅子を重ねたときの高さを求める				4(1)ア(ア)		○				○		**92.6**	93.5	**1.0**	0.8
1（2）	椅子の数が２倍になっても、高さは２倍になっていないことについて、表の数を使って書く				5(1)イ(ア)			○			○		**87.9**	88.5	**0.8**	1.0
1（3）	椅子４脚の重さが７ｋｇであることを基に、４８脚の重さの求め方と答えを書く				5(1)イ(ア) 5(2)イ(ア)			○				○	**51.3**	55.5	**2.8**	3.4
1（4）	全部の椅子の数を求めるために、５０×４０を計算する	3(3)ア(ア)					○				○		**80.6**	80.8	**1.0**	1.2
2（1）	テープを２本の直線で切ってできた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ		4(1)ア(イ)				○			○			**61.7**	59.8	**0.5**	0.7
2（2）	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く		2(1)ア(イ) 4(1)ア(ア)				○				○		**88.6**	87.2	**2.2**	2.9
2（3）	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのＡの角の大きさを書く		3(1)ア(ア) 5(1)ア(イ)				○				○		**20.9**	24.9	**2.8**	3.7
2（4）	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く		5(3)イ(ア)					○				○	**18.4**	20.8	**2.8**	4.0
3（1）	２種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	4(6)イ(ア)						○		○			**68.9**	70.3	**1.1**	1.4
3（2）	３種類のファイル２３人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	3(5)ア(イ) 4(4)ア(エ) イ(ア)						○				○	**55.2**	56.7	**2.9**	4.0
3（3）	（１５１＋４９）×３と１５１×３＋４９×３を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	4(6)ア(ア) 4(7)ア(ア)					○				○		**68.7**	72.4	**1.6**	2.5
3（4）	６６÷３の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	3(4)イ(ア) 4(3)ア(ア)						○		○			**45.5**	47.6	**3.0**	3.9
4（1）	示された基準量と比較量から、割合が３０%になるものを選ぶ				5(3)ア(イ)		○			○			**43.2**	46.0	**1.7**	2.4
4（2）	運動カードから、運動した時間の合計が３０分以上である日数を求める	4(2)ア(イ)				3(1)ア(ア)	○				○		**76.3**	75.7	**3.4**	4.3
4（3）	二つのグラフから、３０分以上の運動をした日数が「１日」と答えた人数に着目して、分かることを書く					3(1)ア(イ) イ(ア)		○				○	**56.8**	56.2	**11.1**	13.8
4（4）	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ					4(1)ア(ア)	○			○			**64.1**	64.6	**3.8**	4.9

こんな姿を目指したい!!



図形を構成する要素に着目して図形の面積について考察できる児童

正答例　2（4）　【番号】3（㋐と㋒の面積は等しい。）

三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㋐と㋒の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㋐と㋒の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㋐と㋒の面積は等しいです。

特徴的な誤答　【番号】4

（㋐と㋒の面積は、このままでは比べることができない。）

㋐と㋒の高さがどこにも書かれておらず長さが分からないので、㋐と㋒の面積はこのままでは比べることができません。

誤答から見える児童のつまずき！

ここがつまずき！

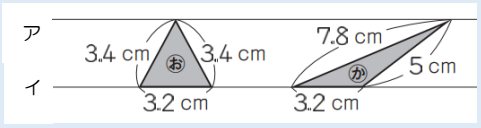
平行な二つの直線の幅はどこでも等しいことに着目し、三角形の底辺と高さを適切に捉えることができていない。

日々の学習における改善・充実

5学年の学習で…

こんな問いかけしてみませんか？

アの直線とイの直線は平行です。
三角形㋐と三角形㋒の面積はどちらが大きいでしょうか。




三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求められるよね。


図の下の部分の辺を底辺とすると、その長さは3.2cmで等しいね。


あと高さが分かれば面積を比べることができるね。


㋐の高さは3.4cmで、㋒の高さは5cmかな。

高さは底辺に垂直な直線になると学習したよ。

三角形の面積を比べるために発表してもらいましたが、底辺と高さについてもう少し詳しく説明できますか。



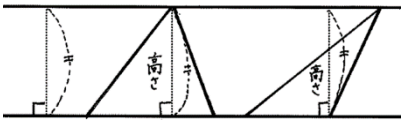

三角形の高さは、底辺を延長した直線と、底辺にない頂点を通り底辺に平行な直線のはばと考えることができます。

言葉だけだとよく分からないなぁ。



今の言葉の説明を、図を使って説明することはできますか。

前に学習した図で説明すると…。






底辺と高さについて改めて整理することができましたね。

でも、高さは何cmか書かれていないから、面積が求められません。だから、比べることはできません。



たしかに面積は求められないけど、比べることはできると思います。㋐と㋒の三角形の面積は等しいと思います。




どうして、そう思いましたか。理由を教えてください。

㋐と㋒の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㋐と㋒の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。



三角形の面積は底辺×高さ÷2で求められるので、㋐と㋒の面積は等しいです。

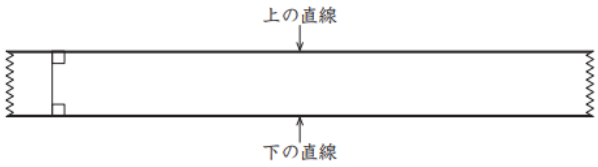
ここがPOINT



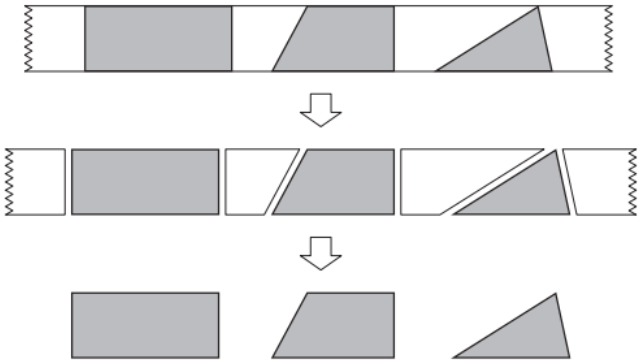
図形を構成する要素に着目し、図と言葉や数とを結び付けて図形の性質や計量について説明する場面を取り入れよう！

2

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線は平行で、テープのはばはどこも等しくなっています。



えいたさんたちは、下のようにテープを直線で切って、いろいろな図形をつくりました。



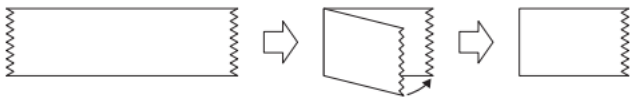

えいた

切り方によって、いろいろな図形ができますね。

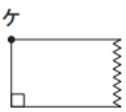
(3) えいたさんたちは、下のようなつくり方で三角形をつくります。

【えいたさんのつくり方】

① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。



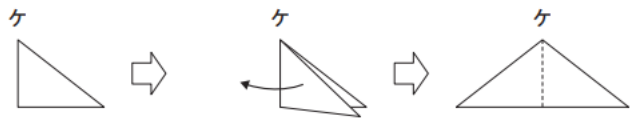
② 右の図のように、折り目のはしを点**ケ**とします。



③ 折って重ねたまま、点**ケ**を通るななめの直線で切ります。



④ 開くと三角形ができました。

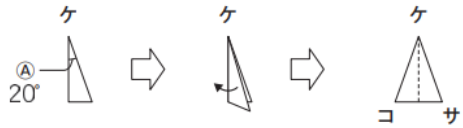


ゆいなさんとわたるさんは、**【えいたさんのつくり方】**の③の図で、下のⒶの角の大きさをそれぞれちがう大きさにしました。




ゆいな

私(わたし)は、Ⓐの角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形**ケコサ**は、二等辺三角形になりました。



二等辺三角形

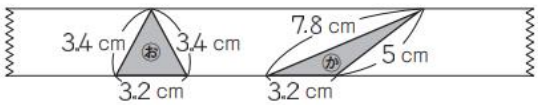

わたる

私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、Ⓐの角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、Ⓐの角の大きさを何度にすればよいですか。

答えを書きましょう。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のようなおとかの2つの三角形をつくります。



上のおとかの三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 おの面積のほうが大きい。

2 かの面積のほうが大きい。

3 おとかの面積は等しい。

4 おとかの面積は、このままでは比べることができない。

全国学力・学習状況調査　授業改善のポイント（調査問題2（4））

①　プランターの数と高さの変化の関係を基に、プランターを重ねた高さを調べる。



プランターを重ねて、高さ 80cm、重さ20kgまで入れることができるたなに片付けようと思います。何個まで重ねて入れることができますか。



どうやって解決していけばいいのかな。

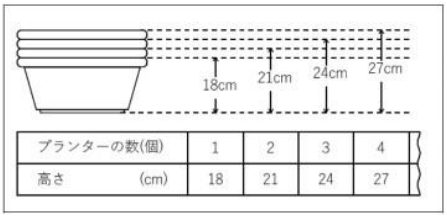
プランターの数と高さを調べれば分かるかもしれないよ。

だったら、プランターの数と重さも関係していると思うよ。

まず、高さについて考えましょう。高さが80cmになるまでプランターを重ねて、プランターの数を数えればいいのかな。



プランター１個の高さは、 18cmです。
高さはプランターの数に比例して、プランターの数が２倍、３倍、…になると、高さも２倍、３倍、 …になるので、36cm、54cm、…と増えていくと思います。



プランターの数(個)	1	2	3	4
高さ (cm)	18	21	24	27

教室にプランターが４個あるので、プランターの数と高さの関係を調べてみようよ。

プランターの数が１個から２個と２倍になっても、高さは 18cmから21cmで、２倍になっていない。

高さはプランターの数に比例していないということがわかるね。

伴って変わる二つの数量について説明する際 、具体的な数値を示し 、根拠を明らかにすることができるようにしよう！！

でも、プランターの数と高さにきまりはないのかな。

高さは３cmずつ増えているね。



どういうことですか？

高さは３cmずつ高くなるので、80−18=62、62÷３=20あまり２で、１個目のプランターに20個重ねて入れることができます。
だから、１＋20で、21個入ります。

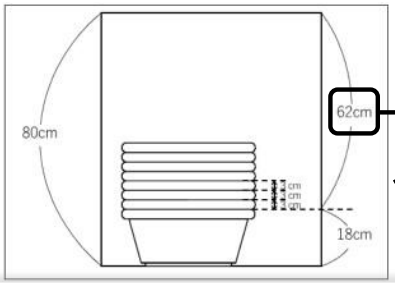
表の続きを考えてみたよ。

プランターの数(個)	1	2	3	4	5	6
高さ (cm)	18	21	24	27	30	33

表の続きを考えると、 80cmまで書くのは大変ですね。

きまりを使えば、表の続きを考えなくても調べることができると思います。

言葉や式の説明だけだとよく分からないな。図で説明してほしいな。



図に表すと、62cmはここの部分です。

高さについては考えられたから、次は重さについて考えていこう。

言葉や式だけでなく 、図や数と結び付けて説明する場面を意図的に取り入れるようにしよう！！

② プランターの数と重さの変化の関係を基に、プランターを重ねた重さを調べる。

プランターを入れるたなは、 20kgの重さまで入れることができます。プランター４個の重さをはかると、3kgでした。21個のプランターを、全てたなに入れることはできるでしょうか。

４個で３kgのプランターに、もう４個合わせると、８個で６kgになります。さらに４個を合わせると、12個で９kgになります。

表にすると、次のようになります。

プランターの数(個)	4	8	12
重さ (kg)	3	6	9

表をみると、プランターの数が４個から８個、 12個と２倍、３倍になると、重さは３ kgから６kg、９kgと２倍、３倍になるので、重さはプランターの数に比例していることが分かりますね。

このことを基に考えると、たなに21個入れることはできないと思います。

私は、たなに21個入れることはできると思います。

それぞれ、どうしてそう考えたのですか。

21個入れることができないことについて、説明します。３×21＝63で、63kgです。20kgより重いので、21個入れることができません。

３×21＝63の式は、何を求めている式ですか。

３kgの21個分の重さを求めています。

３kgはプランター１個の重さではなく、４個の重さです。

あ…！！ということは、私は４個の重さの21倍を求めていることになりますね。

21個入れることができることについて、説明できますか。

21個入れることができることについて、説明します。３÷４＝0.75、0.75×21＝15.75で、15.75kgです。20kgより軽いので、21個入れることができます。

３÷４＝0.75の式は、何を求めている式ですか。

プランター４個で３ kgなので、４で割ることで１個当たりの重さを求めました。

だから、0.75に21をかけると、21個分の重さを求めることができるのですね。

プランターの数(個)	4	8	12	16	20	24	28
重さ (kg)	3	6	9	12	15	18	21

（×6、×6）

私は、重さはプランターの数に比例していることを基に考えました。重さが６倍になると、プランターの数も６倍になります。プランターの数が４個のときの重さは３ kgなので、その６倍は18kgです。20kgより少ないので、４個の６倍の、24個の重さでも大丈夫です。

どうして６倍について考えたのですか。

重さが２倍、３倍、…になると、プランターの数も２倍、３倍、…になります。重さが７倍になると、 21kgになります。20kgより重くなってしまうので、６倍について考えたのですね。

ということは、21個入れることができるということですね。

伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて 、知りたい数量の大きさについて、求め方を説明できるようにしよう！！

「令和５年度　全国学力・学習状況調査　報告書」（国立教育政策研究所）【授業アイディア例】とあわせてご活用ください。

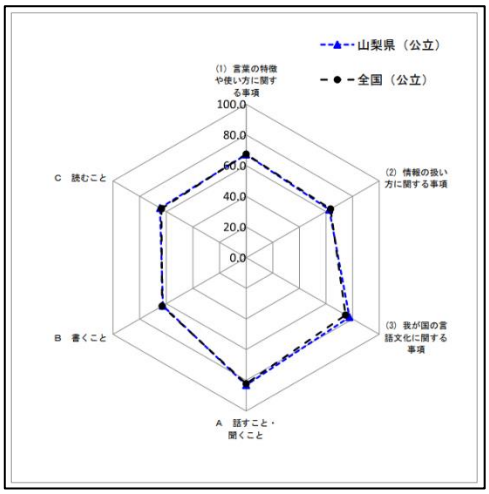
全国学力・学習状況調査 中学校 国語

集計結果

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	**5,732**	**10.5 / 15**	**70**	**11.0**	**3.2**
全国（公立）	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

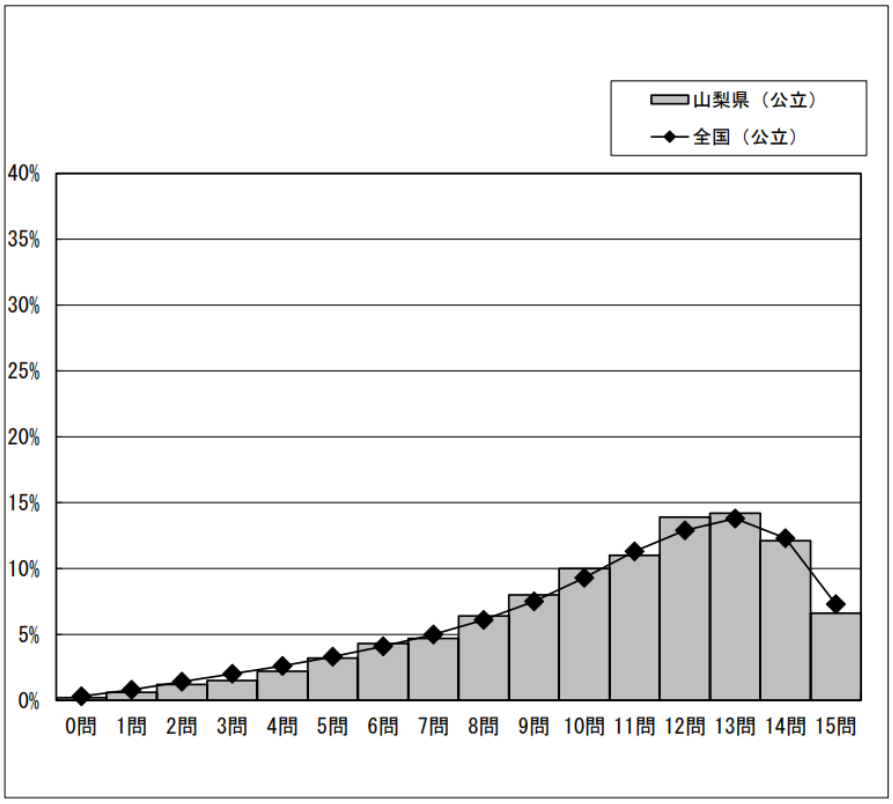
分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率(%) 山梨県（公立）	平均正答率(%) 全国（公立）
全体			15	**70**	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	**67.2**	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	**62.5**	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	**77.6**	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	**83.1**	82.2
		B 書くこと	2	**62.6**	63.2
		C 読むこと	4	**64.7**	63.7
評価の観点		知識・技能	7	**70.3**	69.4
		思考・判断・表現	9	**70.4**	69.7
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	7	**72.7**	73.1
		短答式	4	**66.3**	65.6
		記述式	4	**70.2**	68.0

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



正答数集計値・分布グラフ

正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
	山梨県（公立）	山梨県（公立）	全国（公立）
１５問	381	6.6	7.3
１４問	695	12.1	12.3
１３問	812	14.2	13.8
１２問	796	13.9	12.9
１１問	628	11.0	11.3
１０問	576	10.0	9.3
９問	456	8.0	7.5
８問	366	6.4	6.1
７問	271	4.7	5.0
６問	244	4.3	4.1
５問	181	3.2	3.3
４問	128	2.2	2.6
３問	86	1.5	2.0
２問	66	1.2	1.4
１問	35	0.6	0.8
０問	11	0.2	0.3



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等												
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山梨県（公立）	全国（公立）	山梨県（公立）	全国（公立）
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する				1 ア				○		○			**87.2**	87.5	**0.0**	0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する		1 ア					○			○			**65.4**	65.1	**0.2**	0.2
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する				1 エ				○		○			**76.4**	76.6	**0.1**	0.2
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く				1 エ				○				○	**85.7**	82.5	**8.3**	10.8
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	1 ウ						○			○			**90.8**	91.1	**0.1**	0.2
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する						2 エ		○		○			**63.2**	63.0	**0.3**	0.4
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する						1 ア		○		○			**74.3**	74.2	**0.2**	0.3
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く			2 エ			2 オ	○	○				○	**71.0**	67.5	**2.8**	3.9
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する					1 エ			○		○			**51.5**	54.3	**0.5**	0.6
3二	漢字を書く（おし量って）	2 ウ						○				○		**43.5**	43.9	**10.1**	10.7
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く		2 ア					○				○		**59.7**	61.8	**2.1**	2.1
3四	「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方を書く					1 ウ			○				○	**73.8**	72.1	**9.7**	10.2
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）			1 ア				○				○		**86.5**	82.5	**2.7**	3.6
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）			2 イ				○				○		**75.3**	74.1	**4.1**	4.8
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く						1 エ		○				○	**50.5**	50.0	**18.4**	20.7

こんな姿を目指したい!!



文章の表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる生徒

正答例　4　三

「手なれた仕事だ。」と付け加えることで、竹を割る翁の様子を読者が想像できるようにしている。

特徴的な誤答

「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸」が具体的に書かれている。（解答類型２）

誤答から見える生徒のつまずき！

ここがつまずき！

表現が、どのように工夫されているかという問いに対して、表現の特徴だけ挙げている。
→表現について考える際には、表現の特徴だけではなく、表現の効果(正答例下線部)まで捉えることが必要となる。

1学年の学習で…

第１学年　C読むこと(1)エ
表現の効果、根拠を明確に
教材名：「少年の日の思い出」（光村図書）

日々の学習における改善・充実

＜言語活動例＞イチオシの表現とその効果を紹介しよう。
作品中の工夫された表現とその効果について、根拠となる部分、理由を明確にして考える。

そのために

＜学習活動例＞ 表現の効果について考えよう。
工夫された表現を取り出すことにとどまらず、その表現が作品の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているか、作品における表現の効果についての考えを深める。

様々な表現について、作品の中でどのように働いているのかを考えることができるようにしましょう。

前時は、場面ごとの内容とともに、この作品の工夫された表現についてまとめました。今日は、一人一人が注目した表現について、作品の内容と関連付けながら話し合い、その表現が作品に対し、どのような効果を生み出しているのか考えましょう。



場面	内容	表現
前半	・蝶の収集を見せる私 ・不愉快そうにする客 ・少年時代の出来事を語り始める客	昼間の明るさは消えうせようとしていた。 彼の姿は、外の闇からほとんど見分けがつかなかった。
後半始め	・ちょう集めに夢中になる僕	今でも、美しい…
⋮		
終末	⋮ ・ちょうを押しつぶす僕	ちょうを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。





「昼間の明るさは…」の表現に注目しました。「消える」ではなく「消えうせる」と表現することで、より暗いイメージを与えていると思います。





私は「彼の姿は…」という描写に注目しました。闇の意味を調べると「光のないこと」とありました。「闇」という言葉で表現することで、客の救われない状況も表しているのではないかと考えました。



僕が注目した「ちょうを一つ一つ…」の文では、「粉々に」という表現によって、エーミールに対する僕の強い思いを印象付けていると思いました。

作品の内容と関連付けて表現について考えることで、工夫された表現を取り上げるだけでなく、表現とその効果も考えることができましたね。友達に紹介する際は、表現の特徴と効果を整理して、理由も加えて伝えましょう。



作品の表現について、文章の内容と結び付けながら、作品に対しどのような効果をもたらしているのか自分なりの考えをもつことを継続的に指導していきましょう。

それぞれの表現が、文章においてどのように働いているのかを考える学習課題を設定しよう！



4 石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見付け、読み比べてみました。次は、【授業で読んだ「竹取物語」の一部】の〈原文〉とその〈現代語訳〉、【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【授業で読んだ「竹取物語」の一部】

〈原文〉

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきの造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。

〈現代語訳〉

今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】

むかし、竹取りじいさんと呼ばれる人がいた。名はミヤツコ。時には、讃岐の造麻呂と、もっともらしく名乗ったりする。野や山に出かけて、竹を取ってきて、さまざまな品を作る。

笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸。

筍は料理用。そのほか、すだれ、ふるい、かんざし、どれも竹カンムリの字だ。

自分でも作り、職人たちに売ることもある。竹については、くわしいのだ。

ある日、竹の林のなかで、一本の光るのをみつけた。ふしぎなことだと、そばへ寄ってよく見ると、竹の筒のなかに明るいものがあるらしい。

その部分を、ていねいに割ってみる。手なれた仕事だ。なかには、手のひらに乗るような小さな女の子が、すわっていた。

まことに、かわいらしい。

（星新一「竹取物語」による。）

三 【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

学習指導要領における領域・指導事項

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等　C　読むこと（1）

エ　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

全国学力・学習状況調査　授業改善のポイント（調査問題４三）



「読むこと」を通して古典の楽しみ方を理解する
「現代語訳」を活用して、古典作品を楽しむ授業アイディア

Point　（「令和５年度 全国学力・学習状況調査 報告書」より）

〔第１学年〕知識及び技能（３）我が国の言語文化に関する事項 ア「伝統的な言語文化」
音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。
〔第１学年〕思考力、判断力、表現力等　C読むこと（１）エ「精査・解釈」
文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

第4章　指導計画の作成と内容の取扱い　3　教材についての配慮事項
(5) 古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを取り上げること。

古典の指導に当たっては、古典の原文に加え、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として取り上げることを示している。中学校における古典の指導は、生徒が古典に親しみをもてるようにすることをねらいとしている。古典の原文は、古文や漢文特有のリズムを味わったり文語のきまりを知ったりする上で有効であるが、古典の指導は原文でなければ行えないというものではない。古典の文章の内容を概括したり古典の文章に関する様々な事柄に触れたりするためには、分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げることが必要である。
（中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編）

指導する内容や生徒の実態に応じた教材の工夫
古文や漢文特有のリズムを味わったり文語のきまりを知ったりする際
→古典の原文を教材
古典の文章の内容を概括したり古典の文章に関する様々な事柄に触れたりする際
→分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材に加える　などの工夫が必要

授業アイディア①

＜第１学年＞
「読むこと」を通して古典の楽しみ方を理解する　～「現代語訳」を活用して、古典作品を楽しむ～

単元の主な流れ

＜第１時＞
❶学習の見通しをもつ。
❷「竹取物語」について**知っていることを出し合い、整理**する。
❸「竹取物語」の**作品の特徴**（成立時代、作品の種類、あらすじ等）**を全体で確認**する。
❹「竹取物語」の冒頭の部分の原文と現代語訳を音読し、**古文の特徴を捉える。**

＜第２時＞
❺**各自で、星新一訳「竹取物語」（以下、星新一訳）の冒頭に当たる部分を読み、面白さや工夫されている点についてグループで交流**する。
❻❺で交流した**面白さや工夫されている点を具体的に取り上げて黄色の付箋に書き、古典の原文の対応する部分を探し、青色の付箋に書く。**
❼グループで、❻で書いた付箋を整理しながら、**気付いたことについて交流**する。
❽❼で整理した付箋を見せ合いながら、**全体で交流**する。

＜第３時＞
❾**読みたい場面**を選び、**星新一訳の「竹取物語」と原文とを読み比べる。**

＜第４時＞
❿読み比べてみて面白く感じたことや工夫されていると感じたことについて、**感想を交流**する。

◎ **表現が文章の内容を 伝えたり印象付けたりする上でどのように働いているかを考える**ことに課題がある。
◎ 自分が感じたよさや 工夫されていると**考えたことの根拠を明確にする**ことに課題がある。

❺ **各自で、星新一訳「竹取物語」の冒頭に当たる部分を読み、面白さや工夫されている点についてグループで交流**する。

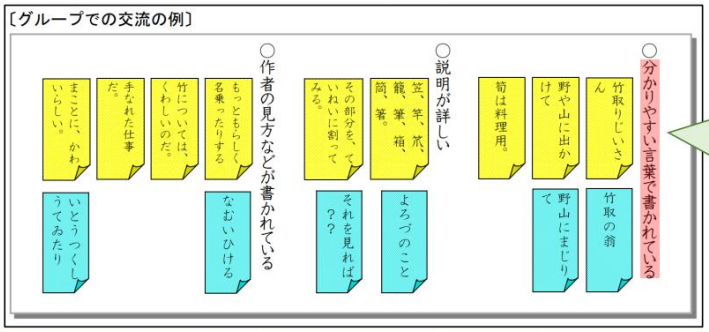
⑥ ❺で交流した**面白さや工夫されている点を具体的に取り上げて黄色の付箋に書き、古典の原文の対応する部分を探し、青色の付箋に書く。**

⑦ グループで、❻で書いた**付箋を整理**しながら、**気付いたことについて交流**する。

❽ ❼で整理した付箋を見せ合いながら、**全体で交流**する。

星新一訳の表現の工夫について交流した内容（❼の交流の際の根拠となる内容）を付箋で視覚化することで、❼の交流が、ただの気付いたことの伝え合いではなく、**根拠となる表現（言葉）を意識した交流**になる。

〔グループでの交流の例〕



付箋を整理したり交流したりする際の、観点（表現の効果）についても、**交流の前に指導事項の内容やこれまでの学び（系統性）を意識させる**ことで、資質・能力の確実な育成につながる。

小学校学習指導要領解説 国語編 【第5学年及び第6学年 C（1）エ】

表現の効果を考えるとは、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことである。
感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読むことが重要である。

中学校学習指導要領解説 国語編 【第1学年 C（1）エ】

表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。例えば、簡潔な述べ方と詳細な述べ方、断定的な述べ方と婉曲な述べ方、敬体と常体、和文調の文体と漢文調の文体、描写の仕方や比喩をはじめとした表現の技法などに着目することが考えられる。

◎ **表現が文章の内容を 伝えたり印象付けたりする上でどのように働いているかを考える**ことに課題がある。
◎ 自分が感じたよさや 工夫されていると**考えたことの根拠を明確にする**ことに課題がある。

グループで、付箋を整理しながら、気付いたことについて交流する場面



星新一訳には、「よろづのこと」を「笠、竿、笊、籠、筆、箱、筒、箸。」と書くなど、古典の言葉を詳しく書き換えているところがあります。笊も籠も竹で作るなんて、さすが「竹取の翁」と呼ばれるだけのことはあると思いました。「すだれ、ふるい、かんざし」も漢字で書くと、「竹カンムリ」なのですね。どのような漢字なのか調べてみたくなりました。



原文にはない「手なれた仕事だ。」の一文があることで、翁の手つきが目に浮かびますね。「その部分を、ていねいに割ってみる。」も原文には書かれていないことではないでしょうか。原文の「それを見れば」の前に翁がしたことを補って書いているのだと思います。



教科書の現代語訳の「とてもかわいらしい様子で座っている」でも、「三寸ばかりなる人」の様子は分かりますが、星新一訳の「まことに、かわいらしい。」だと、思わずつぶやいたような感じがして、かわいらしさが強調されていると思います。「いと」は、「まことに」と訳すこともできるのですね。

「読むこと 精査・解釈」の指導事項について、これまでに学んだ内容や、第１学年で求められている内容が生かされた言語活動になっている。

〔第１学年〕思判表 C 読むこと（1）エ「精査・解釈」
表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

学習を振り返る場面



原文の意味が分かるだけでなく、「竹取の翁」やこの場面の様子についていろいろ想像できるのが面白いと思いました。例えば、「よろづのこと」に当たるものを「竹カンムリ」の漢字で列挙していて、翁は「竹カンムリ」のものならば何でも作れる人なのかもしれないと、想像が広がりました。前の時間にあらすじを確認したときに出てきた、五人の貴公子の求婚の場面で、それぞれの人物がどのように描かれているのか、読んでみたくなりました。

「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするうえで、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにする。

「令和５年度　全国学力・学習状況調査　報告書」（国立教育政策研究所）
【授業アイディア例】とあわせてご活用ください。

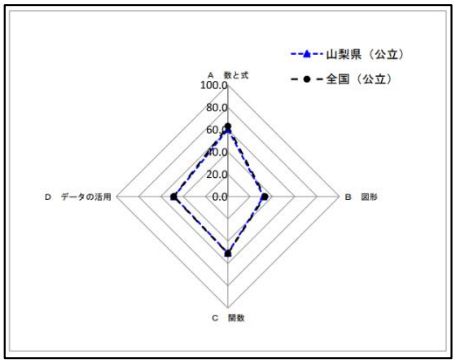
全国学力・学習状況調査 中学校 数学

集計結果

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	**5,732**	**7.5 / 15**	**50**	**7.0**	**3.8**
全国（公立）	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

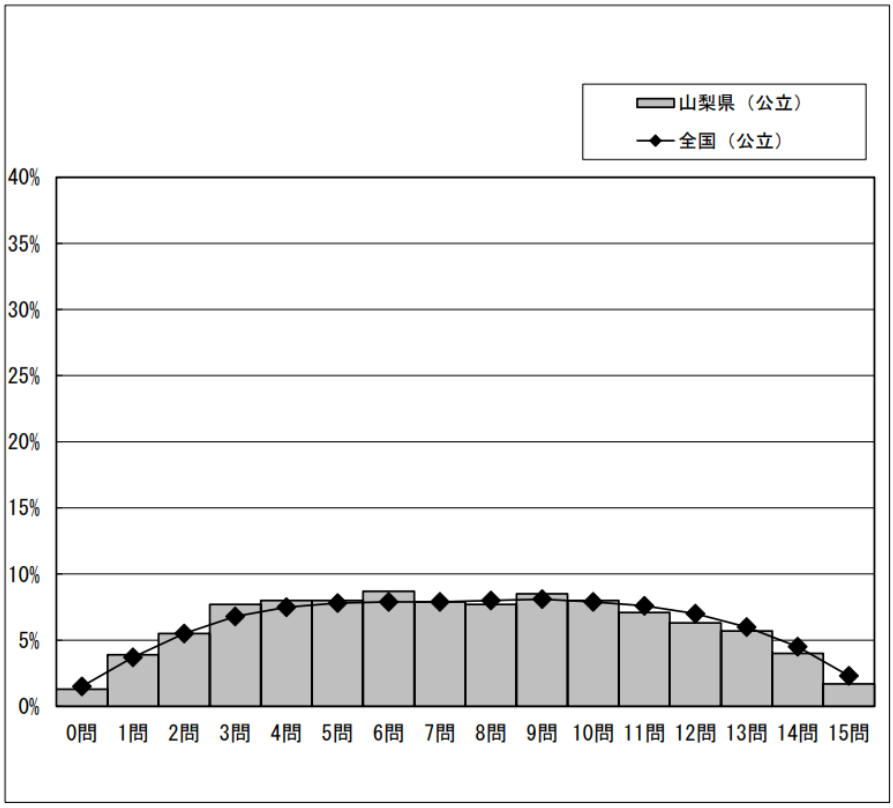
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			山梨県（公立）	全国（公立）
全体		15	**50**	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	**60.4**	63.0
	B 図形	3	**32.1**	33.2
	C 関数	4	**50.7**	51.2
	D データの活用	3	**48.1**	48.5
評価の観点	知識・技能	10	**53.5**	55.7
	思考・判断・表現	5	**42.0**	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	4	**42.2**	45.3
	短答式	6	**61.0**	62.6
	記述式	5	**42.0**	41.6

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



正答数集計値・分布グラフ

正答数集計値			
正答数	生徒数	割合(%)	
	山梨県（公立）	山梨県（公立）	全国（公立）
15問	97	1.7	2.3
14問	231	4.0	4.5
13問	329	5.7	6.0
12問	361	6.3	7.0
11問	406	7.1	7.6
10問	457	8.0	7.9
9問	490	8.5	8.1
8問	441	7.7	8.0
7問	450	7.9	7.9
6問	498	8.7	7.9
5問	457	8.0	7.8
4問	458	8.0	7.5
3問	442	7.7	6.8
2問	314	5.5	5.5
1問	225	3.9	3.7
0問	76	1.3	1.5



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山梨県（公立）	全国（公立）	山梨県（公立）	全国（公立）
1	－５、０、３、４．７、９の中から自然数を全て選ぶ	1(1) ア(ア)				○			○			**38.1**	46.1	**0.1**	0.1
2	１２（ｘ／４＋ｙ／６）を計算する	2(1) ア(ア)				○				○		**80.3**	80.5	**3.7**	4.0
3	空間における平面が１つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ		1(2) ア(ア)			○			○			**28.2**	30.4	**1.0**	0.8
4	ｙがｘに反比例し、比例定数が３のとき、ｘの値とそれに対応するｙの値について、正しい記述を選ぶ			1(1) ア(イ)		○			○			**41.8**	42.8	**0.5**	0.5
5	女子５０ｍ自由形の記録の、最小の階級から２９．００秒以上３０．００秒未満の階級までの累積度数を求める				1(1) ア(ア)	○				○		**44.3**	46.1	**10.9**	11.0
6（1）	はじめの数が１１のとき、はじめの数にかける数が２、たす数が３のときの計算結果を求める	1(1) ア(ウ)				○				○		**88.3**	88.9	**2.0**	2.4
6（2）	はじめの数にかける数が２、たす数が６ならば、計算結果はいつでも３の倍数になることの説明を完成する	2(1) イ(イ)					○				○	**56.7**	58.8	**9.4**	10.6
6（3）	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも４の倍数になるかを説明する	2(1) イ(イ)					○				○	**38.3**	40.9	**22.1**	24.7
7（1）	１９６１年～１９７５年の四分位範囲を求める				2(1) ア(ア)	○				○		**61.3**	65.7	**5.5**	5.6
7（2）	「２００６年～２０２０年の黄葉日は、１９９１年～２００５年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する				2(1) イ(ア)		○				○	**38.5**	33.6	**19.5**	22.8
8（1）	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの２点のｘ座標の差として表れるかを書く			2(1) ア(ア) イ(ア)		○				○		**55.8**	57.5	**7.1**	8.6
8（2）	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ			2(1) ア(イ)		○			○			**60.7**	61.7	**0.9**	1.1
8（3）	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、６区のスタート地点からおよそ何ｍの地点になるかを求める方法を説明する			2(1) イ(イ)			○				○	**44.7**	42.8	**13.3**	13.2
9（1）	２つの直線ＢＣと直線ＡＥが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する		2(1) イ(ア)				○				○	**31.9**	32.1	**22.2**	24.7
9（2）	二等辺三角形でない２つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く		2(2) ア(イ) イ(ア)			○				○		**36.2**	37.0	**13.3**	14.2

こんな姿を目指したい!!



データの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を説明できる生徒

正答例　7（２）

1991 年～2005 年の箱ひげ図の箱よりも 2006 年～2020 年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006 年～2020 年の黄葉日は 1991 年～2005 年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

特徴的な誤答

2006 年～2020 年の箱ひげ図の箱が右側にあるから。

ここがつまずき！

箱ひげ図の箱に着目しているが、位置が異なることについての記述が十分でなかったり、２つの箱ひげ図を比較する記述がなかったりすること。

誤答から見える生徒のつまずき！

日々の学習における改善・充実

データの活用　領域の学習で…

前の時間にとった、イチョウの黄葉日のデータがあります。データの特徴を調べるために、どのように整理しますか。

こんな問いかけしてみませんか？

2006 年～2020 年の方が、黄葉日が遅くなっている傾向にあることを２つの箱ひげ図の箱に着目して説明してみましょう。

２つの箱ひげ図の箱の位置が違うね。



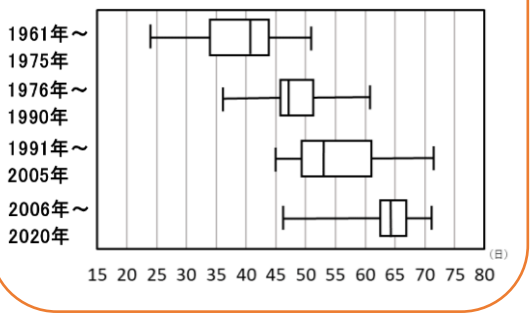


2006 年～2020 年の箱ひげ図の箱の方が右側にあるね。

「1991 年～2005 年の箱ひげ図の箱よりも 2006 年～2020 年の箱ひげ図の箱は右側にある。したがって、2006 年～2020 年の黄葉日は、1991 年～2005 年の黄葉日よりも遅くなっている傾向にある。」という説明でよさそうだね。



４つのデータがあるから、箱ひげ図をつくってみよう。



箱ひげ図から、どのようなことが分かりますか。



４つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。



でも、1991 年～2005 年と 2006 年～2020 年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるけど、遅くなっているといえるのかな。



その２つの箱ひげ図の右端と左端ではなくて、箱に着目してみたらどうかな。

今、「箱」という言葉を使って説明したけれども、この箱ひげ図から読み取れる数値を使って説明することはできないでしょうか。



箱の右端と左端の数値を読み取って比較してみたらどうかな。

「2006 年～2020 年の方が、第１四分位数も第３四分位数も大きくなっているね。

「1991 年～2005 年の第３四分位数よりも 2006 年～2020 年の第１四分位数の方が大きいから」という説明ではどうかな。

箱ひげ図から読み取ったデータの分布の特徴を根拠にして説明し合う場面を設定しよう！



7 イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日(おうようび)といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのかが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。

そして、二人は次のような表にまとめました。

各年の黄葉日

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
⋮	⋮	⋮
2019	12月10日	71
2020	12月 4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの**黄葉日までの経過日数の分布**は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

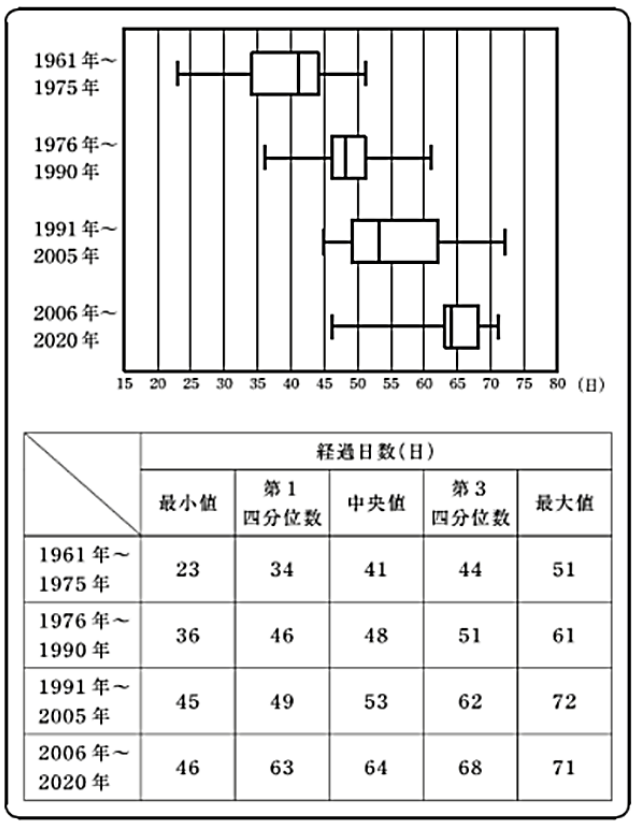
(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。

(2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

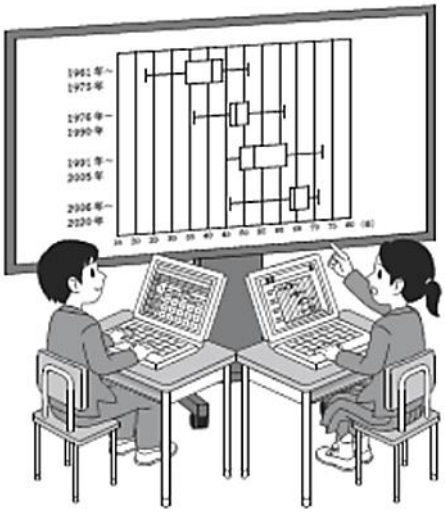
> 一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」
> 啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」
> 一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71



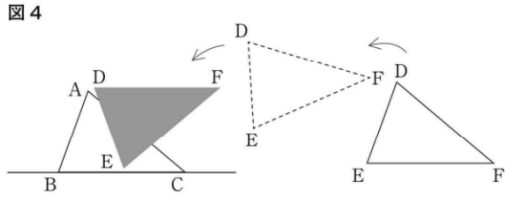
全国学力・学習状況調査　授業改善のポイント（調査問題9）

観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見いだすことや、統合的・発展的に考察する場面を設定しよう！

方法２

① △ABCを置いて、直線BCをひく。そして、図４のように、△DEFを回して、点Dを点Aに、点Eを直線BC上に置く。ただし、点Eは点Bと重ならないように置く。

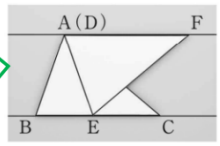
図４



② 図５のように、点Aと点Dが重なった点をAとして、直線AFをひく。

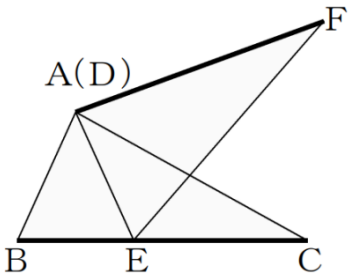
・△ABC≡△DEF
・CA=CBの二等辺三角形ABC

図５



△ABC≡△DEFは変えずに、二等辺三角形でない三角形に変えると、方法２ではBC//AFとなりませんでしたね。△ABCと△DEFが合同でなくてもよいとしたら、平行となることはあるでしょうか。

図８





・△ABC≡△DEF
・二等辺三角形ではない

図９

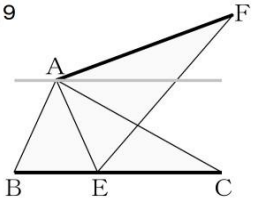


図 10

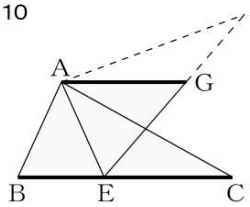




図9のように、BCに平行で点Aを通るような直線をひいてみたよ。



図10のような△ABCと△AEGを考えたら、平行になるのではないかな。

平行になる場合はありそうですね。図10の△ABCと△AEGの2つの三角形にはどんな特徴があるでしょうか。



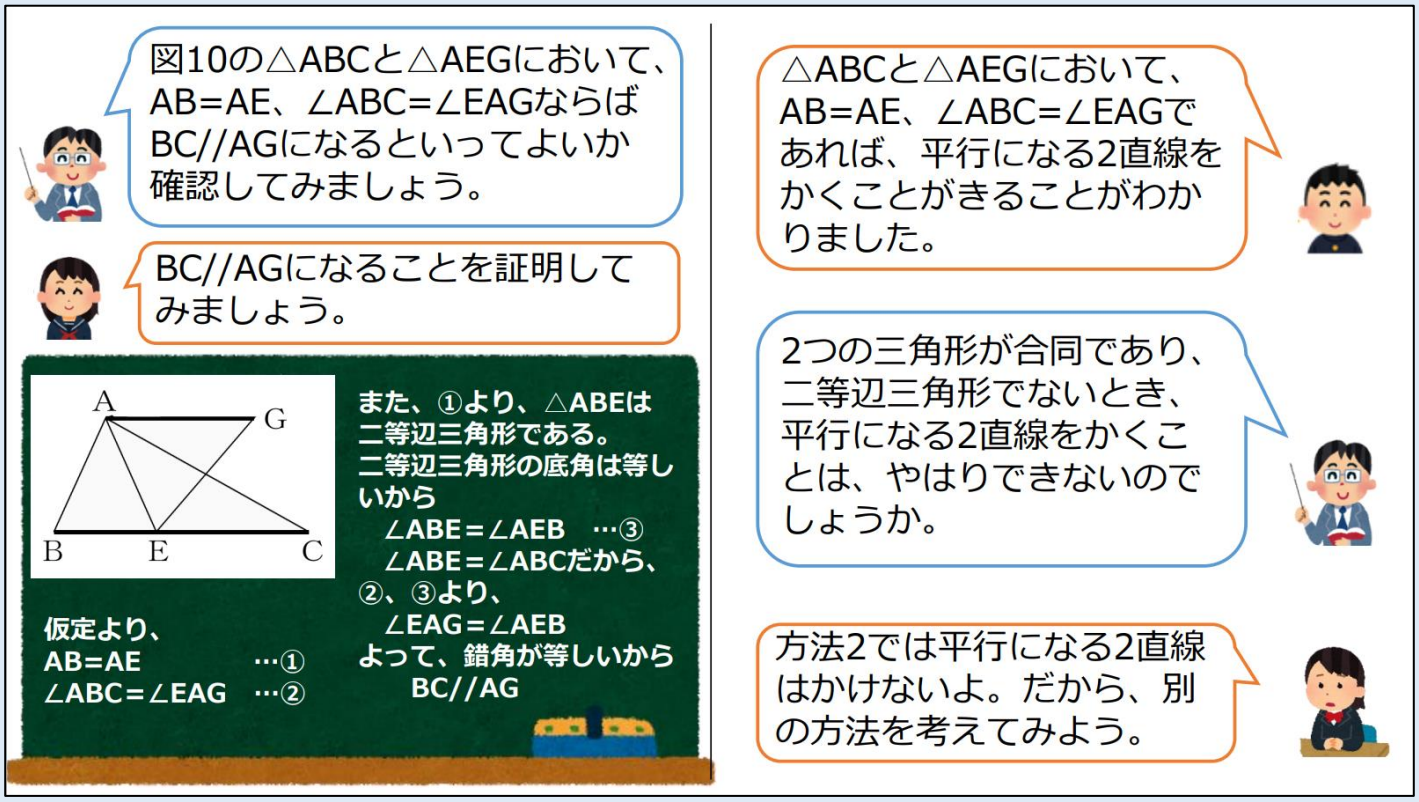
2つの三角形において、AB=AEであることは変わらないね。

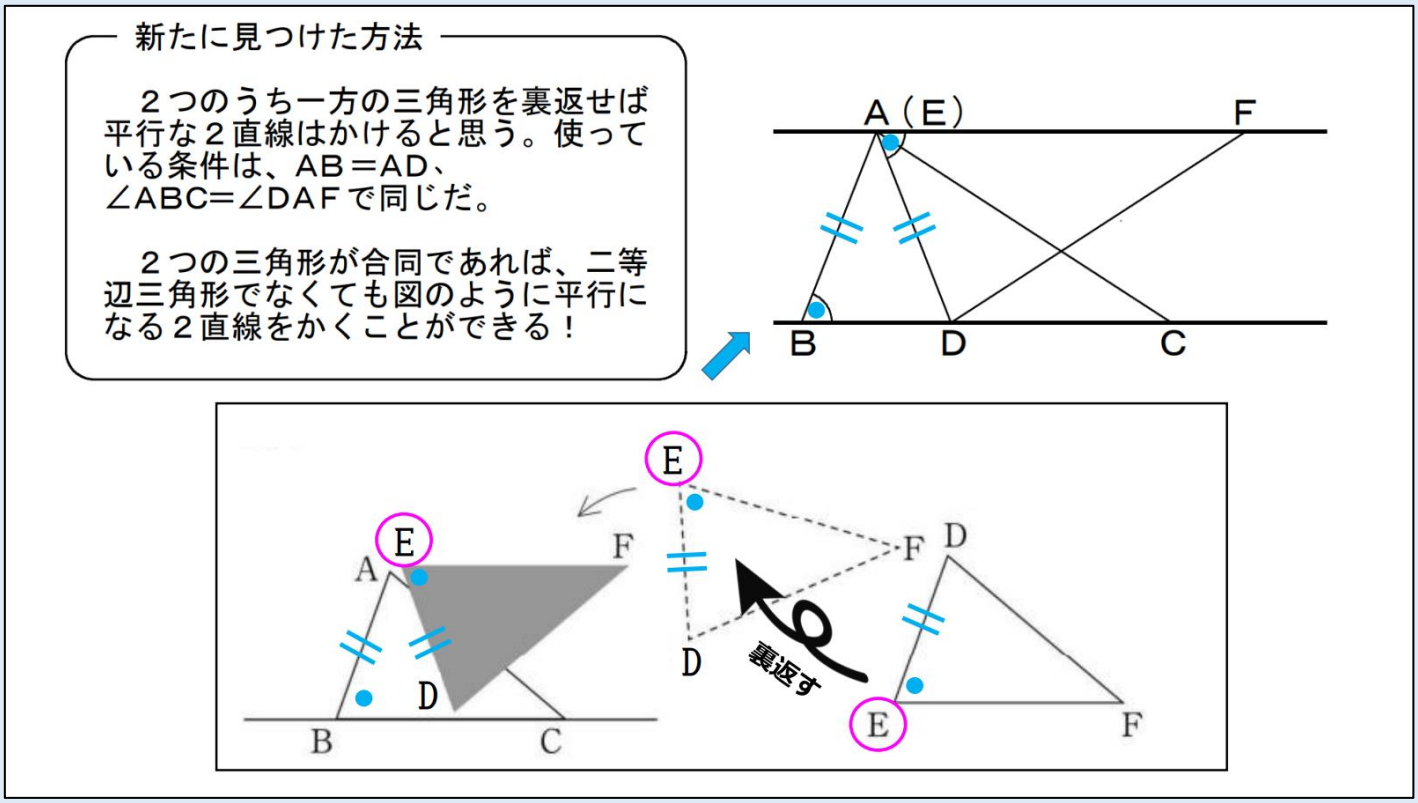
△ABEは二等辺三角形だから、∠ABE=∠AEBがいえるね。



BC//AGになるのは、錯角である∠EAGと∠AEBが等しくなっているということだね。

ということは、∠EAG=∠ABEが成り立つから、△ABCと△AEGにおいて、∠ABC=∠EAGがいえるね。





「令和５年度　全国学力・学習状況調査　報告書」（国立教育政策研究所）
【授業アイディア例】とあわせてご活用ください。

全国学力・学習状況調査 中学校 英語

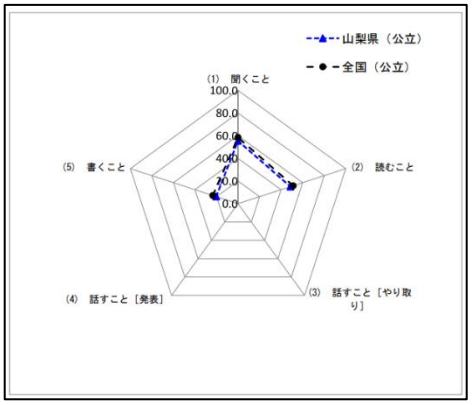
集計結果

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
山梨県（公立）	**5,729**	**7.3 / 17**	**43**	**7.0**	**3.9**
全国（公立）	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

※調査結果は、「話すこと」を除く、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の合計を集計している。
（詳細はP.９・１０を参照）

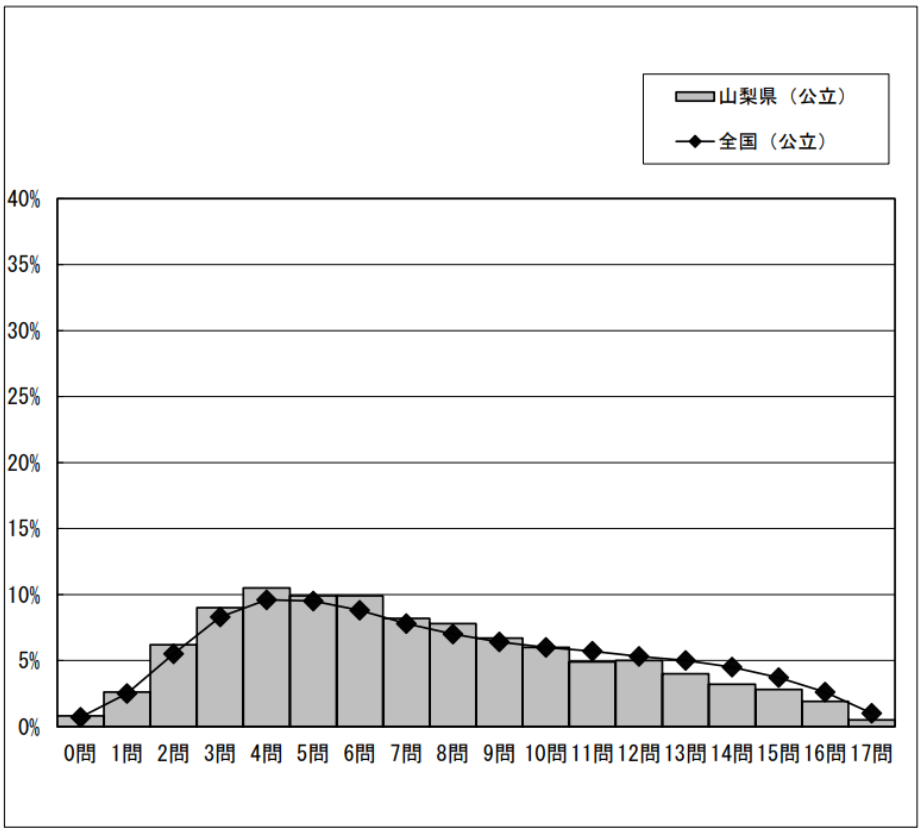
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 山梨県（公立）	平均正答率(%) 全国（公立）
全体		17	**43**	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	**55.4**	58.4
	(2) 読むこと	6	**48.7**	51.2
	(3) 話すこと［やり取り］	0		
	(4) 話すこと［発表］	0		
	(5) 書くこと	5	**20.3**	23.4
評価の観点	知識・技能	9	**48.4**	51.5
	思考・判断・表現	8	**36.3**	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	12	**52.1**	54.8
	短答式	3	**25.6**	30.1
	記述式	2	**12.4**	13.5

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



正答数集計値・分布グラフ

正答数	正答数集計値 生徒数 山梨県（公立）	割合(%) 山梨県（公立）	割合(%) 全国（公立）
１７問	30	0.5	1.0
１６問	111	1.9	2.6
１５問	162	2.8	3.7
１４問	181	3.2	4.5
１３問	230	4.0	5.0
１２問	287	5.0	5.3
１１問	283	4.9	5.7
１０問	345	6.0	6.0
９問	383	6.7	6.4
８問	445	7.8	7.0
７問	469	8.2	7.8
６問	570	9.9	8.8
５問	568	9.9	9.5
４問	601	10.5	9.6
３問	516	9.0	8.3
２問	355	6.2	5.5
１問	150	2.6	2.5
０問	43	0.8	0.7



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと［やり取り］	(4) 話すこと［発表］	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山梨県（公立）	全国（公立）	山梨県（公立）	全国（公立）
1（1）	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○			**80.4**	79.0	**0.1**	0.1
1（2）	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○			**61.0**	64.4	**0.2**	0.2
1（3）	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○			**44.0**	49.8	**0.1**	0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	ア						○		○			**57.2**	61.1	**0.2**	0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	ア						○		○			**38.8**	41.2	**0.2**	0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	ウ						○		○			**51.2**	54.8	**0.5**	0.4
5（1）	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する		○				○			○			**53.7**	56.0	**0.2**	0.3
5（2）	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する		○				○			○			**64.7**	64.5	**0.2**	0.3
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する		ア					○		○			**32.1**	35.9	**0.2**	0.3
7（1）	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する		○				○			○			**55.3**	59.8	**0.2**	0.3
7（2）	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する		イ					○		○			**33.1**	34.7	**0.6**	0.7
8（1）	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する		ウ					○		○			**53.2**	56.1	**0.8**	0.8
8（2）	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く					ウ		○				○	**18.4**	19.5	**28.1**	29.3
9（1）①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる					ア	○				○		**37.0**	40.4	**5.5**	6.6
9（1）②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる					ア	○				○		**16.9**	20.9	**9.8**	10.9
9（2）	メールの英文を依頼する表現に書き換える					ア	○				○		**22.8**	29.0	**23.9**	24.5
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く					イ		○				○	**6.4**	7.4	**17.7**	21.4

こんな姿を目指したい!!



目的・場面・状況に応じて自分の考えを表現できる生徒

正答例　10

Our school has a school festival in October.
In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize.
Many people come to listen to our songs.

特徴的な誤答

- 正答の条件を満たしているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがある。
- 紹介する内容に一貫性がない。（前後のつながりがない、話題が突然変わる、など）

ここがつまずき！

- 正しい語や文法事項等を理解して書くことに課題がある。
- 「主張−根拠や具体−主張の言い換えや要約」といった文章構成の特徴の理解に課題がある。
- 自分の体験や感想ばかりを書き、「ウェブサイトに掲載する」という条件から、読み手を意識した内容になっていない。

誤答から見える生徒のつまずき！

日々の学習における改善・充実

書くことの学習で…

こんな問いかけしてみませんか？



Let's write about our school life and post it on our school website.



○パフォーマンス課題を行う際は、目的・場面・状況に応じて、考えを形成することが大切です。

書く前に①

書く前には、十分にやり取りをして、課題に対する情報や考えを広げましょう。



I want to know more about our school.

Let's talk about our school life. What is your favorite thing in your school life?

I like chorus contest.

What is your favorite school event?

What club are you in?

School festival is exciting.

書く前に②

思考ツール等を活用して、やり取りしたことをまとめたり付け足したりして、自分の考えを整理しましょう。



フィードバック①

相手意識を持たせることで内容面の充実を図りましょう。

Who will see the website?

What do they want to know?



外国の人が見るなら…文化の違いとかいいかも

最後にメッセージを入れたらどうかな

フィードバック②

生徒が伝えたいことを確認しながら、文法等のミスに気付かせたりパラフレーズしたりして、言語面の指導をしましょう。



そう言えばいいのか

私も使ってみよう

How about using "if"?

You can use 助動詞.

付け加えたら、もっとわかりやすいかも

この文を入れ替えたら…

こう言い換えてみたら？

ピア・フィードバック

言語面・内容面の視点をもたせることで、生徒同士の振り返りにも生きます。





ここがPOINT

生徒が相手意識をもって表現できるよう、言語面・内容面の両面からフィードバックの充実を図ろう！

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を 25 語以上の英語で書きなさい。

※　短縮形（I'm や don't など）は１語と数え、符号（ , や ? など）は語数に含めません。

（例）No, I'm not. 【３語】

※　下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

25

45

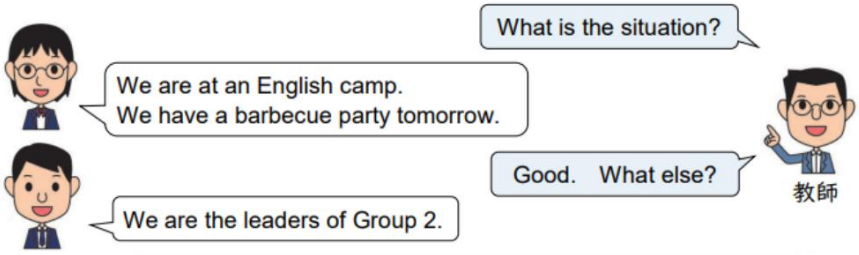
全国学力・学習状況調査　授業改善のポイント（調査問題３）

「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る力を育成するための学習過程」

1．自分の置かれた状況などを理解する → 2．英語を聞き、どういった情報を聞き取らなくてはならないのかを把握する → 3．再び英語を聞き、自分にとって必要な情報は何かを判断する → 4．学んだことを他の場面や状況で活用する

1．自分の置かれた状況などを理解する

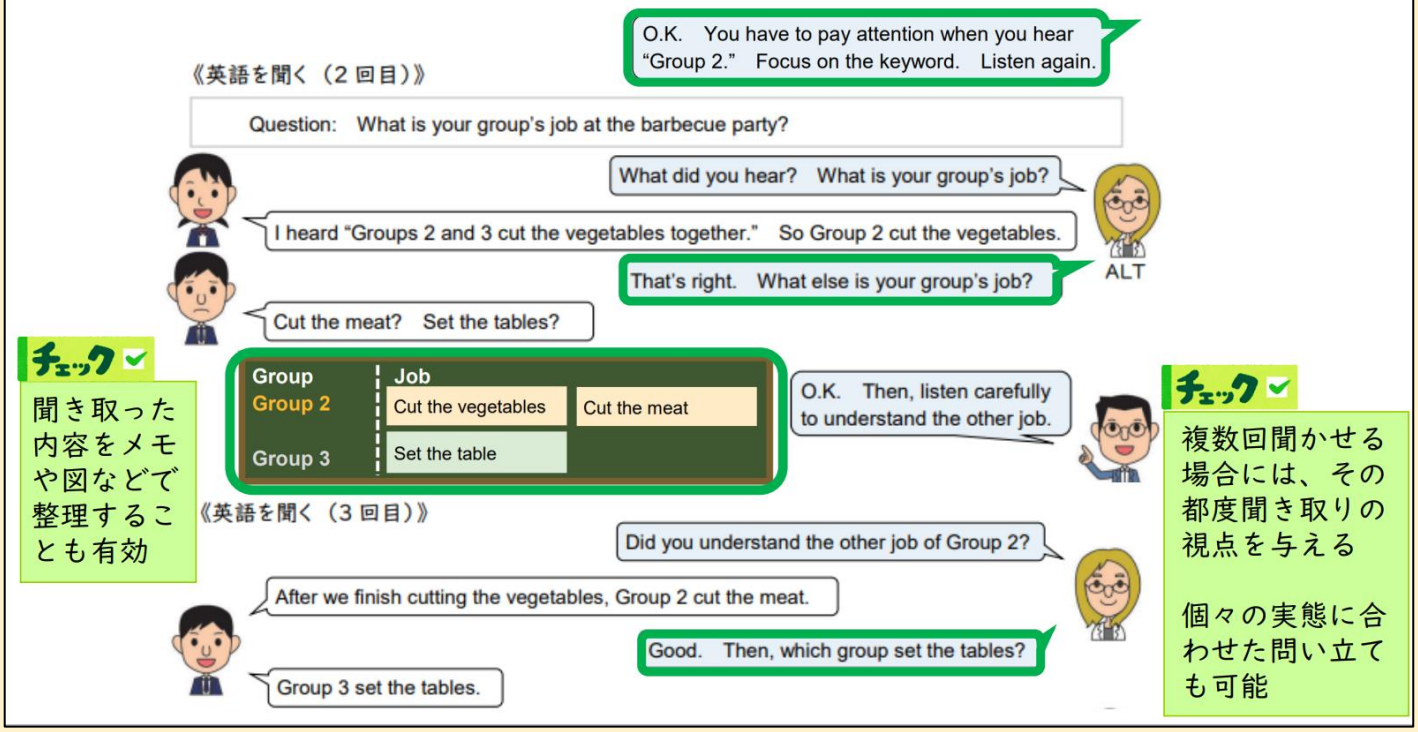
あなたはイングリッシュキャンプに参加しています。これから、2班のリーダーとして明日のバーベキューパーティーについて説明を聞くところです。



チェック　目的・場面・状況の設定、確認

チェック　T-S インタラクションで引き出す・気付かせる

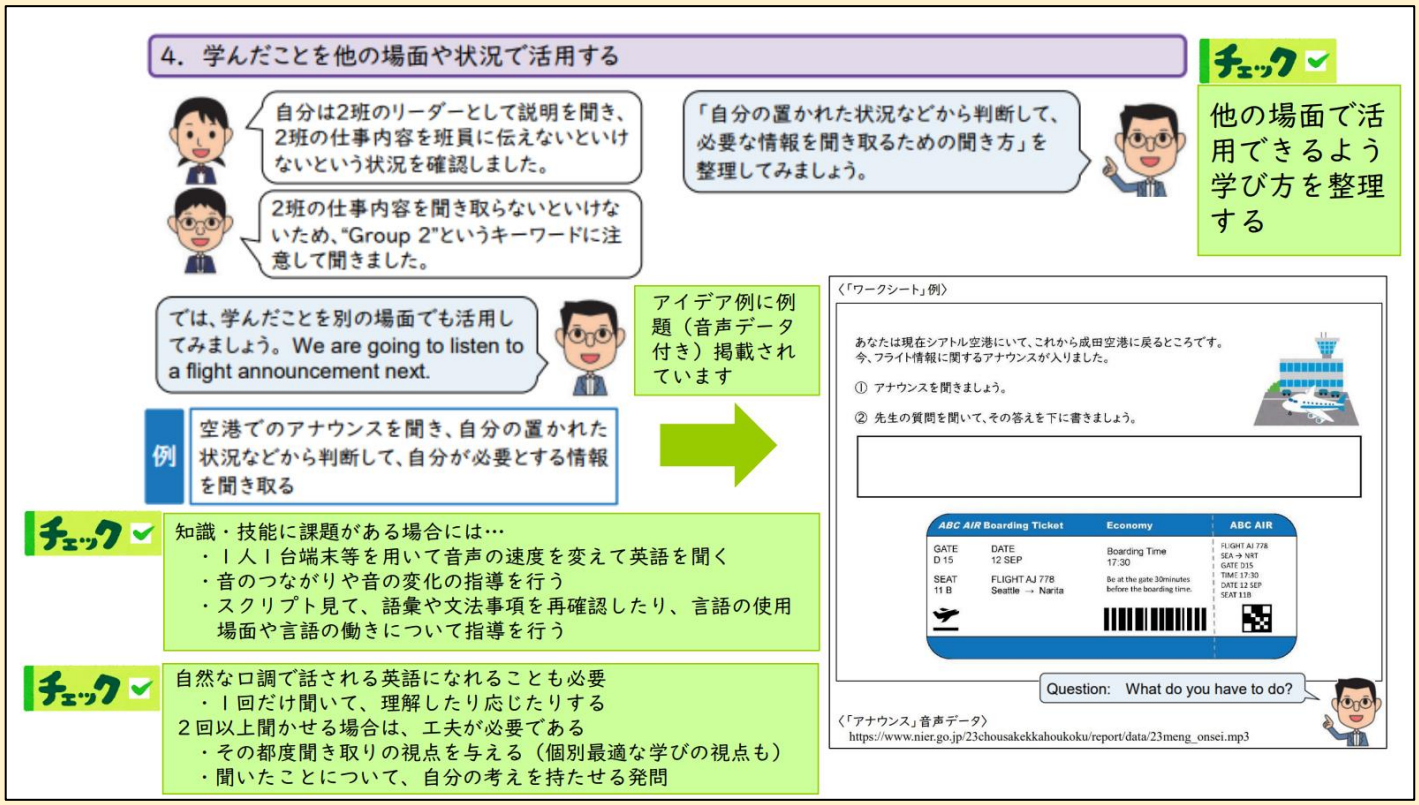
3．再び英語を聞き、自分にとって必要な情報は何かを判断する

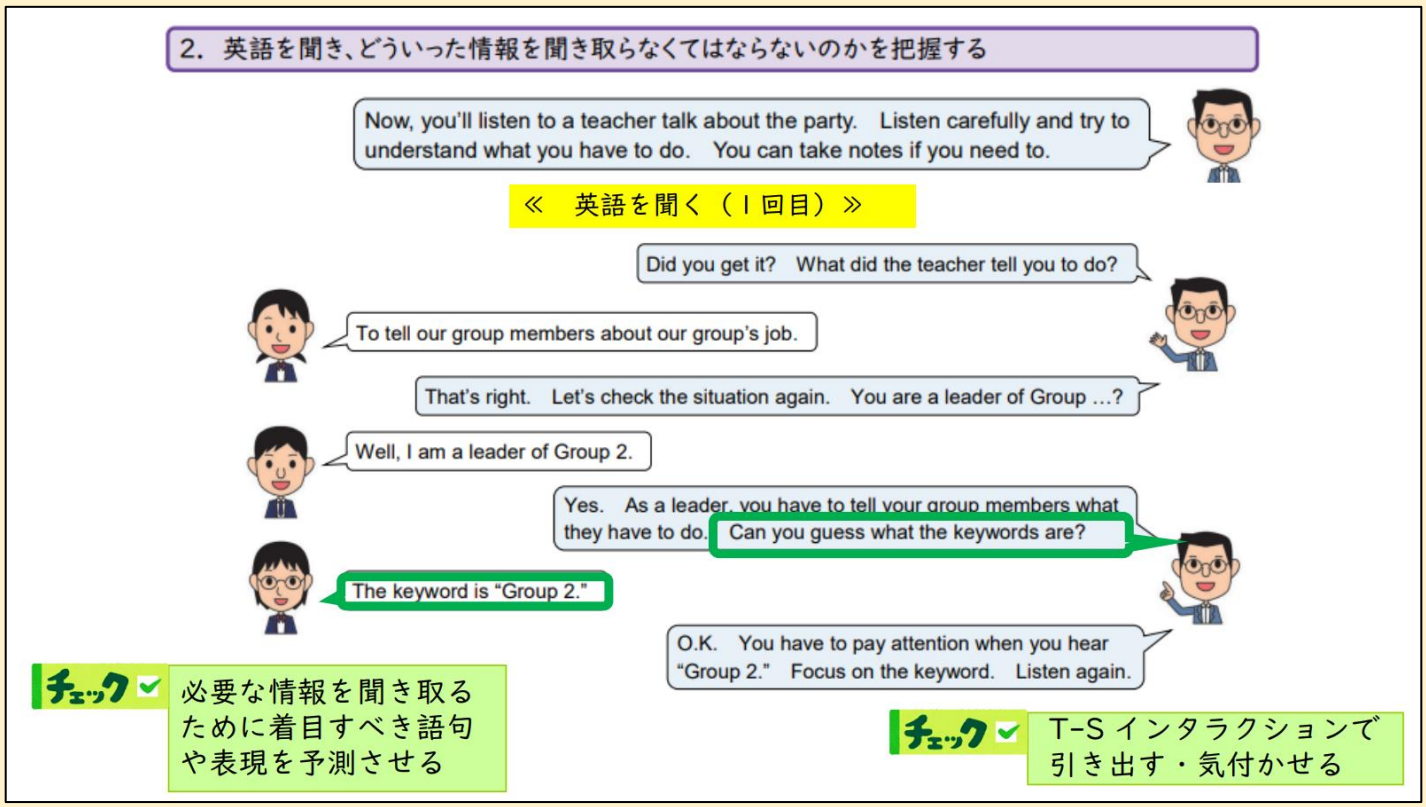


チェック　聞き取った内容をメモや図などで整理することも有効

チェック　複数回聞かせる場合には、その都度聞き取りの視点を与える

個々の実態に合わせた問い立ても可能





「令和５年度　全国学力・学習状況調査　報告書」（国立教育政策研究所）
【授業アイディア例】とあわせてご活用ください。



山梨県学力把握調査

調査結果の概要

授業改善 の Point

山梨県学力把握調査 中学校 国語

実施生徒数（人）	設問数（問）	県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
5,567人	26問	63.2	63.9	−0.7

		県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.6	66.7	0.9
	情報の扱い方に関する事項	44.7	42.1	2.6
	我が国の言語文化に関する事項	91.8	93.1	−1.3
	話すこと・聞くこと	63.8	67.7	−3.9
	書くこと	54.1	56.7	−2.6
	読むこと	62.2	61.2	1.0
観点	知識・技能	64.2	63.1	1.1
	思考・判断・表現	58.9	60.4	−1.5
	主体的に学習に取り組む態度	46.3	50.0	−3.7
解答形式	選択式	64.8	64.8	0.0
	短答式	71.4	70.4	1.0
	記述式	48.1	52.3	−4.2

設問別正答率

通し番号	解答形式	観点			領域						問題の内容	出題のねらい	県正答率（%）	全国正答率（%）	全国との差（ポイント）
		知	思	態	言葉	情報	言語	話聞	書	読					
1	選択		◎					◎			話し合いの内容を聞き取る	必要に応じて記録しながら話の内容を捉えている。	90.8	93.2	−2.4
2	選択		◎					◎				話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	73.7	77.1	−3.4
3	記述		◎	◎				◎				自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。	26.9	32.7	−5.8
4	短答	◎			◎						漢字を読む	第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。	78.8	83.6	−4.8
5	短答	◎			◎								99.4	99.1	0.3
6	短答	◎			◎								98.9	98.3	0.6
7	短答	◎			◎						漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	55.0	57.0	−2.0
8	短答	◎			◎						漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	57.0	58.5	−1.5
9	短答	◎			◎								43.3	30.7	12.6

10	短答	◎					◎				文法・語句に関する事項	歴史的仮名遣いについて理解している。	91.8	93.1	−1.3
11	短答	◎			◎							単語について理解している。	74.4	70.9	3.5
12	選択	◎			◎							文節の関係について理解している。	17.6	18.4	−0.8
13	選択	◎			◎							故事成語について理解している。	84.4	84.2	0.2
14	選択		◎							◎	説明的な文章の内容を読み取る	文章の内容について叙述を基に捉えている。	68.0	65.7	2.3
15	選択		◎							◎		文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。	61.3	57.7	3.6
16	短答	◎	◎			◎				◎		情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している。	43.9	42.4	1.5
17	選択		◎							◎	文学的な文章の内容を読み取る	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。	78.4	79.6	−1.2
18	選択		◎							◎		表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	56.0	55.0	1.0
19	選択		◎							◎		文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。	65.6	66.5	−0.9
20	選択		◎						◎		報告する文章を書く	読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点を見いだしている。	75.0	75.4	−0.4
21	選択	◎	◎			◎			◎			情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	42.0	40.5	1.5
22	記述	◎	◎	◎		◎			◎			情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って、文章を整えている。	48.1	43.5	4.6
23	記述		◎	◎					◎		文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	58.7	66.2	−7.5
24	記述		◎						◎			2段落構成で文章を書いている。	56.6	63.7	−7.1
25	記述		◎	◎					◎			読み取った内容を明確にして書いている。	50.1	54.2	−4.1
26	記述		◎	◎					◎			自分の考えを明確にして書いている。	48.0	53.4	−5.4

【観点について】
（知）知識・技能、（思）思考・判断・表現、（態）主体的に学習に取り組む態度
【領域について】
（言葉）言葉の特徴や使い方に関する事項、（情報）情報の扱い方に関する事項、（言語）我が国の言語文化に関する事項、（話聞）話すこと・聞くこと、（書）書くこと、（読）読むこと

成果及び課題が見られる設問は、主に「県正答率」「全国正答率との差」を踏まえて、取り上げています。

【成果が見られる設問】

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
13	84.4	84.2	選択	0.2
問題の内容	文法・語句に関する事項			
出題のねらい	故事成語について理解している。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
14	68.0	65.7	選択	2.3
問題の内容	説明的な文章の内容を読み取る			
出題のねらい	文章の内容について叙述を基に捉えている。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
15	61.3	57.7	選択	3.6
問題の内容	説明的な文章の内容を読み取る			
出題のねらい	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。			

【課題が見られる設問】
☆次のページに、通し番号22「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の具体的な授業例を提示

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
3	26.9	32.7	記述	−5.8
問題の内容	話し合いの内容を聞き取る			
出題のねらい	自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。			
授業改善の手立て	説明や発表などの学習活動をする際に、話の全体として伝えたいことを明確にするとともに、それを分かりやすく伝えるために、集めた材料や具体的な事実などの話の付加的な部分と、自分の感じたことや考えたことなどの話の中心的な部分を、どのように順序立てて伝えるか考えるなど、自分の考えやその根拠が明確になるように話を構成することができるようにすることが大切である。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
12	17.6	18.4	選択	−0.8
問題の内容	文法・語句に関する事項			
出題のねらい	文節の関係について理解している。			
授業改善の手立て	主語と述語の関係をはじめとする文節どうしの関係を指導する際には、それぞれの文節が文のどのような成分になるかなどの理解を、個別の知識の習得に留めず、「B書くこと」の「推敲」などの学習過程における指導との関連を図るなど、思考・判断し表現することを通じて深めることが大切である。学習の導入時に、小学校段階の既習事項を振り返ることも有効である。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
22	48.1	43.5	記述	4.6
問題の内容	報告する文章を書く			
出題のねらい	情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って、文章を整えている。			
授業改善の手立て	推敲の学習活動をする際に、自分が書いた文章の説明や具体例、描写などについて、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などに着目して見直し、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、そのうえで誤解のない表現やより効果的な表現にしていくように指導することが大切である。			

こんな姿をめざしたい!!



情報と情報の関係について理解し、根拠を明確にして、自分の考えが伝わる文章が書くことができる生徒

課題の見られる設問　6(3)

情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って、文章を整える問題

分析と課題

・情報と情報との関係について理解し、自分の伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に書き表されているかどうかを検討することに課題がある。

1学年の学習で…

第１学年　知技(2)情報の扱い方に関する事項　ア「情報と情報の関係」
　　B書くこと(1)ウ　「考えの形成、記述」
指導のﾎﾟｲﾝﾄ：原因と結果、意見と根拠、根拠を明確にする
教材名：「根拠を示して説明しよう」（光村図書）

＜言語活動例＞　レポートを書こう
書くことの学習において
→情報と情報の関係（原因と結果・意見と根拠）について理解し、根拠を明確にしてレポートを書く。

＜学習活動例＞　モデルレポートを検討しよう。
◎個人でレポートを作成する前に、教師が示す「学習の目標に対して不十分なモデルレポート」について、改善の方法を考える。

〔思考力、判断力、表現力等〕における指導では、〔知識及び技能〕との関連を図り、相互に指導の効果を高めましょう。

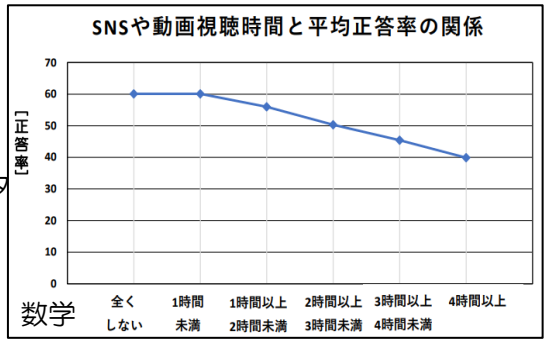
中学生にとってインターネットの利用時間はどれぐらいがよいか。

１　課題
⋮
４　調査の結果
❶　クラスアンケート調査の結果
・利用時間の平均：約２時間３０分
・主な利用内容：動画視聴・ゲーム・音楽視聴・家庭学習
❷　使用時間と成績の関係

（資料）

令和４年度
全国･学力学習
状況調査
質問紙と学力の
クロス分析データ
から作成

国立教育政策
研究所ＨＰより



５　考察
　クラスのアンケート結果を見ると、利用時間の平均は、約２時間３０分だった。国立教育政策研究所が出した「令和４年度全国学力･学習状況調査質問紙と学力のクロス分析」によると、１時間以上の使用が原因で、成績が下がるため（資料）、長時間の使用は私たちの学力に悪い影響を及ぼすと考えられる。
　いっぽう、インターネットの利用が、時間の短縮や学習に役立つといったメリットもあると思う。
　よって、利用内容にもよるが、私は中学生の時期はインターネットの利用時間は、１時間以内にするとよいと考える。

これからみなさんに書いてもらうレポートのモデルを配布しました。このレポートを読んだときに、伝えたいことが伝わってきますか。改善点があれば、コメントに記入しましょう。





「１時間以上の使用が原因で、成績が下がるため」って書いてあるけれど、本当に、それが原因で成績が下がると言えるのかな。必ずしもそうとは言えないよね。

確かにそうだね。ただ、長時間の使用は学力に悪い影響を及ぼすということに対して関係が見られる資料だよね。
表現を「１時間以上の使用は、使用時間に比例して、成績が下がるという調査結果もあるため」とすれば、どうかな。他のグループは、どのように考えているのかな…





考察で、「インターネットの利用が、時間の短縮や学習に役立つといったメリットもあると思う」と書いてあるけれどどのようなことを言っているのだろう。

どのようなことをメリットと考えているのかを伝えるための、具体例がほしいね。



レポートのモデルは、原因と結果の捉えや意見に対する根拠の部分に不十分な点があることに気付けましたね。この点を意識して、説得力のあるレポートを実際に作成していきましょう。



レポート等を書く活動の前に、つまずきとなりそうな点を事前に意識したり、確認したりできる学習内容を設定しよう



山梨県学力把握調査 中学校 数学

実施生徒数（人）	設問数（問）	県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
5,569人	31問	52.1	53.4	−1.3

		県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
領域	数と式	59.7	58.6	1.1
	図形	57.2	60.1	−2.9
	関数	38.4	41.3	−2.9
	データの活用	42.3	44.9	−2.6
観点	知識・技能	57.8	58.9	−1.1
	思考・判断・表現	32.7	34.5	−1.8
	主体的に学習に取り組む態度	37.2	38.6	−1.4
解答形式	選択式	56.1	60.1	−4.0
	短答式	51.0	50.0	1.0
	記述式	35.7	37.0	−1.3

設問別正答率

通し番号	解答形式	観点			領域				問題の内容	出題のねらい	県正答率（%）	全国正答率（%）	全国との差（ポイント）
		知	思	態	数式	図形	関数	データ活					
1	短答	◎			◎				正の数・負の数	絶対値と数の大小について理解している。	46.1	42.4	3.7
2	短答	◎			◎				正の数・負の数	負の数の減法ができる。	86.6	87.4	−0.8
3	短答	◎			◎					負の数の乗法ができる。	90.7	88.8	1.9
4	短答	◎			◎				文字式	同類項をまとめることができる。	76.4	78.7	−2.3
5	短答	◎			◎					1次式の減法ができる。	71.3	48.8	22.5
6	短答	◎			◎				1次方程式	1次方程式を解くことができる。	72.2	71.8	0.4
7	短答	◎			◎				1次方程式	比例式を解くことができる。	61.7	62.1	−0.4
8	選択	◎		◎	◎				文字式	数量を文字式で表すことができる。	66.1	69.0	−2.9
9	選択	◎		◎	◎					数量の間の関係を不等式に表すことができる。	55.3	57.7	−2.4
10	短答		◎	◎	◎				1次方程式	与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。	17.9	21.1	−3.2
11	短答	◎		◎			◎		比例・反比例	関数について理解している。	20.6	18.8	1.8

12	選択	◎					◎		比例・反比例	反比例の関係での、x、yの値の変化の関係について理解している。	51.4	56.7	−5.3
13	選択	◎					◎		比例・反比例	反比例の関係の表をもとに、x、yの値から、反比例の式に表すことができる。	41.7	46.7	−5.0
14	短答	◎		◎			◎			比例の式から、比例のグラフをかくことができる。	39.6	45.4	−5.8
15	短答		◎	◎			◎		比例・反比例	正方形の辺上を動く点を頂点とする三角形の面積の変化の様子を式に表し、yの値からxの値を求めることができる。	36.2	36.0	0.2
16	選択	◎				◎			平面図形	回転移動させたときの回転の角の大きさについて理解している。	58.1	60.2	−2.1
17	短答	◎		◎		◎			平面図形	角の二等分線の性質を理解し、折り目の線を作図することができる。	27.0	23.6	3.4
18	短答	◎				◎			空間図形	おうぎ形の面積を求めることができる。	44.3	44.0	0.3
19	選択	◎				◎			空間図形	三角柱の辺のねじれの位置関係について理解している。	78.8	84.1	−5.3
20	選択	◎				◎				直角三角形を回転させたときの回転体について理解している。	85.7	89.9	−4.2
21	選択	◎				◎				四角錐の投影図について理解している。	78.6	82.3	−3.7
22	選択		◎			◎			空間図形	円錐の側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求めることができる。	37.9	41.4	−3.5
23	選択	◎				◎				底面積が等しい円錐と円柱の体積の関係について理解している。	47.3	54.9	−7.6
24	選択	◎						◎	データの分布の傾向	累積相対度数について理解している。	62.5	66.2	−3.7
25	選択	◎						◎		範囲に関する説明の中から正しい文を選ぶことができる。	41.3	47.4	−6.1
26	短答	◎		◎	◎				正の数・負の数	目標の数との差を正負の数で表した表から、最大の数と最小の数の差を求めることができる。	30.3	33.1	−2.8
27	記述		◎	◎	◎					目標の数との差を正負の数で表した表を理解して、7日目でどれだけの花束を作ることができれば、目標の数の花束を作ることができるか判断し、その理由を説明できる。	42.0	42.2	−0.2
28	短答		◎	◎			◎		比例・反比例	比例の考え方を利用し、追加で花束を作ったときにかかる時間を求めることができる。	40.9	43.9	−3.0
29	短答	◎		◎				◎	データの分布の傾向	ヒストグラムから階級の幅を読み取ることができる。	53.6	53.8	−0.2
30	選択		◎	◎				◎		全体の中での1つの記録の位置を判断するための根拠となる値を選ぶことができる。	24.8	25.3	−0.5
31	記述		◎	◎				◎		ある傾向が強いと思われる一方を選び、その理由を2つの相対度数の度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明することができる。	29.4	31.7	−2.3

【観点について】
（知）知識・技能、（思）思考・判断・表現、（態）主体的に学習に取り組む態度
【領域について】
（数式）数と式、（図形）図形、（関数）関数、（デ活）データの活用

成果及び課題が見られる設問は、主に「県正答率」「全国正答率との差」を踏まえて、取り上げています。

【成果が見られる設問】

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
3	90.7	88.8	短答	1.9
問題の内容	正の数・負の数			
出題のねらい	負の数の乗法ができる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
5	71.3	48.8	短答	22.5
問題の内容	文字式			
出題のねらい	1次式の減法ができる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
6	72.2	71.8	短答	0.4
問題の内容	1次方程式			
出題のねらい	1次方程式を解くことができる。			

【課題が見られる設問】
☆次のページに、通し番号10「1次方程式」の具体的な授業例を提示

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
10	17.9	21.1	短答	−3.2
問題の内容	1次方程式			
出題のねらい	与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。			
授業改善の手立て	具体的な場面における問題を1元1次方程式を活用して解決できるようにするためには、以下の①～④のような一連の活動を行うことを通して、方程式を活用し問題を解決する方法を理解できるように指導する必要がある。 ①求めたい数量に着目して、それを文字で表す。 ②問題の中の数量やその関係から、2通りに表される数量を見いだし、文字を用いた式や数で表す。 ③それらを等号で結んで方程式をつくり、その方程式を解く。 ④求めた解を問題に即して解釈し、問題の答えを求める。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
23	47.3	54.9	選択	−7.6
問題の内容	空間図形			
出題のねらい	底面積が等しい円錐と円柱の体積の関係について理解している。			
授業改善の手立て	錐体の体積と柱体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、錐体の容器に入った水を柱体の容器に移したり、逆に柱体の容器に入った水を錐体の容器に移したりする実験を通して確かめる場面を設定することが考えられる。そのうえで、底面の形が合同で高さも等しい柱体と錐体の体積の関係を捉えられるように指導することが大切である。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
31	29.4	31.7	記述	−2.3
問題の内容	データの分布の傾向			
出題のねらい	ある傾向が強いと思われる一方を選び、その理由を2つの相対度数の度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明することができる。			
授業改善の手立て	代表値の大小比較だけではなく、2つの度数折れ線（度数分布多角形）の形や位置関係にも着目して、それぞれの分布の特徴について話し合う場面を設定することが考えられる。そのうえで、見いだした分布の特徴からある結論を導く際の根拠を明確にし、判断した内容とその理由について説明する活動を取り入れることが大切である。			

こんな姿をめざしたい!!



具体的な場面における問題を方程式を利用して解決することができる生徒

課題の見られる設問 6

与えられた文章題に対して、適切な１元１次方程式を立式する問題

分析と課題

具体的な場面における問題を方程式を利用して解決するための手順について理解していないこと。

日々の学習における改善・充実

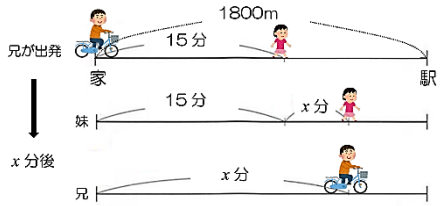
全学年の学習で…

１人１台端末の画面

家から離れた駅に向かって、妹が家を出発しました。兄が妹の忘れ物に気づいて、妹が出発してから 15 分後に同じ道を自転車で追いかけました。妹は分速 70m、兄は分速 220mで進むとすると、兄が妹に追いつくのは兄が出発してから何分後ですか。

配信

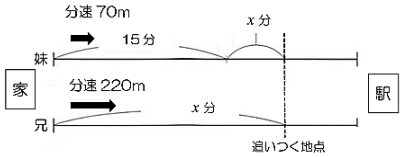
問題にふくまれる数量を図に整理してみよう。



兄が出発してから x 分後に妹に追いつくとして、問題にふくまれる数量を表にまとめてみよう。

	妹	兄
速さ	70	220
時間	15+x	x
道のり	70(15+x)	220x

兄が妹に追いつくとき、妹が進んだ道のりと兄が進んだ道のりが等しくなりそうだ。



兄が出発してから x 分後に妹に追いつくとする。

$220x = 70(15+x)$
$220x = 1050+70x$
$150x = 1050$
$x = 7$

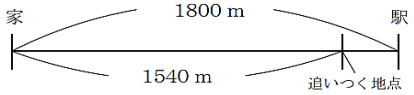
妹が駅に着くまでに、兄は妹に追いつくことができるでしょうか。

$x=7$ を両辺に代入すると、
左辺は、$220\times7=1540$
右辺は、$70\times(15+7)=1540$
で両辺の値が等しくなるから、解は 7 で正しいよ。方程式を解いて確かめたのだから、7 分後に追いつくはずだよ。

本当にそうかな。

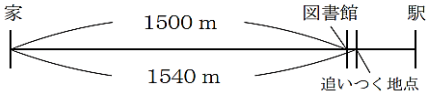
家から駅までの道のりは 1800mあるけれども駅に着くまでに追いつくのかな。

兄は $220\times7=1540$ で 1540m地点に、妹は $70\times(15+7)=1540$ で 1540m地点にいるよ。2 人が進む道のりは、家から駅までの道のり 1800mより短いから追いつくことができるよ。



もし、家から 1500m離れた図書館までだとしたら追いつくことができるかな。

兄は妹に 1540m地点で追いつくから、図書館に着くまでには追いつくことができないね。



①何を文字で表すかを決める。
②数量の間の関係を見つけて、方程式をつくる。
③つくった方程式を解く。
④方程式の解が問題に適しているか確かめる。

問題解決までの手順をまとめておこう。

方程式を利用して解決するときの考え方や手順に着目した学習活動を取り入れよう。



山梨県学力把握調査 中学校 英語

実施生徒数（人）	設問数（問）	県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
5,565人	33問	47.5	46.1	1.4

		県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
領域	聞くこと	57.5	57.4	0.1
	読むこと	50.4	50.7	−0.3
	書くこと	34.3	29.6	4.7
観点	知識・技能	55.9	54.3	1.6
	思考・判断・表現	34.4	33.5	0.9
	主体的に学習に取り組む態度	21.0	17.0	4.0
解答形式	選択式	57.0	57.4	−0.4
	短答式	35.4	30.0	5.4
	記述式	29.2	25.3	3.9

設問別正答率

通し番号	解答形式	観点			領域			問題の内容	出題のねらい	県正答率（%）	全国正答率（%）	全国との差（ポイント）
		知	思	態	聞	読	書					
1	選択	◎			◎			リスニング（内容理解）	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。（命令文）	90.7	93.8	−3.1
2	選択	◎			◎				絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。（人と動作）	68.6	66.9	1.7
3	選択	◎			◎				絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。（人物と曜日）	86.0	89.5	−3.5
4	選択	◎			◎			リスニング（対話文の応答）	対話の内容を聞き取り、適切に応答している。（何をしたかとたずねられて）	60.6	54.2	6.4
5	選択	◎			◎				対話の内容を聞き取り、適切に応答している。（手伝うことはできるかとたずねられて）	66.1	62.6	3.5
6	選択	◎			◎				対話の内容を聞き取り、適切に応答している。（どこで買ったかとたずねられて）	15.1	14.8	0.3
7	選択		◎		◎			リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	日常的な話題について聞き、概要を捉えている。	81.4	85.3	−3.9
8	選択		◎		◎			リスニング（さまざまな英文の聞き取り）	日常的な話題について聞き、要点を捉えている。	36.7	39.3	−2.6
9	記述		◎	◎	◎			リスニング（対話文の応答）	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答えている。	12.6	10.0	2.6
10	選択	◎				◎		語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。（一般動詞の過去の否定文）	22.3	23.1	−0.8
11	選択	◎				◎			対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。（疑問詞who）	82.2	82.2	0.0

12	選択	◎				◎		語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(代名詞の目的格)	55.0	48.8	6.2
13	選択	◎				◎			対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(一般動詞の過去の疑問文)	36.5	42.6	−6.1
14	選択	◎				◎		語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。	79.9	80.6	−0.7
15	選択	◎				◎			英文の情報を読み取り、その内容を理解している。	71.9	76.8	−4.9
16	選択		◎			◎		さまざまな英文の読み取り	対話文を読み、必要な情報を把握して適切な場所を選んでいる。	48.7	47.2	1.5
17	選択		◎			◎			学校紹介を読み、必要な情報がどの部分にあるかを把握して、適切な箇所を選んでいる。	42.7	42.1	0.6
18	選択	◎				◎			対話を読み、対話の流れとチラシから、必要な情報を把握して適切な語を選んでいる。	69.5	71.1	−1.6
19	選択		◎			◎			対話を読み、対話の流れとチラシから、必要な情報を把握して文脈に応じた内容を判断している。	28.8	30.1	−1.3
20	選択	◎				◎		長文の読み取り	メールを読み、代名詞Itの内容を理解している。	65.9	62.5	3.4
21	選択		◎			◎			メールを読み、その概要を捉えている。	37.5	38.3	−0.8
22	選択	◎				◎			メールを読み、その内容を理解している。	51.6	52.9	−1.3
23	短答		◎	◎		◎			メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。	12.8	10.8	2.0
24	短答	◎					◎	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(be動詞の否定文)	21.4	17.8	3.6
25	短答	◎					◎		基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(一般動詞の過去の疑問文)	72.2	61.3	10.9
26	記述		◎				◎	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whatを使って好きなスポーツをたずねる)	48.1	54.2	−6.1
27	記述		◎				◎		対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whenを使っていつ行ったかをたずねる)	18.6	14.0	4.6
28	記述	◎					◎	情報に基づいて書く英作文	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書いている。	33.7	27.6	6.1
29	記述	◎					◎			37.2	30.0	7.2
30	記述	◎					◎		与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制のcanを使った肯定文を正確に書いている。	32.5	27.5	5.0
31	記述		◎	◎			◎	3文以上の英作文	自分の町の有名なものについて、相手に伝わるように書いている。	31.3	27.5	3.8
32	記述		◎	◎			◎		自分の町の有名なものについて、その理由や説明する英文を相手に伝わるように書いている。	23.1	17.1	6.0
33	記述		◎	◎			◎		自分の町の有名なものについて、まとまった内容で紹介する英文を相手に伝わるように書いている。	25.4	19.4	6.0

【観点について】
(知)知識・技能、(思)思考・判断・表現、(態)主体的に学習に取り組む態度
【領域について】
(聞)聞くこと、(読)読むこと、(書)書くこと

成果及び課題が見られる設問は、主に「県正答率」「全国正答率との差」を踏まえて、取り上げています。

【成果が見られる設問】

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
18	69.5	71.1	選択	−1.6
問題の内容	さまざまな英文の読み取り			
出題のねらい	対話文を読み、対話の流れとチラシから、必要な情報を把握して適切な語を選んでいる。			

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
20	65.9	62.5	選択	3.4
問題の内容	長文の読み取り			
出題のねらい	メールを読み、代名詞Itの内容を理解している。			

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
25	72.2	61.3	短答	10.9
問題の内容	単語の並べ替えによる英作文			
出題のねらい	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。（一般動詞の過去の疑問文）			

【課題が見られる設問】
☆次のページに、通し番号27「場面に応じて書くこと」に取り組むための授業例を提示

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
9	12.6	10	記述	2.6
問題の内容	リスニング（対話文の応答）			
出題のねらい	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答えている。			
授業改善の手立て	言語活動に取り組む際、中間指導において内容面と言語面をバランス良く指導することが大切である。例えば、Small Talkでは、会話が止まってしまった例を取り上げ、会話の続きを全体で考えさせたり、関連する質問が上手にできている例を取り上げたりして、会話を続ける方略や、応答の適切さを指導する。生徒同士の活動だけでは、指導しきれない部分もあるので、T−Sインタラクションを表現力向上の場と捉えて取り組むことも重要である。また、リスニング活動においては、学習者用デジタル教科書等を活用し、個々の生徒の学習進度に合わせて指導することが大切である。			

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
23	12.8	10.8	短答	2.0
問題の内容	長文の読み取り			
出題のねらい	メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。			
授業改善の手立て	教科書などで説明文やエッセイ、物語などの文章全体を読む際、時系列に情報を絵や図に置き換えて整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容を把握したりする活動に取り組む。情報の関係を示す接続詞や代名詞に注目させたり、キーワードを拾い、全体としての内容を数文の英語でまとめたりする活動が考えられる。概要の把握という受容面での英語使用にとどまらない指導が大切である。			

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
27	18.6	14.0	記述	4.6
問題の内容	場面に応じて書くこと			
出題のねらい	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。（疑問詞を用いた疑問文）			
授業改善の手立て	文法事項の定着や適切な使い分けについては、意味のある文脈の中で言語の働きに気付かせ、何度も繰り返しその表現に触れさせることが最も重要である。そのうえで、既習の文法事項と新しく学んだ文法事項とを比較し、共通点や相違点を考える活動や、意味のある文脈を設定し、適切な表現を選択して書く活動などが考えられる。また、学習用デジタル教科書等を活用し、適切な表現を探し出すように指導することも考えられる。			

こんな姿をめざしたい!!



目的・場面・状況から文の形式や時制を的確に判断し、正確に書くことができる生徒

課題の見られる設問　10（2）

場面に応じて質問をする。前後の対話の流れに合った英文を書く問題。

分析と課題

- 前後の文脈から、文の形式や時制を的確に捉えることができていない。
- 前後の文脈から内容を理解しているが、書きたい内容を表現する英語が身に付いていない。
- 疑問文を正確に書くことは経年的な課題である。

日々の学習における改善・充実

言語活動を通して

教師↔生徒↔ALT のやり取りの中で、文の形式や時制に気付く

What did you do this summer holiday, Alex sensei?

I went to Lake Kawaguchi and enjoyed the great view of Mt. Fuji.　I took a lot of pictures.

How about you?

Go to the museum with my father.

Oh, you went to the museum with your father.　I visited the art museum next week. What kind of museum did you go to?

I went to the art museum. They have many beautiful paintings.

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を把握し、学習の見通しをもつ

That's nice.　There are many good places I have never visited in Yamanashi.　I want to know more and visit there.

Where do you recommend me to go in Yamanashi?

意味のある文脈の中で、言語の働きを理解し、表現を使い分ける

Alex 先生の好みに合わせたいな

What do you like to do?

What is your favorite thing?

What do you want to see?

すでに予定はあるかな？ これからのことを聞くから…

Do you have any plans for the next holiday?

When will you be free?

もう行ったことがあるかも…過去や経験を聞いておこう

Where did you go in Yamanashi?

Have you ever been to Kiyosato?

話したことを書いて確認したり、既習事項を整理したりして、正確性を確かめる

聞きたいことによって、使う動詞や助動詞、時制が変わったね。具体的には･･･

時制についてまとめておこう

疑問文が使えると話題が広がるなあ

学んだことを他の状況でも活用する

授業改善の POINT

意味のある文脈、言語の働きを意識した使用場面を設定しよう！
既習事項を整理し、他の状況でも活用できる場面を仕組もう！



山梨県公立小中学校
教育課程実施状況調査

調査結果の概要

授業改善 の Point

教育課程実施状況調査 小学校 社会

実施生徒数（人）	設問数（問）	県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
588人	28問	59.4	65.4	−6.0

		県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
領域	国土	54.9	61.4	−6.5
	農水	54.3	60.1	−5.8
	工業	62.1	68.5	−6.4
	情報	81.6	85.2	−3.6
	環境	46.1	53.7	−7.6
観点	知識・技能	57.8	64.8	−7.0
	思考・判断・表現	62.7	66.7	−4.0
	主体的に学習に取り組む態度	55.8	59.6	−3.8
解答形式	選択式	61.0	66.2	−5.2
	短答式	52.9	61.5	−8.6
	記述式	62.8	68.6	−5.8

設問別正答率

通し番号	解答形式	観点			領域					問題の内容	出題のねらい	県正答率（%）	全国正答率（%）	全国との差
		知	思	態	国土	農水	工業	情報	環境					
1	選択	◎			◎					世界の中の国土	南アメリカ大陸の名称と南アメリカ大陸に位置する国の国旗について理解している。	38.1	38.2	−0.1
2	選択	◎			◎						日本の領土の範囲について理解している。	72.6	73.5	−0.9
3	記述		◎	◎	◎						海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考え、表現している。	50.2	57.2	−7.0
4	選択	◎			◎					日本の国土と人々のくらし	日本の主な地形の名称と位置について理解している。	44.6	64.3	−19.7
5	選択	◎		◎	◎						季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取っている。	47.1	52.7	−5.6
6	短答	◎			◎						台風について理解している。	76.7	82.7	−6.0
7	短答	◎				◎				日本の農業	品種改良について理解している。	20.7	28.1	−7.4
8	選択		◎	◎		◎					農業が抱える課題を解決するための取り組みについて考えている。	90.6	93.1	−2.5
9	選択	◎				◎				日本の水産業	日本近海の漁獲量の多い港の特徴について、資料を読み取っている。	57.3	73.0	−15.7
10	選択		◎			◎					さいばい漁業の利点について、資料をもとに考えている。	59.2	63.6	−4.4

11	短答	◎				◎				日本の食料生産	農産物の生産額の割合についてグラフにまとめている。	56.5	58.9	−2.4
12	選択	◎				◎					日本の主な食料の自給率について理解している。	42.3	49.4	−7.1
13	選択		◎			◎					輸入などの外国との関わりにおける課題について考えている。	62.8	67.0	−4.2
14	選択		◎	◎		◎					地産地消の取り組みについて、複数の資料をもとに判断している。	44.7	47.3	−2.6
15	選択	◎					◎			自動車をつくる工業	自動車の製造工程について理解している。	87.4	93.9	−6.5
16	記述		◎	◎			◎				自動車工場を支える関連工場の役割について、資料をもとに考え、表現している。	75.5	79.9	−4.4
17	選択	◎					◎				自動車の部品を再利用する目的について理解している。	77.2	87.1	−9.9
18	選択	◎					◎			日本の工業生産	日本の主な工業地帯・工業地域について理解している。	44.0	47.1	−3.1
19	選択	◎		◎			◎				さまざまな輸送機関の特徴についての理解をもとに、資料を読み取っている。	52.4	51.8	0.6
20	選択	◎					◎				日本の主な輸出品・輸入品について理解している。	50.3	52.4	−2.1
21	短答	◎					◎				中小工場について理解している。	48.0	67.4	−19.4
22	選択	◎						◎		情報を生かした産業	さまざまなメディアの特徴について理解している。	89.8	95.1	−5.3
23	選択		◎					◎			産業における情報活用の現状について考えている。	67.7	67.7	0.0
24	短答	◎						◎			情報通信機器の利用について、資料を読み取っている。	85.5	88.6	−3.1
25	選択		◎					◎			情報の発信と受信の注意点について考えている。	83.5	89.3	−5.8
26	選択	◎							◎	自然環境と国民生活	森林を守るための間伐について理解している。	78.6	82.7	−4.1
27	選択		◎	◎					◎		自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることについて、資料をもとに考えている。	29.9	34.9	−5.0
28	短答	◎							◎		公害について理解している。	29.8	43.5	−13.7

【観点について】
（知）知識・技能、（思）思考・判断・表現、（態）主体的に学習に取り組む態度
【領域について】
（国土）国土の自然などの様子、（農水）農業や水産業、（工業）工業生産、（情報）産業と情報との関わり、（環境）国土の自然環境と国民生活

成果及び課題が見られる設問は、主に「県正答率」「全国正答率との差」を踏まえて、取り上げています。

【成果が見られる設問】

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
8	90.6	93.1	選択	−2.5
問題の内容	日本の農業			
出題のねらい	農業が抱える課題を解決するための取り組みについて考えている。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
19	52.4	51.8	選択	0.6
問題の内容	日本の工業生産			
出題のねらい	さまざまな輸送機関の特徴についての理解をもとに、資料を読み取っている。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
23	67.7	67.7	選択	0.0
問題の内容	情報を生かした産業			
出題のねらい	産業における情報活用の現状について考えている。			

【課題が見られる設問】
☆次のページに、通し番号4「日本の国土と人々のくらし」に関連した授業例を提示

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
4	44.6	64.3	選択	−19.7
問題の内容	日本の国土と人々のくらし			
出題のねらい	日本の主な地形の名称と位置について理解している。			
授業改善の手立て	日本の国土の様子と国民生活について、社会的事象の見方・考え方を働かせ、例えば、「日本の地形や気候にはどのような特色があるか」、「人々は地形条件や気候条件をどのように生かしているか」等の問いを設けて、個々の児童が、調べたり、国土の位置と地形や気候を関連付けて国土の特色を考えたり、国土の自然環境と国民生活の関連を考えたりして、調べたことや考えたことを表現することを通して、日本の国土の地形や気候の概要について理解を目指すような展開が考えられる。 ※第4学年「県内の伝統や文化、先人の働き」や第6学年「我が国の歴史上の主な事象」の内容の取り扱いで世界遺産や日本遺産を取り上げることが明記されていることを踏まえ、系統的に教材を選ぶという視点も考えられる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
9	57.3	73.0	選択	−15.7
問題の内容	日本の水産業			
出題のねらい	日本近海の漁獲量の多い港の特徴について、資料を読み取っている。			
授業改善の手立て	日本の食料生産について、社会的事象の見方・考え方を働かせ、例えば、「どこでどのようなものが生産されているか」、「生産量はどのように変化しているか」、「外国とどのような関わりがあるか」「なぜ、〇〇では水産業がさかんなのか」等の問いを設けて、個々の児童が、調べたり、食料生産と国民生活を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現することを通して、日本の食料生産の概要についての理解を目指すような展開が考えられる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
21	48.0	67.4	短答	−19.4
問題の内容	日本の工業生産			
出題のねらい	中小工場について理解している。			
授業改善の手立て	日本の工業生産について、社会的事象の見方・考え方を働かせ、例えば、「日本はどのような工業がさかんか」、「工業のさかんな地域はどのように広がっているか」、「工業製品はどのように改良されてきたか」等の問いを設けて、個々の児童が、調べたり、工業製品と国民生活を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現することを通して、日本の工業生産の概要についての理解を目指すような展開が考えられる。 ※第5学年内容(3)ア(イ)に関連した単元で、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解した上で、日本の中小工場について再考する場面を設定することも考えられる。			

こんな姿をめざしたい!!



自ら課題を捉え、学習を調整しながら追究する児童

課題の見られる設問　1（２）2（１）

【日本の国土と国民生活】
・日本の海岸線が長い理由について、地図を参考にして記述する問題。

・日本の主な地形の名称と位置について、地図から選択する問題。

分析と課題

○基本的な用語や地図やグラフの読み取り等の知識・技能の定着に課題が見られる。

○社会的事象の特色の説明に課題が見られる。

課題改善のために…
○身に付けさせたい資質・能力の明確化
○社会的事象の見方・考え方を働かせた問題解決的学習の実施
・課題設定の工夫
・学習者主体の学びの視点からの学習過程の工夫

日々の学習における改善・充実

5学年の学習で…

※本時例は、学習指導要領第５学年内容（１）ア（ア）を基に単元を構成した際の、単元中の１時間を想定したものである。学習指導要領で示された理解項目の習得のためには単元全体をデザインする等、系統的な視点も重要である。（R４「授業改善のpoint」参照）

学習指導要領の理解項目について、児童一人一人が調べ、まとめる中で理解できるようにするためには…

授業改善のPOINT

これは、日本と中国の海岸線の長さですが…

えっ？面積は小さいのに、なぜ日本の方が海岸線が長いの？

日本の国土の様子に関係しているのではないかな？

児童の疑問を引き出す工夫をしていますか？

児童は課題意識をもっていますか？

日本の国土は、どのような様子なのだろう？

児童とともに、理解させたいことにつながる単元の学習問題や各時間の学習課題を設定していますか？

※児童一人一人が別の課題に取り組むような展開も考えられる。（「学力調査を踏まえた授業力アップ研修会」資料参照）

児童が課題の解決を目指して資料を活用して追究していますか？

私は、教科書（地図帳）を使って調べ、まとめてみます。

資料集も使って、さらに情報を集めてみよう。

あっ！○○さんのこの記述、参考にさせてもらおう。

私は、教科書などで調べ終わったから、インターネットを使って他の国の様子も調べてみよう。

情報収集、読み取り、まとめ等の指導を積み重ねた上で、学習活動を児童に委ねてみませんか？

児童が協働的な学びから自らの学びを振り返り，調整しようとしていますか？

調べてみて日本の国土は、世界の国と比べてみると島が多いことがわかったよ。

世界の中で、どれくらい多い方なのだろう？

調べたことを友達に説明していたら、自分の理解が十分でないところがわかったぞ。もう一度まとめを見直してみよう。

どこからどこまでを日本の国土というのでしょう？

児童の様子を見ながら、位置や空間的な広がり等の「見方」、比較等の「考え方」を意識できる支援をしていますか？

比較するためにはどのような資料が必要でしょうか？

「島が多い」ということはどんな影響があるのでしょう？

児童は課題追究を通して理解できていますか？また、新たな課題を見出していますか？

日本の国土について次のことがわかりました。
・ユーラシア大陸の東に位置している。
・海に囲まれている。
・４つの大きな島のほかにもたくさんの島がある。
また、世界の国々と比べると海岸線が長いのは、島国であることと関係していることがわかりました。

海のない国では、どのような生活をしているのだろう？

島国である日本ではどのような生活をしているのかな？

「第５学年　２内容(1)ア(イ)　我が国の国土の様子と国民生活」の学習へ

児童が、社会的事象の見方・考え方を働かせて、学習問題を追究する問題解決的な学習過程の工夫をしよう！

教育課程実施状況調査 小学校 理科

実施生徒数（人）	設問数（問）	県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
585人	30問	56.9	61.1	−4.2

		県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
領域	物質・エネルギー	50.8	55.0	−4.2
	生命・地球	59.6	63.8	−4.2
観点	知識・技能	62.9	67.1	−4.2
	思考・判断・表現	51.0	55.2	−4.2
	主体的に学習に取り組む態度	54.7	58.7	−4.0
解答形式	選択式	62.3	66.6	−4.3
	短答式	54.1	58.2	−4.1
	記述式	39.0	42.8	−3.8

設問別正答率

通し番号	解答形式	観点			領域		問題の内容	出題のねらい	県正答率（%）	全国正答率（%）	全国との差（ポイント）
		知	思	態	物工	生命・地球					
1	選択	◎				◎	天気の変化	春の頃の日本付近では、雲がおよそ西から東へ動くことを理解している。	50.6	63.9	−13.3
2	選択		◎			◎		雲の動きと天気の変化の関係について、判断するために必要な情報を指摘できる。	43.9	47.8	−3.9
3	短答	◎				◎		台風について理解している。	79.8	84.1	−4.3
4	選択		◎	◎		◎		雨や風のようすの変化と雲画像から、住んでいる地域を指摘できる。	87.2	89.0	−1.8
5	短答	◎				◎	魚のたんじょう	メダカの雌雄を区別し、メダカにたまごをうませるためには、おすとめすが必要であることを理解している。	82.6	87.9	−5.3
6	選択	◎				◎		メダカのたまごの中の変化のようすを理解している。	86.2	89.4	−3.2
7	選択	◎				◎		孵化したばかりの子メダカの育ち方を理解している。	86.7	87.0	−0.3
8	短答	◎				◎	人のたんじょう	人の受精卵について理解している。	74.5	76.5	−2.0
9	選択	◎				◎		母体の中での胎児の成長のしかたや育つ期間を理解している。	86.8	92.2	−5.4

10	短答	◎				◎	植物の花のつくりと実	受粉について理解している。	72.3	78.3	−6.0
11	短答		◎			◎		タンポポの花のつくりから、アサガオと共通するつくりを推測できる。	14.0	16.6	−2.6
12	選択		◎			◎		アサガオとタンポポの花のつくりの共通点を指摘できる。	60.0	64.9	−4.9
13	短答	◎				◎	流れる水のはたらき	運搬のはたらきについて理解している。	79.8	80.6	−0.8
14	短答		◎	◎		◎		川原の石の大きさや形について、予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想できる。	69.2	76.3	−7.1
15	選択		◎			◎		川の曲がったところにおける侵食のはたらきについて理解し、実際に行われている防災の工夫に適用できる。	51.5	58.8	−7.3
16	記述		◎	◎	◎		物のとけ方	実験における条件制御の誤りを指摘し、説明できる。	52.5	53.1	−0.6
17	選択		◎		◎			グラフを読み、食塩とミョウバンの水へのとけ方について指摘できる。	77.1	80.5	−3.4
18	選択		◎		◎			水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法について指摘できる。	32.6	35.5	−2.9
19	短答	◎				◎	けんび鏡の使い方	スライドガラスについて理解している。	23.4	26.1	−2.7
20	選択	◎				◎		顕微鏡の使い方を身に付けている。	56.4	58.1	−1.7
21	短答	◎				◎		顕微鏡の倍率の求め方を理解している。	38.8	36.2	2.6
22	選択	◎			◎		電流のはたらき	電流の流れる向きと電磁石の極の関係について理解している。	65.0	67.4	−2.4
23	選択		◎		◎			電磁石のはたらきについて調べるための対照実験を構想できる。	69.4	81.7	−12.3
24	記述		◎	◎	◎			電磁石の性質を実際に利用されているものに適用し、説明できる。	21.0	29.3	−8.3
25	短答	◎			◎		ふりこのきまり	ふりこの1往復する時間の求め方を身に付けている。	14.2	14.2	0.0
26	選択		◎		◎			ふりこの1往復する時間について、予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想できる。	56.8	60.5	−3.7
27	選択		◎		◎			ふりこの実験における条件制御の誤りを指摘できる。	68.5	72.4	−3.9
28	短答	◎				◎	植物の発芽と成長	でんぷんについて理解している。	46.3	63.9	−17.6
29	選択		◎			◎		どんぐりの養分について仮説を立て、問題を解決する実験の方法を構想し、指摘できる。	17.6	16.0	1.6
30	記述		◎	◎		◎		植物の成長と日光の関係について実際の植生に適用し、説明できる。	43.6	46.0	−2.4

【観点について】
（知）知識・技能、（思）思考・判断・表現、（態）主体的に学習に取り組む態度
【領域について】
（物工）物質・エネルギー、（生命・地球）生命・地球

成果及び課題が見られる設問は、主に「県正答率」「全国正答率との差」を踏まえて、取り上げています。

【成果が見られる設問】

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
7	86.7	87.0	選択	−0.3
問題の内容	魚のたんじょう			
出題のねらい	孵化したばかりの子メダカの育ち方を理解している。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
4	87.2	89.0	選択	−1.8
問題の内容	天気の変化			
出題のねらい	雨や風のようすの変化と雲画像から、住んでいる地域を指摘できる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
13	79.8	80.6	短答	−0.8
問題の内容	流れる水のはたらき			
出題のねらい	運搬のはたらきについて理解している。			

【課題が見られる設問】
☆次のページに、通し番号24「電流のはたらき」の言語活動における改善ポイントを提示

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
28	46.3	63.9	短答	−17.6
問題の内容	植物の発芽と成長			
出題のねらい	でんぷんについて理解している。			
授業改善の手立て	発芽と種子の養分との関係について見いだした問題を解決するために、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、実験を行い、植物は種子の中の養分を基にして発芽することを捉えるようにする。また、複数の対象（植物）について調べ、調べたことを関係付けることができるようにする。1人1台端末を活用し、撮影した映像やインターネットの情報等を共有し、実際に調べたことを整理しながら、科学的な言葉についての理解を図っていくことが考えられる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
23	69.4	81.7	選択	−12.3
問題の内容	電流のはたらき			
出題のねらい	電磁石のはたらきについて調べるための対照実験を構想できる。			
授業改善の手立て	問題解決の過程の中で、学年を通して育成を目指す問題解決の力に着目する。「差異点や共通点を基に、問題を見いだす力」「既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力」「予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力」「より妥当な考えをつくりだす力」の中で「予想や仮説を基に、解決の方法を発想する力」を育成する手立てとして、実験計画の立案をクラウド上で共有し、それらを比較する中で他者の考えを受け、制御すべき要因と制御しない要因を区別し、計画を検討する学習活動が考えられる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
24	21.0	29.3	記述	−8.3
問題の内容	電流のはたらき			
出題のねらい	電磁石の性質を実際に利用されているものに適用し、説明できる。			
授業改善の手立て	問題解決を通して習得した知識と、日常生活との関連を考える場面を設定する。例えば、生活の中で電磁石の性質を利用したものについて調べ、まとめたものをクラウド上で共有し、学級全体で閲覧することができるようにしておく。そのことで、電磁石はコイルに電流が流れている間だけ磁石の性質をもつことなど、電磁石の性質についての理解を図っていくことが考えられる。			

こんな姿をめざしたい!!



習得した知識を日常生活との関わりの中で捉え直し、より深く理解する児童

課題の見られる設問　8　（3）

- 電磁石の性質を実際に利用されているものに適用し、説明する問題。
- 電磁石のはたらきについて調べるために対照実験を構想できるかを問う問題。

分析と課題

- 習得した知識を次の学習や生活などに生かすことや、科学的な言葉や概念を理解して説明することに課題が見られる。
- 知識及び技能の定着に課題が見られる。

課題改善のために…

○表現（アウトプット）の機会を充実させる。その際に、科学的な言葉を用いることができるように留意する。
○複数の対象にふれ、関連付けることのできる機会を設定する。

日々の学習における改善・充実

高学年の学習で


「私たちの生活に電気は欠かすことができないね。」


「電気をむだなく使うことは大切だね。」


「私たちの身のまわりには、プログラミングを利用しているものがあります。みなさん知っていますか。」

公園の街灯は、夕方になるとあかりがつくね。

うちの車のライトも、夕方暗くなるとつくって、聞いたことがある。

公民館にあるトイレに入ると、勝手にあかりがつくね。



家の庭にあるライトも、人が近づくとつくよ。

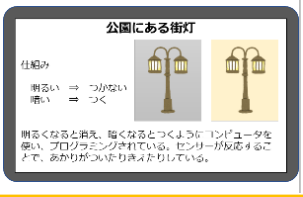
駅にあるエスカレーターは、普段はとまっているけど、人が近づくと突然動き出すよ。

私たちの身のまわりには、プログラミングを利用しているものが、たくさんありそうですね。

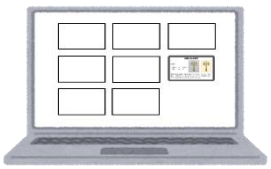
それらはどのようにプログラムされているのでしょう？調べて、まとめてみましょう！

児童それぞれが調べ、端末にまとめたものの例





児童それぞれが調べたものを端末にまとめてみると




私は、公園にある街灯について調べてみたよ。
友達は、どんなものを調べたのかな。それはどのようにプログラムされていたのかな。

○○さんは自動車のライトについて、調べているな。似ているところがあるな。

◇◇さんと□□さんは、駅のエスカレーターを調べているな。人が近づくと動き出すんだ。

△△さんは、公民館のトイレについて調べているぞ。どんな仕組みなのか聞いてみよう。


私たちのまわりには、プログラミングを利用しているものがたくさんありましたね。同じところや似ているところ、違うところはありますか？

いろいろなセンサーが使われているね。

コンピュータを使ってプログラミングしているんだね。



それによって、電気は効率的に使われているんだね。

明るさに反応するセンサーや人に反応するセンサーがあるよ。他にもセンサーはあるのかな。

センサーとコンピュータを利用してプログラミングし、効率的に電気を使うように工夫されているものもある。



ここがPOINT

○表現（アウトプット）する活動を設定し、既習の科学的な言葉を使い表現するように留意する。何度も活用することで、定着を図る。
○複数の対象に触れることができるように工夫し、それらを関連付け、より深く理解できるようにする。

表現（アウトプット）する機会を充実させよう！
複数の対象に触れ、関連付けて考えさせよう！



教育課程実施状況調査 中学校 社会

実施生徒数（人）	設問数（問）	県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
557人	28問	53.3	54.5	−1.2

		県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
領域	地理	55.7	55.9	−0.2
	歴史	50.6	52.8	−2.2
観点	知識・技能	59.6	60.9	−1.3
	思考・判断・表現	43.7	44.5	−0.8
	主体的に学習に取り組む態度	44.5	46.5	−2.0
解答形式	選択式	58.2	59.0	−0.8
	短答式	43.7	45.7	−2.0
	記述式	33.3	35.5	−2.2

設問別正答率

通し番号	解答形式	観点			領域		問題の内容	出題のねらい	県正答率（%）	全国正答率（%）	全国との差
		知	思	態	地	歴					
1	選択	◎			◎		日本の地域的特色と地域区分	日本の地形の特色について理解している。	71.6	71.3	0.3
2	選択		◎		◎			日本の気候の特色について考察している。	63.6	60.2	3.4
3	短答	◎			◎			日本の資源・エネルギーにかかわる課題について理解している。	88.0	86.9	1.1
4	選択		◎	◎	◎			日本の人口や産業について、複数の資料をもとに判断している。	65.7	65.5	0.2
5	選択	◎			◎		日本の諸地域	九州地方、近畿地方、中部地方の地形について理解している。	80.8	77.4	3.4
6	選択		◎		◎			日本の各地方の産業について考察している。	32.9	35.7	−2.8
7	短答	◎			◎			日本の過疎問題の解決に向けた取り組みについて理解している。	68.0	66.5	1.5
8	記述		◎	◎	◎			日本の交通と産業の関係について、複数の資料をもとに考察し、表現している。	58.3	59.5	−1.2
9	選択	◎		◎	◎		地域調査の手法	八方位の理解をもとに、地形図を読み取っている。	73.1	80.1	−7.0
10	短答	◎			◎			縮尺について理解している。	44.9	41.6	3.3

11	選択	◎			◎		地域調査の手法	地形図を読み取っている。	82.2	82.0	0.2
12	選択		◎	◎	◎			地形図から読み取れる地形の特色について、資料をもとに考察している。	59.8	61.8	−2.0
13	選択	◎				◎	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	鉄砲の伝来について理解している。	85.1	85.8	−0.7
14	選択	◎				◎		宗教改革について理解している。	46.0	47.5	−1.5
15	選択		◎	◎		◎		織田信長・豊臣秀吉の統一事業の共通点について、資料に着目して考察している。	53.3	55.2	−1.9
16	選択	◎				◎		桃山文化について理解している。	62.1	58.5	3.6
17	短答	◎				◎	江戸時代	江戸時代を代表する文化について理解している。	29.8	41.0	−11.2
18	選択	◎				◎		三都の繁栄について理解している。	70.2	66.9	3.3
19	選択	◎				◎		アイヌの人々との交易について理解している。	53.9	56.7	−2.8
20	短答	◎				◎		工場制手工業について理解している。	13.6	19.3	−5.7
21	選択		◎	◎		◎		開国による日本の社会への影響について、複数の資料をもとに判断している。	44.2	45.8	−1.6
22	選択	◎				◎	明治時代	明治政府の諸改革について理解している。	51.0	56.3	−5.3
23	選択		◎			◎		樺太・千島交換条約に関して、当時確定した国境を資料をもとに判断している。	56.4	55.5	0.9
24	選択	◎				◎		西南戦争が起こった背景について理解している。	43.8	49.9	−6.1
25	選択	◎				◎		立憲制国家の仕組みについて、資料を読み取っている。	49.0	48.3	0.7
26	短答		◎	◎	◎		日本の地域的特色と地域区分	日本の産業についての理解をもとに、日本の交通の特色について、複数の資料をもとに考察している。	17.8	18.9	−1.1
27	記述		◎	◎	◎		日本の諸地域	関東地方の人口と通勤の関係について、複数の資料をもとに考察し、表現している。	8.3	11.5	−3.2
28	選択		◎	◎	◎			日本の各地方の産業等について、資料をもとに考察している。	20.1	20.3	−0.2

【観点について】
（知）知識・技能、（思）思考・判断・表現、（態）主体的に学習に取り組む態度
【領域について】
（地）地理、（歴）歴史

成果及び課題が見られる設問は、主に「県正答率」「全国正答率との差」を踏まえて、取り上げています。

【成果が見られる設問】

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
2	63.6	60.2	選択	3.4
問題の内容	日本の地域的特色と地域区分			
出題のねらい	日本の気候の特色について考察している。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
16	62.1	58.5	選択	3.6
問題の内容	ヨーロッパ人との出会いと全国統一			
出題のねらい	桃山文化について理解している。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
18	70.2	66.9	選択	3.3
問題の内容	江戸時代			
出題のねらい	三都の繁栄について理解している。			

【課題が見られる設問】
☆次のページに、通し番号24「明治時代」に関連した授業例を提示

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
17	29.8	41.0	短答	−11.2
問題の内容	江戸時代			
出題のねらい	江戸時代を代表する文化について理解している。			
授業改善の手立て	文化に関する人物や作品等の伝達ではなく、「産業の発達と文化の担い手の変化」などに着目して課題（問い）を設定し、個々の生徒が、都市を中心とした経済が形成されていく中で、日本の文化の空間的な広がりが生み出され、それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや、生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴などを考察し、その結果を表現する活動などを工夫して、町人文化が大阪・京都・江戸などの都市を舞台に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことの理解を目指すという展開が考えられる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
24	43.8	49.9	選択	−6.1
問題の内容	明治時代			
出題のねらい	西南戦争が起こった背景について理解している。			
授業改善の手立て	歴史的事象や関連する語句の伝達ではなく、「明治政府の諸改革の目的」などに着目して課題を設定し、個々の生徒が、明治政府の諸改革の背景や、明治政府の諸改革が、政治や文化、人々の生活に与えた影響を考察し、その結果を表現する活動などを工夫して、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことの理解を目指すという展開が考えられる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
27	8.3	11.5	記述	−3.2
問題の内容	日本の諸地域			
出題のねらい	関東地方の人口と通勤の関係について、複数の資料をもとに考察し、表現している。			
授業改善の手立て	地理的事象や関連する語句の伝達ではなく、人口や都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象を中核として、それを個々の生徒が、地形や気候、そこで暮らす人々の生活・文化、都市が発展した歴史的背景、産業、交通・通信網などと関連付けて、複数の資料を多面的・多角的に調べ、考察し、その地域の地域的特色や地域の課題の理解を目指すという展開が考えられる。			

こんな姿をめざしたい!!



自ら課題を見出し、学習を調整しながら追究する生徒

課題の見られる設問　6（3）7（2）

- 明治時代における西南戦争が起こった背景について理解し、選択する問題。
- 関東地方の人口と通勤の関係について、複数の資料をもとに考察し、表現する問題。

分析と課題

- 社会的事象の意味や背景の理解に課題が見られる。
- 複数の資料をもとに考察し、表現することに課題が見られる。

課題改善のために…
○身に付けさせたい資質・能力の明確化
○社会的な見方・考え方を働かせた問題解決的学習の実施
- 課題設定の工夫
- 学習者主体の学びの視点からの学習過程の工夫

日々の学習における改善・充実

歴史的分野の学習で…

※本時例は、学習指導要領歴史的分野C（1）ア(イ)を基に単元を構成した際の、単元中の1時間を想定したものである。学習指導要領で示された理解項目の習得のためには単元全体をデザインする等、系統的な視点も重要である。（R4「授業改善のpoint」参照）

授業改善のPOINT

これは西郷隆盛と新政府との戦いの様子なのですが…

えっ？西郷隆盛って新政府の中心となったって、小学校で学んだ気がするけれど…

明治時代になって士族の生活に何か変化があったのかな。

なぜ、江戸幕府を倒す主力であった士族が新政府に反乱を起こしたのだろう？

※児童一人一人が別の課題に取り組むような展開も考えられる。（学力調査を踏まえた授業力アップ研修会」資料参照）

教科書には、「新政府への不満」と書いてある。不満についてまとめてみよう。

西郷隆盛の他にも士族の反乱が起こったのかいくつかの資料を比較して調べてみよう。

あっ！○○さんのこの記述、参考にさせてもらおう。

私は調べ、まとめ終わったから、インターネットを使って調べたことが正しいか根拠になる資料を探して比較して確かめてみよう。

教科書で調べてみたけれど、征韓論を反対された西郷隆盛は新政府を去っていたんだって。

なぜ征韓論は反対されたのかな？新政府を去ったのは西郷隆盛だけ？

調べたことを友達に説明していたら、自分の理解が十分でないところが見えてきました。もう一度まとめを見直してみよう。

士族の反乱が多く起こったのはどのような時期でしょうか？

新政府はどのような国づくりを目指していましたか？

そのことを確かめるにはどのような資料が必要でしょうか？

調べてみて、新政府の政策により、士族は帯刀を禁じられ、俸禄が廃止されるなど、これまでの特権が奪われ、生活に困る者がでてきたことがわかった。また、征韓論をめぐり西郷隆盛や板垣退助は新政府を去ったこともわかった。このような新政府への不満や新政府内での対立が士族の反乱の背景にあることがわかりました。

士族以外は新政府のことをどう思っていたのかな？

板垣退助は新政府に対して何か行動を起こしたのかな？

「歴史的分野 C(1)ア(ウ)」議会政治の始まりと国際社会との関わり」の学習へ

生徒は課題意識をもっていますか?

生徒が課題の解決を目指して資料を活用して追究していますか?

生徒が協働的な学びから自らの学びを振り返り，調整しようとしていますか?

生徒は課題追究を通して理解できていますか?また、新たな課題を見出していますか?

生徒の疑問を引き出す工夫をしていますか？

生徒とともに、理解させたいことにつながる単元の学習問題や各時間の学習課題を設定していますか？

情報収集、読み取り、まとめ等の指導を積み重ねた上で、学習活動を生徒に委ねてみませんか？

「見方・考え方」等の追究の視点や方法についての指導を積み重ねていますか？

生徒が、社会的な見方・考え方を働かせて、課題を追究したり解決したりする学習過程の工夫をしよう！

教育課程実施状況調査 中学校 理科

実施生徒数（人）	設問数（問）	県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
556人	32問	47.4	48.6	−1.2

		県正答率（%）	全国正答率（%）	県−全国正答率（ポイント）
領域	エネルギー	42.1	44.9	−2.8
	粒子	54.7	53.7	1.0
	生命	56.3	57.2	−0.9
	地球	34.6	37.0	−2.4
観点	知識・技能	55.5	56.1	−0.6
	思考・判断・表現	38.2	40.0	−1.8
	主体的に学習に取り組む態度	41.6	42.9	−1.3
解答形式	選択式	50.1	50.6	−0.5
	短答式	45.1	47.3	−2.2
	記述式	33.1	36.8	−3.7

設問別正答率

通し番号	解答形式	観点			領域				問題の内容	出題のねらい	県正答率（%）	全国正答率（%）	全国との差（ポイント）
		知	思	態	エネルギー	粒子	生命	地球					
1	選択	◎		◎		◎			物質の成り立ち	酸化銀を加熱する実験を終えて、ガスバーナーの火を消す際の注意点を理解している。	56.3	54.5	1.8
2	選択	◎				◎				金属の性質を理解している。	62.9	60.6	2.3
3	短答	◎				◎				酸化銀を加熱すると、酸素が発生することを理解している。	41.0	36.3	4.7
4	短答	◎				◎			化学変化	酸化について理解している。	79.3	80.1	−0.8
5	選択		◎			◎			化学変化と物質の質量	銅と酸化銅の質量の関係を指摘できる。	46.6	46.9	−0.3
6	短答	◎					◎		生物と細胞	細胞の核について理解している。	79.0	81.5	−2.5
7	選択		◎				◎			植物の細胞を正しく選んでいる人を指摘できる。	53.2	53.4	−0.2
8	選択		◎				◎		動物のからだのつくりとはたらき	腹式呼吸のしくみを推測できる。	50.7	49.6	1.1
9	選択	◎					◎			赤血球について理解している。	85.4	86.1	−0.7
10	選択		◎				◎		動物のからだのつくりとはたらき	アキレスけんを切ったときの足の状態を推測できる。	41.5	42.0	−0.5
11	選択	◎					◎			耳が受け取った刺激による反応が起こるときの信号の伝わり方を理解している。	76.4	74.5	1.9

12	短答		◎					◎	気象の観測	気温と飽和水蒸気量の表から、空気中にふくまれる水蒸気量を推測できる。	20.9	23.8	−2.9
13	記述		◎	◎				◎		空気中にふくまれる水蒸気量が同じときに湿度が高くなる理由を説明できる。	23.4	30.7	−7.3
14	選択	◎						◎		気圧と圧力、質量と重力の関係を理解している。	15.5	16.8	−1.3
15	選択		◎					◎		単位に注意して、圧力を求める式を立てることができる。	36.5	38.6	−2.1
16	選択	◎						◎	前線の通過と天気の変化	温帯低気圧が伴う前線と、寒冷前線と温暖前線の進み方のちがいについて理解している。	42.6	46.5	−3.9
17	選択	◎						◎		寒冷前線のようすを理解している。	48.4	51.0	−2.6
18	選択	◎						◎	日本の気象	天気図記号を正しく読み取ることができる。	41.4	39.9	1.5
19	選択		◎	◎				◎		雲画像から、そのときの天気図を推測できる。	48.4	48.4	0.0
20	短答	◎			◎				電流の性質	抵抗の大きさがわかっている電熱線に電圧を加えたときの電流の大きさの求め方を理解している。	38.1	44.0	−5.9
21	短答		◎		◎					電熱線のつなぎ方と抵抗の大きさの関係と、電圧・電流の関係を表したグラフの傾きについて指摘できる。	17.3	20.0	−2.7
22	短答		◎		◎					消費した電力量を求める式のまちがっている部分を指摘できる。	45.3	51.8	−6.5
23	選択	◎			◎				電流と磁界	電磁誘導について理解している。	54.3	49.0	5.3
24	選択		◎		◎					磁石の向きや動きと誘導電流の流れる向きの関係から、発光ダイオードが点灯する条件を推測できる。	27.7	27.7	0.0
25	選択	◎			◎				電流の正体	電子や静電気について理解している。	70.1	72.4	−2.3
26	短答	◎			◎					放電について理解している。	41.7	49.4	−7.7
27	短答		◎			◎			化学変化と物質の質量	化学反応式から発生した気体を判断し、化学変化前後の質量の変化について推測できる。	27.0	30.0	−3.0
28	短答	◎				◎			化学変化	吸熱反応について理解している。	70.0	65.1	4.9
29	選択		◎			◎			化学変化と物質の質量	化学変化で反応する物質の質量の割合が決まっていることを指摘できる。	54.3	56.2	−1.9
30	選択	◎					◎		植物のからだのつくりとはたらき	双子葉類の茎の断面の維管束の並び方と道管について理解している。	40.3	46.5	−6.2
31	記述		◎	◎			◎			蒸散のはたらきを説明できる。	42.8	42.9	−0.1
32	短答		◎	◎			◎			単位面積あたりの蒸散量を求め、比較することができる。	37.1	38.0	−0.9

【観点について】
（知）知識・技能、（思）思考・判断・表現、（態）主体的に学習に取り組む態度
【領域について】
（エネルギー）エネルギー、（粒子）粒子、（生命）生命、（地球）地球

成果及び課題が見られる設問は、主に「県正答率」「全国正答率との差」を踏まえて、取り上げています。

【成果が見られる設問】

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
3	41.0	36.3	短答	4.7
問題の内容	物質の成り立ち			
出題のねらい	酸化銀を加熱すると、酸素が発生することを理解している。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
23	54.3	49.0	選択	5.3
問題の内容	電流と磁界			
出題のねらい	電磁誘導について理解している。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
28	70.0	65.1	短答	4.9
問題の内容	化学変化			
出題のねらい	吸熱反応について理解している。			

【課題が見られる設問】
☆次のページに、通し番号13「気象の観測」の言語活動における改善ポイントを提示

通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
13	23.4	30.7	記述	−7.3
問題の内容	気象の観測			
出題のねらい	空気中にふくまれる水蒸気量が同じときに湿度が高くなる理由を説明できる。			
授業改善の手立て	湿度についての知識・技能を習得することを目的とせず、雲や霧と湿度の関係や洗濯指数と湿度の関係など、それぞれが調べたことを共有し理解を深めたり、図やモデルを活用しながらプレゼンテーションしたりすることで、生徒を主語にした授業展開にすることが考えられる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
14	15.5	16.8	選択	−1.3
問題の内容	気象の観測			
出題のねらい	気圧と圧力、質量と重力の関係を理解している。			
授業改善の手立て	圧力や気圧の定義を理解したり、計算方法を習得したりするだけでなく、天気予報で使用される数値や単位との関係を調べたり話し合ったりすることで、探究の過程を進める展開が考えられる。他者との対話を通して、自分の考えを修正したり、より確かなものにしたりするほか、知識や技能を活用する機会をつくることができる。			
通し番号	県正答率（%）	全国正答率（%）	出題形式	全国正答率との差（ポイント）
22	45.3	51.8	短答	−6.5
問題の内容	電流の性質			
出題のねらい	消費した電力量を求める式のまちがっている部分を指摘できる。			
授業改善の手立て	電力量の定義や関係式を覚えることを目的とせず、量的・関係的な視点で捉え、電気エネルギーの量が何により変化するのか探究する展開を考える。また、探究の過程において結果が予想と異なったときに、結果の意味を振り返り、検討し、探究の過程の見通しをもつことができるようにする。			

こんな姿をめざしたい!!



身近な事象から問題を見いだし課題を設定することができる生徒

課題の見られる設問　6（１）

- 気温と飽和水蒸気量の表から、空気中に含まれる水蒸気量を求める問題。
- 空気中に含まれる水蒸気量が同じときに湿度が高くなる場合の理由を説明する問題。

分析と課題

- 情報を整理し、知識を活用することに課題が見られる。

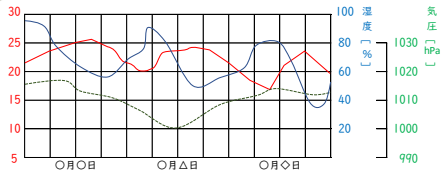
課題改善のために…

〇これまで得た知識を身近な現象に当てはめ、関係性を調べ、議論し、生徒が自分自身の言葉で説明する機会をつくる。

〇生徒が「不思議」「なぜ」と感じたり、生徒の素朴概念とずれを生じさせたりする場面を設定する。

日々の学習における改善・充実

2学年の学習で…





T:教科書にはこのようなグラフが紹介されていますが、気象庁の Web サイトには身近な観測地のデータが公開されています。

河口湖（山梨県）2023年8月5日 （1時間ごとの値）

時	気圧 (hPa)	降水量 (mm)	気温 (℃)	露点温度 (℃)	湿度 (%)	風向・風速(m/s) 風速	風向	日照時間 (h)	天気
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
5	912.5	---	21.8	20.8	94			0	①
6	912.7	---	22.6	20.7	89				
7	912.6	---	23.6	20.2	81				
8	912.4	---	26.0	20.1	70	1.9	北北西		
9	912.3	---	27.9	20.7	65	1.5	北北東		
10	912.2	---	29.6	19.6	55	3.1	西北西		
11	911.9	---	30.8	19.8	52	3.6	西北西		
12	911.6	---	28.5	20.0	60	2.7	西南西		
13	911.0	---	28.0	20.8	65	2.5	南東	0	◎
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

時	気温 (℃)	露点温度 (℃)	湿度 (%)
5	21.8	20.8	94
13	28.0	20.8	65



S:そうそう、あの日は暑かったよね。グラフより詳しい数値が見えるね。

S:学園祭の頃にきた台風はどんな記録になっているんだろう。



S:同じ露点温度でも湿度は違うんだね。





S:本当に湿度がこんなに変わるのか確かめる方法はあるかしら。

S:「露点温度が同じときの湿度の違いはどのような規則性があるか。」考えてみたいわ。

S:モデル図を使って考えてみようかな。



S:表計算ソフトで何パターンも計算してみよう。

S:みんなに伝わりやすいまとめ方を工夫しましょう。

◎問題を見いだすための適切な事象を選択すること、これまでの学習を使い、生徒が解決可能な課題を設定することが必要です。

◎　ＩＣＴ機器の共同編集の機能を活用することで、より多くの情報を伝達し合えるようになり、グループの考えをまとめやすくなります。

身近な現象から問題を見いだし、適切に課題づくりができる学習場面を設定し、ファシリテートしよう。

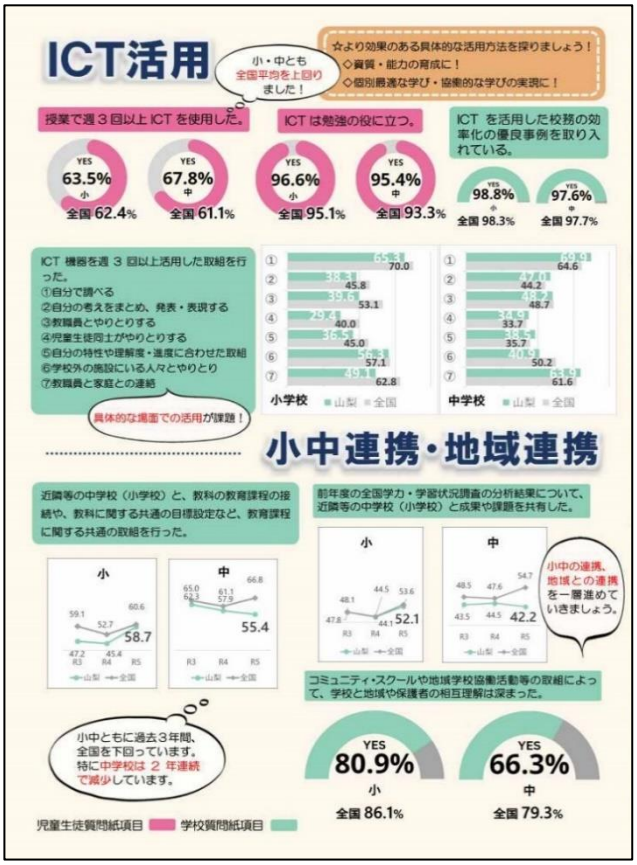


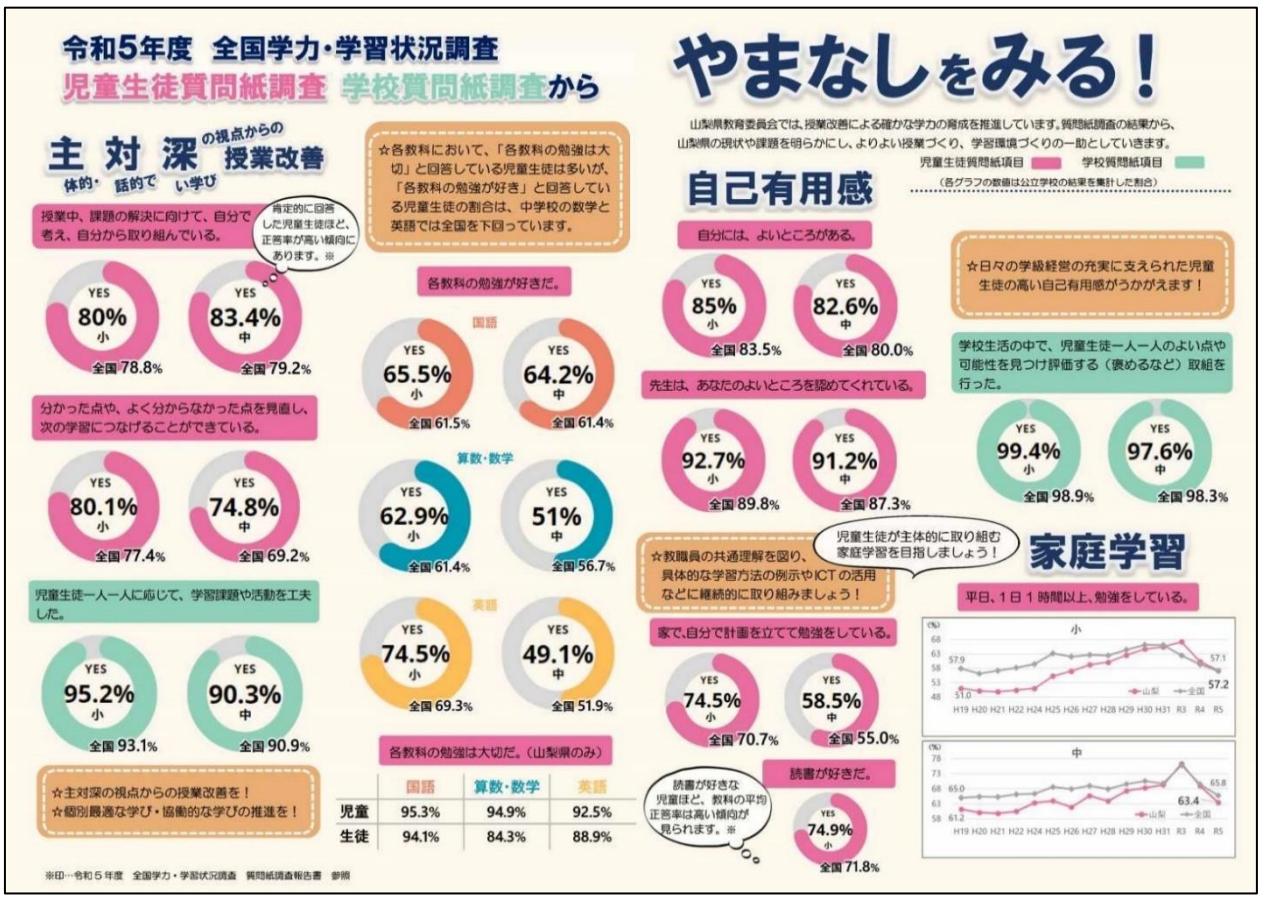
全国学力・学習状況調査
質問紙調査について



児童生徒と学校を対象とした学習や生活に関する様々な面についての調査結果をまとめました。







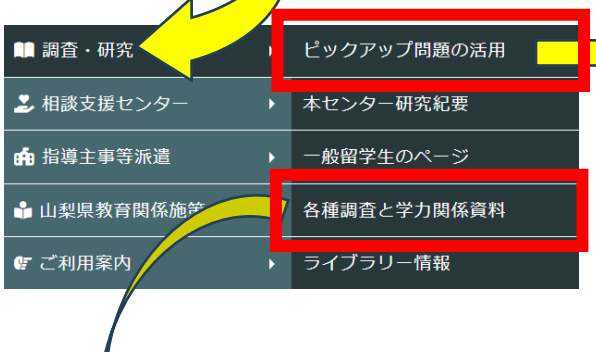
※上記の質問紙リーフレット「いいじゃん！やまなし２３」を各学校３部ずつ配付しています。また校務支援キャビネットと総合教育センターホームページにも掲載していますので、ご活用ください。

授業改善・充実に向けて、ご活用いただくための資料を配信します！

総合教育センターホームページ

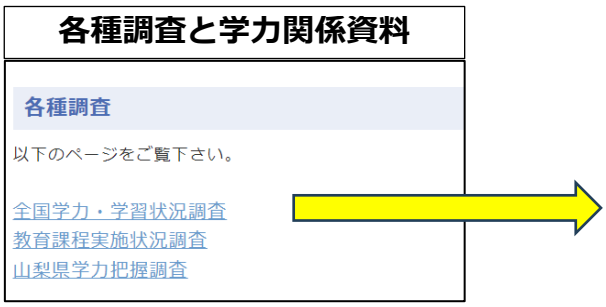


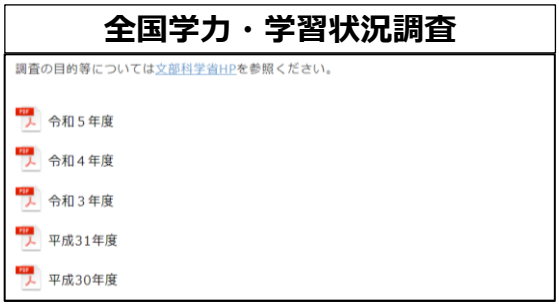






「ピックアップ問題」は、各種学力調査（全国学力・学習状況調査、県学力把握調査、教育課程実施状況調査）の結果を踏まえ、調査問題から問題を選び、授業や短時間の学習で活用できるようまとめたものです。各学校で活用してください。





校務支援システム

センターでは、各種学力調査（全国学力・学習状況調査、県学力把握調査、教育課程実施状況調査）の結果を踏まえ、授業改善・充実に向けた説明会を実施したり、リーフレットや冊子を作成したりしています。それらを、校務支援システムのキャビネットからダウンロードできるようにしています。各自でダウンロードできますので、授業改善・充実に向けて参考にしてください。

「キャビネット」→「総合教育センター」→「調査研究課」のフォルダに、資料があります。



子供たちのよりよい学びのために



令和５年度　　授業改善の Point

発　　行　　令和5年10月
編 集 所　　山梨県総合教育センター
　　調査研究課

〒406-0801
山梨県笛吹市御坂町成田1456
TEL　055-262-6180(直)

本冊子は、山梨県総合教育センターホームページに掲載しています。